

2018年度 年報

Annual Report 2018



大阪大学国際教育交流センター

Center for International Education and Exchange, Osaka University

巻 頭 言

大阪大学国際教育交流センター長

有 川 友 子

国際教育交流センターは、平成22年4月の留学生センターからの改組以降も、大阪大学の国際化に引き続き貢献し、質の高い留学生教育交流支援を目指すという大きな目標のもと、4WD（日本語教育研究、短期プログラム開発研究、交流アドバイジング研究の3チーム＋サポートオフィス）体制にて各種活動に積極的に取り組んでおります。この度、平成30年度の活動につきまして報告いたします。最初に本年度のトピックス、その後各活動について詳細に報告しております。6月に発生した地震と大雨とその対応も報告しております。

大阪大学の外国人留学生数は平成30年5月1日現在で2,480名となりました。近年の留学生数の増加とともに多様化が進む中、留学生に関わる教育支援活動、また海外派遣の推進に関わる各種プログラムにつきましても多様化が進んでおります。更に留学生のキャリア支援やキャリア教育に関わる各種取組や学内外との連携協力も進んでおります。

国際教育交流センターは、新たなニーズに応えるべく様々な新たな活動につきまして積極的に取り組むとともに、これまでと変わらず重要である全大阪大学のニーズに柔軟に対応した教育、各種交流や支援に関わる活動、各教員の専門分野に応じた研究活動を行っております。

例えば大阪大学の全留学生の約8割の2,000名弱の留学生が、本センター日本語教育研究チームによる多様なニーズに対応した各種日本語科目を受講中もしくは受講経験をもっております。今後留学生数が更に増えることが見込まれる中、日本語教育の質を保ちながら、改革にも取り組み、例えば「OU日本語ひろば」の開設準備を進めてきました。また本センターの短期プログラム開発研究チームは通常の学期をベースとした交換留学に加えて、米国カリフォルニア大学や豪州の協定校の学生を主な対象とした短期間のJ-ShIPや超短期プログラムを開発し先駆的に実施してきた実績を持っております。また受入だけでなく、交換留学や短期研修プログラム等、また本学学生の派遣についても全学的な立場から相談対応や支援、コーディネートを行っております。更に交流アドバイジング研究チームはIRIS（留学生交流情報室）をベースに、留学生相談対応は勿論、学生間交流、地域との交流等、関係部局等と緊密な連携とネットワークを活用して活動を行っております。そしてサポートオフィスは外国人留学生と研究者受け入れに関わり、主にビザに関わる支援と宿舎情報提供を全学的に行ってきました。

大阪大学において留学生数の増加とともに各種コースやプログラムの多様化が進む中で、留学生・一般学生に関わる教育交流支援の質の保証が益々重要となっております。留学生が大阪大学の学生として教育研究を含む各種活動について日本人など一般学生と同じ機会を持つこと、言語文化等多様な背景をもつ留学生に対して大学として必要なサポートを充実させていくこと、いずれも不可欠です。

これからも関係部署と連携しつつ、国際教育交流センターは留学生中心の部局として、大阪大学の国際化に積極的に貢献してまいります。

大阪大学国際教育交流センター
2018年度 年報

目 次

巻 頭 言	1
I. 本年度のトピックス	4
1. 日本語・グローバル理解演習（JGU600）の開講が決定	4
2. OU日本語ひろばの開設	5
3. 短期プログラムの課題と展望	7
4. 2018年度 国際教育交流センタースピーチコンテスト	9
5. CIEE協議会シリーズ―多文化交流の最前線―	12
6. 大阪北部地震とその後の大雨（西日本豪雨災害）の影響とそれへの対応	16
7. 第1回国際教育交流センター公開講座	19
8. 核物理研究センターとの共同での外国人研究員等に対する日本語クラス	20
II. 現 況	24
1. 運営形態	24
2. 組 織	25
3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等	26
4. 今年度の動き	27
III. 留学生対象日本語プログラム	28
1. 日本語集中コース	29
2. 留学生日本語選択コース	34
3. 全学共通教育	35
4. 国際交流科目	37
5. 学際融合教育科目	38
IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム	39
1. 時 間 割	39
2. 学生数と進学先	40
3. 平成30年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会	40
4. 韓国教育部国際教育院および大阪韓国教育院との連携	41
5. 日韓共同理工系学部留学生事業留学推進フェア	41
V. 国際教養・専門複合型プログラム	43
1. 行 事	44
2. 2018年度 春夏学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	45
3. 2018年度 秋冬学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	48
4. OUSSEP学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数	51
5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み	52
VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム	56
1. 『超短期』プログラム	56

2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP	57
3. 『学外連携実習』 ExPERT	59
VII. 留学生支援	61
1. 生活・就学支援	61
2. 地域との連携	67
3. 留学生に対するキャリア支援	70
4. 防犯・防災の講習会等	74
VIII. 海外派遣留学支援	75
1. 海外研修・異文化体験プログラム	75
2. 海外留学オリエンテーション	78
3. 大学間交換留学数	79
4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション	81
5. 海外留学相談とアドバイス	83
IX. サポートオフィスの活動	85
1. 査証（ビザ）関連手続きの支援	85
2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援	86
3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催	86
4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催	87
5. ホームページの管理運営	87
6. 各種印刷物の改訂版作成・配布	88
X. 大学院・学部教育	89
1. 授業担当	89
2. 研究指導	95
3. 研究指導学生学位論文	97
4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ	97
XI. その他の活動	98
1. 各種行事	98
2. 海外出張・海外研修	101
3. 出版物・印刷物等（2018年5月から2019年4月まで）	103
4. 来訪者対応	104
5. にほんごテーブル	105
XII. 教員個人データ	108
資料編	
資料1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2018年度 留学生日本語プログラム 時間割 ...	144
資料2 2018年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数一覧	148
資料3-1 国際交流科目授業時間割（平成30年 春・夏学期）	150
資料3-2 国際交流科目授業時間割（平成30年 秋・冬学期）	151
資料4 日本語授業についてのアンケート	152
資料5 国際交流科目 授業アンケート（質問票）	156
資料6 国際交流科目 授業アンケート（結果）	158

I. 本年度のトピックス

1. 日本語・グローバル理解演習（JGU600）の開講が決定

2016年度および2017年度の年報で詳しく進捗状況をお伝えしてきた「日本語・グローバル理解演習」（Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600）科目の計画が実現し、2019年度秋～冬学期から開講することが決定した。開講予定科目のテーマは以下の通りである。

「生命倫理」「ヒューリスティックな知」「社会におけるプロスポーツの存在意義」

（以上3科目、2019年度秋～冬学期開講）

「外国人・移民・難民」「社会と進化系交通サービス」「言語と思考の関連性」

（以上3科目、2020年度春～夏学期開講）

ここに至るまでの経緯を簡単に振り返っておく。なお、「日本語・グローバル理解演習」開講の背景や理念、概要等については、年報（2016年度 pp.1-2、2017年度 pp.1-3）および紀要（2018年度 pp.29-34）を参照願いたい。

1. シンポジウム「内容言語統合型学習（CLIL）の実践に向けて」の開催

第10回大阪大学専門日本語教育研究協議会として大阪大学国際教育交流センターで開催し、学内30名、学外35名の参加者による活発な意見交換が行われた。（2017年2月21日（火）開催 2016年度年報 p.18に記載）

2. 「日本語・グローバル理解演習（仮称）ガイドライン（案）」の作成

日本語教育研究チーム内に日本語・グローバル理解演習（仮称）検討チームを設置し、2回のミーティング（2017年3月17日（金）と4月11日（火））を行い、科目の趣旨、考え方、内容・テーマ、課程としての位置づけなどを検討して素案を作成後、日本語教育研究チーム内で検討が繰り返され、「日本語・グローバル理解演習（仮称）ガイドライン（案）」として、2018年2月9日（金）開催の日本語教育研究チーム・ミーティングで「ガイドライン（案）」として了承された。（2017年度年報 pp.1-3に記載）

3. 日本語・グローバル理解演習科目説明会

2017年度には、6月17日（水）と同18日（木）に、非常勤講師を対象として日本語・グローバル理解演習科目説明会を開催した。会では、上記2のガイドラインを資料として、日本語・グローバル理解演習の趣旨や考え方や内容・テーマなどについて説明を行った。その上で、開講を希望する場合は、2018年3月31日までに担当まで、講義タイトルあるいはテーマをお申し出くださるよう依頼した。

4. 日本語・グローバル理解演習科目合同学習会

説明会の後に、4名の非常勤講師から5科目の日本語・グローバル理解演習科目開講の意向が出された。その4名と日本語・グローバル理解演習担当窓口専任教員（窓口専任教員の1名も2科目開講予定）で、シラバスを持ち寄って、合同学習会を行った。

第1回 2018年6月14日（木） 16:20-18:00 国際教育交流センター第3教室

第2回 2018年8月2日（木） 17:00-18:30 国際教育交流センター第3教室

5. 国際教育交流センター教授会で承認

国際教育交流センター教授会において、日本語・グローバル理解演習科目開講の承認を得た。（2018年7月27日（金））

2. OU日本語ひろばの開設

「OU日本語ひろば」は、これまで大学における日本語の学習を必要とする大学構成員に対して行われてきた日本語教育、ないしは日本語学習サポートを再構築し、大胆にオンライン化するとともに、対面での学習サポート体制も充実することによって、渡日前から、帰国ないしは国内での就職にいたる大学構成員としてのタイムラインを通じての一貫したサポートを提供するシステムを構築しようとする構想である。具体的には、「オンラインとリアルを結ぶ」をキーワードとして、従来のオンラインでの教育・学習システムと、リアル（現実）における教育実践と学習とを統合するとともに、学習者の自律学習促進するための方策を検討し、それにもとづいて、オンラインと現実に対面した状況での支援を連携させることを目標にしている。

上記のように、「OU日本語ひろば」は、オンラインとリアルの二つの側面を持つことになるが、それらはウェブアプリ「OU日本語ひろば」と、「セルフアクセス学習センター（SALC）」という二つの「場所」で実現される。以下、それぞれで実現しようとしている機能について紹介する。

(1) オンラインアプリ「OU日本語ひろば」（2018年度一部公開）

オンラインアプリの機能としては、「情報提供」と「オンライン学習リソース」の2つの機能を提供している。「情報提供」は、さらに二つの項目に分かれている。一つは日本語プログラムに関する情報提供、もう一つは、大阪大学図書館所蔵の日本語テキストおよび参考書の検索システムである。日本語プログラムの情報提供では、CIEEで提供しているプログラムの説明に加え、授業としての日本語科目を受講できない大学構成員に対しては、従来IRISで取りまとめてきた地域の日本語教室の情報も掲載することによって、それらの人たちが自分にとって有用な日本語サポートをどこで得られるかについての情報を提供している。



図1 「OU日本語ひろば」のホーム画面

「日本語テキストおよび参考書の検索システム」は、これまで「留学生図書」として、大阪大学図書館の本館および各分館に収集・所蔵されている書籍・出版物を改めて精査・厳選し、それらについて解説を付すことによって、大阪大学構成員にとって有用な（リアルの）学習リソースの検索が行えるよう、専用の図書検索システムを構築した。

一方、「オンライン日本語学習リソース」については、従来、CIEEにおいてそれぞれの日本語プログラ

ムに付随する形で個別に開発してきたオンラインコンテンツに加え、すでにインターネット等で提供されている日本語学習コンテンツを調査・厳選して、それらを統一したインターフェイスのもとで提供することにオンラインでの日本語学習が可能になるよう再構成および充実することを目的に、2017年度より調査を開始した。2018年度末には、まず情報提供の部分についてウェブアプリとしての提供を開始した。



図2 教材検索画面

(2) 「セルフアクセス学習センター (SALC) との連携 (2019年度以降)」

現在、国内外のいくつかの大学で、「セルフアクセス学習センター (SALC)」と呼ばれる、言語学習リソースの設置とその検索、学習カウンセリング、学習相手のマッチングなどを行うセンターが設置されつつある。大阪大学でも、来年度以降にマルチリンガル教育センターのもとで設置される予定のSALCを中心に、日本語の分野についても、日本の大学に在籍中の留学生、研究員などにとって、その各ステージにおいて必要となる学習サポートの整備を進める予定である。そのセンターを有効活用したり、あるいは図書館などのファシリティを利用したりして、学習者の支援活動を行うための方法論を検討し、実践する予定である。それと同時に、そこで必要となる人材 (学習アドバイザー、チューターなど) を育成し、組織化することで、オンラインとリアルの両面から学習支援を行い、その効果を検討する。

これらの計画を遂行することによって、これまで主な日本語教育の対象であった留学生のみならず、教員・研究員やその家族など、対象を広げ、広い意味で大学を構成するメンバーを支援する仕組みを考える。また、これまで日本語教育の対象としてきた留学生とは異なる学習者グループにおいて、どのような学習ニーズがあり、どのような学習スタイルが有効であるかを、実践を通して調査・検討していきたいと考えている。

3. 短期プログラムの課題と展望

短期の学生交流の活性化については学内の様々なレベルで議論されているが、基本的に派遣・受入双方についてその意義や「テコ入れ」すべきポイントと、現在やや硬直化しつつあるパラダイム変換の可能性について述べておきたい。

(1) 派遣

一般的に「本学学生を派遣する」と言う課題についてデフォルトとなっているのは1もしくは2セメスターの交換留学参加である。古典的な短期から中期の留学形態であり現在はそこに投入されている学内資源が一番多い。端的に言えば「80年代以来国際部が本来的に仕事にしている」留学形態が交換留学である。ただし派遣留学生を増やしていくために学内資源の強化とともに、資源の再配分をする事を考えても良いのではないか。

例えば「単位認定ができる協定校留学」を学内で募集し、交流協定数の範囲内を「授業料不徴収」、協定数を超過している部分については「若干の学籍管理料などをもって休学期間中の単位認定」「留学先で授業料支払い」（認定留学の戦略的組織化）といった措置をとる。それによって、現在「協定校から割り当てられた授業料不徴収枠に受動的に派遣数をあわせる」というパラダイムから、より積極的に派遣を拡大できる可能性がある。学生が行きたいところに（自分で費用負担しても構わないから）行かせる、という枠組みは、阪大ならではの「攻め」の姿勢になるだろう。またこういったスキームであれば、認定留学のエージェント等とも連携することで、国際部や本センターが一義的に行っているコンサルタントや学生管理などの業務を一部外出しすることも可能になる。

既にサマースクールなどでは企画や運営に全面的に関わっていく体制から、必要スペックを提示する企画・設計へと教職員の役割が変わりつつある。もちろん効率化だけに走って丸投げとなることは避けなければならないものの、限られた人員の中でより効率的に「数」を求めなければならないのであれば、センター教員や国際部職員は「渉外・調査・調査および企画」により重点を置く方向は一考に値すると考えている。学生の「お世話」から、より制度的な整備に注力する方向性を考えていきたい。

(2) 受入

留学生受入の本道・王道は学位取得留学生の獲得・教育であり、短期の受け入れ（非正規生）は、本来的には補助的な達成目標として扱われるべきだと考える。ただし多くの国際化イニシアティブなどで「数」が問われているのも事実であり、また、入学定員の厳格化などによって正規の外国人学生に対して門が狭くなりつつある中、それなりの考慮・工夫が必要であることも認めざるを得ない。

そのような状況で、本センターでは定評のあるサマースクールのJ-ShIPに加え、2018年度には外部機関と連携したExPERT（Extension Program for Education in Real-world Trainings）を運営し、学内資源の消費を抑えつつ、参加学生に選ばれるような「実践的学修」の機会を提供するノウハウを蓄積した。ExPERTのような資源（例えば宿舍・教室・教員）の節約と学生に喜ばれるプログラム運営を両立させる取り組みについては、例えば教室を近隣商店街に求める試みなども含め、来年度以降にもう少し幅を広げていく予定である。またJ-ShIPとExPERTを組み合わせて「日本語集中プラス模擬インターン」といった形態のニーズも2019年度には具体化させる予定であり、現在まで実績を積み重ねてきた本センターの強みを活かしていくことができればありがたいと思っている。

2018年度のExPERT実施によって、サマースクールは学内資源を使うと言うパラダイムはある程度打破できたと考えており、今後は留学をしてくる学生のニーズを汲み上げつつ地域の課題を解決する「サマーデザインスクール」などについても、他部局と連携しつつ企画を立てていきたいと考え、情報を集めている。

また現在学内にiExPO、Maple、FrontierLab@OsakaUなどの各種「交換留学受入プログラム」の一角として、本センターではOUSSEPを運営している。だが受入数の増加に伴い、運営の効率化や一部収益化などを企画してはどうか、というアイデアも生まれてきた。まず第一には1996年のプログラム発足以来大きく変わっていない「みんな一緒にクラスで勉強、揃って修了」という護送船団的フィロソフィーを見直したい。現時点で既に規定課目を14単位以上履修するというOUSSEPの修了要件などについて興味（必要性）のない学生が紛れ込んでいるという事態を直視し、それらの学生を対象にして「プログラム参加者であれば等しく与えていたサービス」に強弱をつけることを考えている。例えば全OUSSEP学生に参加機会がある無料のバス旅行などには見直し余地がある。修了要件を満たさない履修計画の学生に対しては、運営上は（仮称）OUSSEP-2などとして、旅行参加を拒まないが必要に応じて有償提供する、などの考え方である。

更にそれを発展させれば「認定留学受入の受け皿」として、最初から協定校以外もしくは協定校からでも協定数を超過した人数については参加費を取って受け入れる、ということも考えても良いかもしれない。それらの収入を有効活用することで、受け入れ拡大で疲弊しつつあるセンターへのテコ入れもできるであろう。例えば現在70名程度の受け入れをしているとして、うち50名は授業料不徴収枠で、それを超えた数は徴収、というルール作りなども考慮に値するかもしれない。いずれにせよ「英語による要件で受け入れられる専門を問わない交換留学はOUSSEPだけ」という現状は、単一プログラムに様々な参加者が集中する弊害を生みつつある。適切なマネタライズなどの手法で、当該プログラムなどをテコ入れすると共に「交換留学由来だ」という運営手法」と言う従来からの「思い込み部分」「固定化した交換留学パラダイム」を打破して行きたい。

(3) 制度的展望

上記のような方向性をまとめるとするならば；

- ① 多様なニーズに応える柔軟なプログラム構成
- ② プログラム運営資源の見直しと再配分
- ③ 適切なマネタライズ手法の導入

といったところになるだろうか。以上を実現するためには、現在の制度的枠組みは足かせになる。特に③については、運営余剰金を次年度に持ち越せないために、非常に窮屈なプログラム運営ややりくりが強いられている。

本来的にセンター内で短プロ関係が一番「エクステンション」的な志向が強いと思われるが、上記のような問題意識を持って、自給自足もしくは指定国立大学に相応しい、センター運営見直しが必要ではないだろうか。もしくは短プロ教職員が一部NPO化するなどの新機軸を打ち出して、将来的な展望を持って2020年代のプログラム設計や展望を描きたいものだと考えている。

4. 2018 年度 国際教育交流センタースピーチコンテスト

今年度も吹田キャンパスにおいて国際教育交流センタースピーチコンテストを開催した。「留学からわたしが得たもの」という共通のテーマのもとで、大阪大学で学ぶ外国人留学生と留学帰国者がともにスピーチを披露し、成果を競い合った。審査の結果、情報科学研究科所属の Kurbonov Ulugbek さんが最優秀賞に輝いた。

【2018 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト 受賞者】

最優秀賞	Kurbonov Ulugbek	情報科学研究科	母国を発展させるコツ
優 秀 賞	戚 雨童	経済学研究科	人生観の変化から望みの未来へ
優 秀 賞	Yadav Devangi	基礎工学部	留学は人生の研究
特 別 賞	Sun Yi Ting	人間科学研究科	異文化理解から溢れたやさしさ
特 別 賞	Shah Sardar Ahmed	国際公共政策研究科	留学で最も大切なこと
特 別 賞	Laurenzo De Vera Alba	理学研究科	新しい経験の自由
特 別 賞	Jo Hyeonjun	工学部（短期交換留学生：iExPO）	情け深い大阪へようこそ

【出場者と審査員】



【プログラム】

2018 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト プログラム

主 催：大阪大学国際教育交流センター
協 賛：国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ
日 時：2018 年 12 月 7 日（金）16：00～18：00
場 所：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5 & 6

司会	国際教育交流センター	講師	岡本 紗知
1. 開会の挨拶			
	国際教育交流センター	センター長 教授	有川 友子
2. 来賓紹介			
	千里ロータリークラブ	青少年奉仕委員長	西田 泰晤
	千里ロータリークラブ	米山奨学委員会委員	金子 薫
3. 審査員紹介			
	千里ロータリークラブ	米山奨学委員会委員	金子 薫
	情報科学研究科	教授	松下 康之
	国際教育交流センター	特任講師	ハンヒソン
	国際教育交流センター	特任助教	中野 遼子
4. スピーチコンテストの流れおよび審査方法の説明			
	国際教育交流センター	特任助教	中野 遼子
5. 出場者スピーチ			
1. 異文化理解から溢れたやさしさ	Sun Yi Ting（人間科学研究科）		
2. 留学で最も大切なこと	Shah Sardar Ahmed（国際公共政策研究科）		
3. 2 度目の日本留学の経験	Berg Isabel（外国語学部：短期交換留学生 Maple）		
4. 友達を海外に作る方法	Hadi Akbar Dahlan（工学研究科）		
5. 新しい経験の自由	Laurenzo De Vera ALBA（理学研究科）		
6. 情け深い大阪へようこそ	JO Hyeonjun（工学部：短期交換留学生 iExPO）		
7. 人生観の変化から望みの未来へ	戚雨童（経済学研究科）		
8. 留学は人生の研究	Yadav Devangi（基礎工学部）		
9. みなぎる黄金の覚悟	Nattapat Suwanwong（経済学部）		
10. 母国を発展させるコツ	Kurbonov Ulugbek（情報科学研究科）		
6. 表彰式			
	千里ロータリークラブ	青少年奉仕委員長	西田 泰晤
7. 審査総評			
	国際教育交流センター	特任講師	ハンヒソン
8. 受賞者挨拶			
9. 閉会の挨拶			
	千里ロータリークラブ	青少年奉仕委員長	西田 泰晤
10. ティーパーティー（IC ホール 2 階 IRIS）			

【募集要項】

平成 30 年度 大阪大学国際教育交流センター
スピーチコンテスト発表者募集要項

1. 日 時	2018 年 12 月 7 日（金） 16：00 ～ 18：00（予定） （選考・表彰式・写真撮影を含む）
2. 場 所	吹田キャンパス ICホール Room 5 and 6
3. 題 目	「留学から私が得たもの」※内容に合わせて副題をつけてください。
4. 主 催	大阪大学国際教育交流センター
5. 協 賛	国際ロータリー第 2660 地区千里ロータリークラブ
6. 応募資格	① 本学に在籍する日本語を母語としない留学生 ② 留学等で海外に滞在した経験を持つ学生（学部生・院生・国籍を問わない）で大阪大学に在籍している者
7. 応募方法	国際教育交流センターのホームページにある応募用紙（概要 400 字程度）と学生証コピーをメールに添付して送付してください。または、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室へ提出してください。（手書き不可）
8. 応募用紙	Word ファイル（Office 2003 以上）を以下からダウンロードしてください。 【2018 年度留学生スピーチコンテスト応募用紙】 URL：http://www.ciee.osaka-u.ac.jp/
9. 応募締切	2018 年 11 月 16 日（金）
10. 書類審査と発表者の決定	応募者の中から書類選考を通過し、実際のスピーチコンテストにて発表することになった学生さんには、11 月 22 日（木）（予定）までに当選者に直接 E メールで連絡します。また、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室にて掲示を予定しています。
11. スピーチ要領	① 日本語で 5 分以内の発表 ② 計 5 分の発表（最初に留学先で使用した言語を使い 2 ～ 3 分以内のスピーチをし、続いて日本語で同じ内容の 2 ～ 3 分以内のスピーチを行うこと） ※パワーポイント使用可。
12. 審査基準	スピーチの内容や構成、メッセージのアピール力や表現能力などを総合的に評価します。言語運用能力は評価項目の一つです。留学生の場合は、日本語学習歴、滞在期間を考慮して審査を行います。
13. 表彰・副賞	スピーチコンテストの後に、表彰式を行います。 ・最優秀賞：賞状・2 万円分 Amazon ギフト券（1 名） ・優 秀 賞：賞状・1 万円分 Amazon ギフト券（2 名） ・特 別 賞：賞状・5 千円分 Amazon ギフト券（4 名） ※出場者全員に参加賞があります。
14. 応募先・問い合わせ先	国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室 E-mail：iris@ciee.osaka-u.ac.jp （件名に「スピーチコンテスト応募」と明記してください。）
15. その他	・表彰式終了後、IRISにてティーパーティーを予定しています。 ・受賞者の方々には、海外留学オリエンテーション等において体験談発表の依頼をする場合があります。

5. CIEE 協議会シリーズ— 多文化交流の最前線 —

例年と同様、平成 31 年 2 月に 3 つの研究協議会等を主催した。以下、それぞれの概要とプログラムについて報告する。

(1) 2 月 1 日 (金) : 国立大学法人留学生指導研究協議会

本協議会では文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室室長補佐の丸岡充氏から「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」のご説明の後、「多様化する留学生層に対応した東京大学における就職支援活動の取り組みについて」東京大学グローバルキャンパス推進本部講師の原田麻里子氏から、そして、愛媛の大学と企業が育てる高度外国人材育成プログラムについて愛媛大学国際連携推進機構留学生就職促進プログラム推進室副室長の泉谷道子氏から、事例を紹介しながらの報告があった。その後 3 つの分科会にわかれてディスカッションを実施した。



分科会での討議、全体討論を通して、留学生の就職支援や家族支援や交流支援など多様な支援について協議が行われた。〈出席者：82 名（学内 16 名・学外 66 名）〉

(2) 2 月 14 日 (木) : 第 27 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

第 27 回となる本協議会では、「大阪大学各留学生会の活動と各国の文化について学ぼう Part III」というテーマで、大阪大学ムスリム留学生会と大阪大学フィリピン留学生会の留学生による留学生会の活動と国の文化についての発表があり、その後質疑応答が行われた。本協議会ではホストファミリー、家主など、地域にて様々な形で留学生支援に関わるボランティアや国際交流団体関係者等と大阪大学関係者が一堂に会し、留学生支援に関わる本学と地域とのネットワークを更に充実させている。〈出席者：136 名（学内 31 名・学外 105 名）〉



(3) 2 月 19 日 (火) : 第 12 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

本協議会では「市民性教育と日本語教育」というテーマの下に、「『市民』概念の変容と市民性教育」（国際教育交流センターの北山夕華准教授）および、「市民性の視点から捉える日本語教育実践」（東京学芸大学教育学部日本語・日本文学研究講座の南浦涼介准教授）の 2 つの講演をいただいた。その後に元本学留学生センター（現国際教育交流センター）教授の山田泉氏（にんじんランゲージスクール校長）を指定討論者として、市民性や市民性教育を掘り下げる質疑応答が行われた。さらに、「市民性が拓く留学生日本語教育の可能性」とのテーマで全体討論が行われ、今後の大学での日本語教育の新たなコースの開発に向けてのアイデアが共有された。〈出席者：51 名（学内 24 名・学外 27 名）〉



平成 30 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会
兼 第 50 回大阪大学留学生教育・支援協議会

主 題：「留学生生活の多面的な支援」

日 時：平成 31 年 2 月 1 日（金）13：30～19：00（懇談会を含む）

場 所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館 3 階阪急電鉄・三和銀行ホール

次 第：（敬称略）

〔総合司会 大阪大学国際教育交流センター 有川 友子〕
挨 拶（13：30－13：40） 大阪大学理事・副学長 河原 源太

I. 留学生受入れに関する施策

1. 説 明（13：40－14：10）

「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」

文部科学省高等教育局学生・留学生課 留学生交流室 室長補佐 丸岡 充

2. 質疑応答（14：10－14：20）

名古屋大学国際機構 国際教育交流センター 教授 田中 京子

II. 事例紹介（14：30－15：30）

1. 「多様化する留学生層に対応した東京大学における就職支援活動の取り組みについて
— 学生・企業双方のニーズを考えつつ —」

東京大学グローバルキャンパス推進本部 講師 原田麻里子

2. 「愛媛の大学と企業が育てる高度外国人材育成プログラム」

愛媛大学国際連携推進機構 留学生就職促進プログラム推進室 副室長 泉谷 道子

休憩・移動（15：30－15：45）

III. 分科会「留学生生活の多面的な支援」（15：45－16：45）

A：「就職支援」

ファシリテーター：埼玉大学国際本部 教授 中本 進一
京都大学大学院人間・環境学研究科 講師 藤田 糸子

B：「家族支援」

ファシリテーター：金沢大学理工研究域 准教授 岸田 由美
宇都宮大学大学院 工学研究科 講師 堀尾 佳以

C：「交流支援」

ファシリテーター：東北大学高度教養教育・学生支援機構
グローバルラーニングセンター 准教授 渡部 留美
香川大学留学生センター 教授 ロン リム

IV. 各分科会からの報告と全体討論（16：50－17：20）

閉会の挨拶（17：20－17：30） 大阪大学国際教育交流センター長 有川 友子

懇談会（17：40－19：00）

第 27 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

日 時：平成 31 年 2 月 14 日 (木) 13:30-16:30

場 所：大阪大学 吹田キャンパス

銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール

銀杏会館 3 階 大会議室 (懇談会)

主 催：大阪大学国際教育交流センター

〈プログラム〉

(敬称略)

13:30-13:40 挨拶 理事・副学長 河原 源太

13:40-15:35 大阪大学各留学生会の活動と各国の文化について学ぼう Part III

大阪大学ムスリム留学生会

Kurbonov Ulugbek クルボノヴ ウルグベク (情報科学研究科)

Usmonov Bakhtiyorjon ウスモノフ バフティヨルジョン (国際公共政策研究科)

大阪大学フィリピン留学生会

Choa John Benson チョア ジョン ベンソン (工学研究科)

15:35-15:40 挨拶 国際教育交流センター長 有川 友子

15:45-16:30 懇談会

第12回大阪大学専門日本語教育研究協議会

日 時：2019年2月19日(火) 13:00～17:00 (受付 12:40～)

場 所：大阪大学吹田キャンパス

コンベンションセンター 1階 研修室

主 催：大阪大学国際教育交流センター

第12回 大阪大学専門日本語教育研究協議会

— 市民性教育と日本語教育 —

		総合司会 国際教育交流センター 勝田 順子
13:00～13:10	開会の挨拶	国際教育交流センター センター長 有川 友子
13:10～14:00	講演1:「市民」概念の変容と市民性教育	大阪大学国際教育交流センター 准教授 北山 夕華
14:00～14:10	休 憩	
14:10～15:00	講演2: 市民性の視点から捉える日本語教育実践	東京学芸大学 教育学部 日本語・日本文学研究講座 准教授 南浦 涼介
15:00～15:15	休 憩	
15:15～16:00	指定討論者	にんじんランゲージスクール 校長 元大阪大学留学生センター(現国際教育交流センター) 教授 山田 泉
16:00～16:10	休 憩	
16:10～16:55	討 論: 市民性教育が拓く留学生日本語教育の可能性	司会 国際教育交流センター 大谷 晋也
16:55～17:00	閉会の挨拶	国際教育交流センター副センター長 村岡 貴子

6. 大阪北部地震とその後の大雨（西日本豪雨災害）の影響とそれへの対応

(1) J-ShIP等での対応

2018年は自然災害に見舞われた年となった。6月の大阪府北部地震と豪雨、7月の西日本豪雨災害、9月には大型台風21号が大阪を直撃した。台風の直撃は夏休み期間中だったために短期留学生受け入れに関して大きな影響はなかったが、地震はJ-ShIPの開始週、西日本豪雨災害はJ-ShIPおよびFrontier Summerの研修旅行と重なり、短期プログラム部門担当者は対応に追われることとなった。以下、当時の状況と対応について記録しておく。

1. 大阪府北部地震への対応（6月18日発生）

6月18日7時58分、大阪府北部を震源とするM6.1の地震が発生し、本学キャンパスの位置する北摂地域では最大震度6弱を観測した。これにより各鉄道網が麻痺するなど交通機関も大きく影響を受け、豊中キャンパスは19日、箕面キャンパスは20日まで授業が休講となった。OUSSEP、J-ShIPの学生については、事務職員らの尽力により翌日までに全員の無事が確認された。

J-ShIPは18日にオリエンテーション、翌日から授業を予定していたが、地震による損傷で総合研究棟が使用不可となったためオリエンテーションおよび第1週目の授業は日本語・日本文化研究センターで実施した。18日の朝の便で到着したソウル神学大学の学生3名は、関空からの交通機関の運休により同日のオリエンテーションに間に合わず、参加できなかった。この学生らは最終的には宿舎に到着できたが、余震への不安などからいずれも留学を中止して帰国することとなった。これについて、通常はプログラム開始後の返金対応はしていないものの、事情を鑑み、宿舎等にかかった実費を差し引いた一人当たり約11万円を返金した。また、上述の3名以外のJ-ShIPの学生のうち、米国人学生一名が地震の影響で18日のオリエンテーションに参加できなかったが、当日の夜には連絡がつき、オリエンテーション2日目には参加した。

2. 6月20日の大雨警報および避難勧告への対応（箕面市、6月20日）

6月20日早朝に北摂地域に大雨警報が発令され、箕面市の土砂災害警戒区域に避難指示・避難勧告が出された。J-ShIP関係者が滞在するアパートのうち、特任教員1名と学生6名が滞在するアパートのある栗生間谷地区が避難勧告対象地域となった。そのため、教員1名は避難勧告地区外のアパートに移動してもらい、学生については、避難勧告対象外の学生のアパートの部屋に一時的に宿泊させてもらうよう対応をとった。移動の必要が生じた学生および同室での宿泊場所提供に応じた地区外アパートの学生については、一人につき5000円を宿舎費から返金した。

3. 西日本豪雨災害への対応（7月5日～8日）

7月6・7日は「広島・宮島研修旅行」にJ-ShIP学生40名弱、Frontier Summer参加学生20名弱が参加予定であった。5日の時点では「特段のことがない限り旅行は実施、旅行受注者のJTBとの合意がなければ旅行取り止めの際に払い戻しされない可能性がある」旨がバス事業者から示唆されていたが、急激な天候悪化により旅行実施は困難な状況となったことから、朝8時半ごろ旅行中止を決定した。前後してJTBとも連絡が取れ、払い戻しが受けられる旨を確認した。

また、5日夜から7日朝にかけて箕面市栗生間谷地区に避難勧告が発令された。研修旅行のため集合していた学生については安全面の懸念から別個に帰宅はさせず、一旦バスごと吹田キャンパスに移動した。Frontier Summer参加学生に関してはバスで寮に送り届け、J-ShIP学生は全員を一旦国際教育交流センターに収容し、ホームステイの学生はホストファミリーと連絡の上帰宅させた。アパート滞在学生については生協マイルームおよび共通事務室と協議し、学生の安全確保のために、6・7日の二日間は避難勧告地域のア

パートに滞在する教員一名と学生 20 名には新大阪ユースホステルに滞在してもらった。宿泊費は一人一泊 3500 円であったが、一泊分は本学負担、二泊目は学生負担で各自支払うということで学生からも同意を得た。

4. おわりに

相次いだ自然災害の際の対応を通じ、日本語能力が高くなく、周りに頼れる知人が少ない上に土地勘もない短期留学生は、自然災害発生など突発的な緊急事態において脆弱な存在であることを改めて実感することとなった。そのため、安全確保や情報提供など、正規の学生以上に大学側のサポートが非常に重要となると言えよう。

今回はキャンセル料が発生する可能性を残した時点での旅行中止など、緊急時には属人的な判断に依らざるを得ない状況も発生した。場合によっては判断が難しいケースや、キャンセル料など突発的な支出を覚悟しなければならない事態も起こりうるが、最終的には学生の安全を最優先に判断するほかないであろう。宿舎については、今回の経験を踏まえ、避難勧告が出された地区のアパートへの利用は現在控えている。短期留学生のニーズや利便性と、安全面を考慮しながら、かれらが充実した日本留学を安全に過ごせるよう、これからもサポート体制の改善を図っていきたいと考えている。

(2) 一般留学生関係の対応

平成 30 年 6 月 18 日（月）午前 7 時 58 分に大阪府北部を震源とするマグニチュード 6.1 の地震が発生した。この地震では、大阪大学の各キャンパスがある箕面市で最大震度 6 弱、吹田市および豊中市で震度 5 強が観測された。またその翌月には台風 7 号および梅雨前線の影響により、西日本一帯で集中豪雨が発生した（6 月 28 日～7 月 8 日）。

大阪大学全体としては、学生や教職員の安否確認のほか、地震や豪雨の物的被害の確認や対応、さらには休講等の問い合わせへの対応に追われた。授業に関しては、6 月 18 日および 19 日は 3 キャンパスで全授業が休講、翌 20 日は土砂災害の避難勧告のあった箕面キャンパスで終日休講となった。なお 20 日以降は部局により対応が異なるため、全面的に授業が再開したのは 25 日（月）である。

地震発生以降、国際教育交流センター IRIS（吹田・豊中・箕面）をはじめ各部局の留学生相談室では、地震に関する相談件数が急増した（下図）。相談内容は、地震発生時の状況や不安や怖さを訴えるものが多く、また住宅損傷の相談なども寄せられた。なお吹田や豊中キャンパスで授業が再開したのは 20 日だが、休講期間中も多くの学生が来室していたことがわかる。

地震関連 相談件数

国際教育交流センター IRIS(吹田、豊中、箕面)、5 部局留学生相談室集計分

	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	合計
曜日	地震発生		授業開始			土	日						土	
地震発生時の状況について	15	10	64	38	9			6	2	6	1	2		153
住宅損傷の相談	4	11	10	6	3			1	1	2				38
不安、怖さ	13	22	25	18	5			2	1	3	2			91
安全対策の相談		1	3	1	3					1	1			10
避難所の相談		3	5	2	2						2			14
地震の一般情報	4	2	4	12	16			4	1	4				47
体調不良、不眠など		4	6	6	2			1	1					20
ケガ			2		1				1			1		5
その他	1		2	2	3					2		1		11
合計	37	53	121	85	44	0	0	14	7	18	6	4	0	389

* 日本人など一般学生 39 名、外国人研究員・教員 8 名含む

一方学外では、近隣の地方自治体が避難所施設を設けたが、本学の学生もこれら施設を利用していたことがわかった。利用が最も多かったのは箕面市立豊川南小学校で、19日に約140名（避難所の全利用者9割に相当）、20日は52名の学生が訪れた。また豊中市立共同利用施設蛍池センターには20日までに約30名の本学の学生が訪れたが、このうちおよそ9割が留学生であった。他にも吹田市立青山台小学校には約20名、茨木市立沢池小学校でも2名の利用があった。なお各市からは、学生・キャリア支援課や総務課、IRISなどに連絡が入った。これらの連絡を受け、国際学生交流課や国際教育交流センター、人間科学研究科の教職員が現地確認を行った。

これら近隣の避難所施設だが、20日にも依然多くの利用者が見られたが、翌21日には蛍池センターを除くすべてが小学校の再開に伴い閉鎖されることとなった。そのため、これら施設を利用していた学生等を対象とする学内避難所を開設することとなった。安全衛生管理部、教育・学生支援部、国際部による協力体制のもと、豊中キャンパスの多目的倉庫および吹田キャンパスの体育館が、6月21日（木）から24日（日）の期間中、20：00から翌朝8：30まで学内相談所として開放された。この時間帯は少なくとも1名の職員が各相談所に待機し、相談所を利用する留学生に関しては、国際教育交流センターの教職員が必要に応じて対応を行った。これら学内相談所の利用者数は、期間中延べ7名であった。

参考資料

- 国立大学法人大阪大学大阪北部地震及び平成30年7月豪雨に係る報告書（大阪大学安全衛生管理部、平成31年3月）
- 平成30年度国際教育交流センター連絡・交換会配布資料

7. 第1回国際教育交流センター公開講座

国際教育交流センターでは、2019年3月13日（水）に一般市民を対象として、公開講座「本格的な外国人労働者受入れにあたって」を銀杏会館3階大会議室にて開催した。

2018年の後半は外国出身者に対する日本語教育が大いに世間の関心を集めた。産業界の要望を受ける形での就労目的の外国人の受入れのための法律改正が重要案件となり、その文脈での外国人受入れのための環境整備の一環として、日本語の教育をどうするのが広く議論されたわけである。

2018年12月に成立した改正入管法（出入国管理及び難民認定法）は2019年4月に施行された。改正入管法では、特定技能という新たな在留資格の下に34万5,150人という数値目標をかかげ、就労を主な目的とする外国人が日本に来て仕事と生活を始めることになった。四半世紀以上にわたって日系人や技能実習生の受入れおよびその状況についてさまざまな問題があることが指摘されてきた中で新たな外国人の受入れが開始されることになった。こうした本格的な外国人労働者の受入れが何を意味するのか、日本の社会はこれからどのような方向に変容していくのか、そうした中で私たち一人ひとりはこの状況をどのように受け取り、どのように対応していけばいいのか。本公開講座はこのような問題について論点を整理して、質疑応答を含めて参加者一人ひとりが改めて外国出身者の受入れや外国出身者に対する日本語学習支援を含む支援のあり方や関わり方を考える機会となった。講演者の春原憲一郎氏（公益財団法人京都日本語教育センター校長）からは、外国出身者の受入れやかれらに対する支援や関係が一般の市民の関心になって広く議論されていないという点が指摘され、外国人に限らず誰もがもっと暮らしやすい社会を作るという視点が重要であることなどが論じられた。



公開講座の様子

8. 核物理研究センターとの共同での外国人研究員等に対する日本語クラス

国際教育交流センターでは、大学院進学希望学生のための日本語集中コース、学部留学生のための日本語科目、短期留学生とインターナショナルカレッジ学生のための日本語科目、大学院生や研究生等を主な対象とした日本語選択コースなどの日本語コースや日本語科目を従来より提供している。しかし、国際化が進む大阪大学では、外国人研究員や外国人教職員やポスドク・フェローなどが近年ますます増え、かれらからの日本語学習機会の要望が高まっている。外国人研究者等の職場と日常の生活の質を高めるための支援の一部として、日本語を習得する機会の提供は、今後もますます外国人研究者等が増加することが見込まれる大阪大学として重要な課題の一つであると、国際教育交流センターとしても認識してきた。

こうした状況に対応するために、国際教育交流センターでは、新たなスキームとして、外国人研究員等を多数抱える部局との共同による外国人研究員等のための日本語クラスの開設の試みを行った。それが、核物理研究センターと国際教育交流センターとの共催による外国人研究者等のための日本語コースである。

新たなスキームは以下の通りである。

(1) 新たなスキームの概要

(a) 国際教育交流センターの役割

1. 日本語学習経験のない外国人研究員等に特化した新たな日本語カリキュラムを開発し、教材と共に提供する。
2. 以下の (b) の事項に関して部局の検討に協力する。
3. 当該コースを適切に実施し運営できる講師を紹介する。

(b) 部局の役割

具体的なコースの開設に関すること

1. 授業期間、授業日、授業時間等の検討と決定
2. 教室の確保
3. 参加者募集のチラシの作成と広報
4. 講師の雇用

(2) カリキュラムと教材の概要

(a) カリキュラムの特徴

限られた時間での学修で一定の成果をあげるために、以下の側面を重視して指導を行う。

1. 日本語の話し方と言葉遣いの特性、発音の仕方の特性、用いられる語の特性などを知ることによって日本語の概要を把握する。
2. 短い発話で人と交流したり、さまざまな用を足したりすることでできるようになる。
3. 口頭コミュニケーションの技量の速成をめざすため、文字の学習を要求しない。※文字学習にも関心のある者には適切な教材やウェブサイトを紹介する。

(b) カリキュラム

3-4 ページの表 1 と表 2 の通り。

(c) 教材

1. 主教材として、『NEJ：テーマで学ぶ基礎日本語 vol.1』（くろしお出版）の文法説明を補強したローマ字版を作成し、国際教育交流センターのウェブサイトに掲載した。
2. 表 1 の B 欄の教育目標のためのウェブ教材等を準備した。

(3) 具体的な実施状況

(a) 期間

2019 年 2 月 21 日－4 月 4 日

(b) 曜日と時間

当初は初習者を対象として 15 名定員で実施する予定だったが、応募者が多く、また日本語既習者もいたため、初習者と既習者の 2 クラスとした。

① クラス 1（初習者クラス）

期間中の月曜日と木曜日の 1 限

② クラス 2（既習者クラス）

期間中の月曜日と木曜日の 2 限

(c) 教室

核物理研究センター、会議室 2

(d) 参加者

① クラス 1：12 名

② クラス 2：19 名

計 31 名

今回の試みを通して、企画・実施の面では、国際教育交流センターと部局との共同というスキームがひじょうに有効かつスムーズに実行できることがわかった。一方で、日本語教育に関しては、(1) 外国人研究員等で日本語学習の希望者がひじょうに多いこと、(2) 日本語学習の経験がない外国人研究員等が一定数いてそうした学習者には今回企画のコースが適当であること、(3) 初習者の他に既習者で日本語学習の機会を希望する者がかなりいて、既習日本語知識に大きな幅があり、すべてに対応することは困難なこと、などがわかった。今後は、今回のようなスキームでの日本語学習機会の提供をさらに進めるとともに、現在開発中の OU 日本語ひろば（トピックスの 2）等とへの接続なども工夫しながら、外国人研究員等の生活の質の向上のための日本語学習支援の態勢をさらに整備していきたい。

Lesson	Unit & Title	Main Lexical/Grammar Points *Knowledge of Grammar	Socializing Functions and Having Things Done *Useful Information
1 2	Unit 1 Introducing Myself	※ Introduction to the Japanese language (sound system, sentence structure, characteristics of speaking, etc.), how to say countries and major cities in Japanese sound system and intonation, identifying yourself, counting system up to 100, loan words around us	• meeting and greeting new friends • recognizing and offering things around you *name of your institution and some others
3 4	Unit 2 Introducing My Family	family terms, schools and students/pupil, languages, professions/occupations/etc.	• talking about your family *Hankyu lines and Kita-Osaka railways, different locations including Umeda, Kyoto, Kobe, Shinsaibashi, etc.
5 6	Unit 3 My Favorite Things	foods, drinks, verbs for eating, drinking, etc., sports, music, counting systems up to one million	• talking about your favorites (foods, drinks, sports, music, etc.) • finding things at a convenience store, supermarket, etc. *credit card payment
7 8	Unit 4 My Everyday Life	meals, particles (に、で、から、まで、か), verbs for daily activities, everyday places, daily activities/events, means of transportation, saying time	• talking about your daily life • finding your way at a train station or bus station ※ Hankyu Umeda station, Senri Chuoo bus station *how to use trains and buses
9 10	Unit 5 Friday Night	different foods, restaurants, nearby ~ * <i>i</i> -adjective and <i>na</i> -adjective and their present and past forms	• talking about your experiences in the Friday evening • ordering drinks or foods at a restaurant *how things are done at a restaurant
11 12	Unit 6 Going out	things to buy, saying locations *different form of <i>i</i> -adjective and <i>na</i> -adjective	• talking about your short trip in the weekend • saying sizes and color and pattern preferences about clothes *famous clothes shops in Japan and the world

表 1 Course Outline of Oral Communications in Japanese 1

Lesson	Unit & Title	A. Main Lexical/Grammar Points *Knowledge of Grammar	B. Socializing Functions and Having Things Done *Useful Information
1 2	Unit 7 Invitations and Offers	functional expressions using ~ますか／～ませんか／～ましょうか／～ましょう, question words including いつ、どこ、どうして	- inviting people - offering things or offer to do things *group belongingness and personal relationship
3 4	Unit 8 My Family	what people do in their lives, character and appearance of a person, skills and abilities *three kinds verbs and inflections	talking about people around you in some detail *Japanese people's life
5 6	Unit 9 What I Want to Do	four seasons, climate	- expressing desire to do something - expressing whether you have experienced to do a particular thing or not *seasonal activities and holidays
7 8	Unit 10 Rules and Directions	different operations of things in everyday life *～てください, ～てもいいです, ～てはいけません	- asking for help - give guidance or instructions - telling dos and don'ts *different communication tools and channels
9 10	Unit 11 Busy Day and Hard Work	life-related obligations, student's obligations, professor's job *～なければなりません and negative form of verbs	expressing one's obligations
11 12	Unit 12 Things to Notice	weather, climate, disaster prevention	giving suggestions *cold winter, typhoon and earthquake

表2 Course Outline of Oral Communications in Japanese 2

Ⅱ．現 況

1．運営形態

国際教育交流センターは、平成6年に設置された留学生センターが平成22年4月に発展的に改組してできた学内共同教育研究施設である。国際教育交流センターはその最高意思決定機関として国際教育交流センター教授会を置いている。国際教育交流センター教授会は、国際教育交流センター長（本センター教授）、国際教育交流センター専任教員9名、及び各研究科から選ばれた教授または准教授15名、計25名の本学教員で構成されている。本教授会において国際教育交流センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

国際教育交流センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、国際教育交流センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、国際教育交流センター教員連絡調整会議が毎月1回（8月を除く）開催されている。同会議は、センター長を含む国際教育交流センター教員15名全員（専任教員10名、特任准教授2名、特任講師2名、特任助教1名）及び国際教育共通事務室の室長と室長補佐と係員が構成員となっている。この会議を通して、センターの運営や各種業務や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

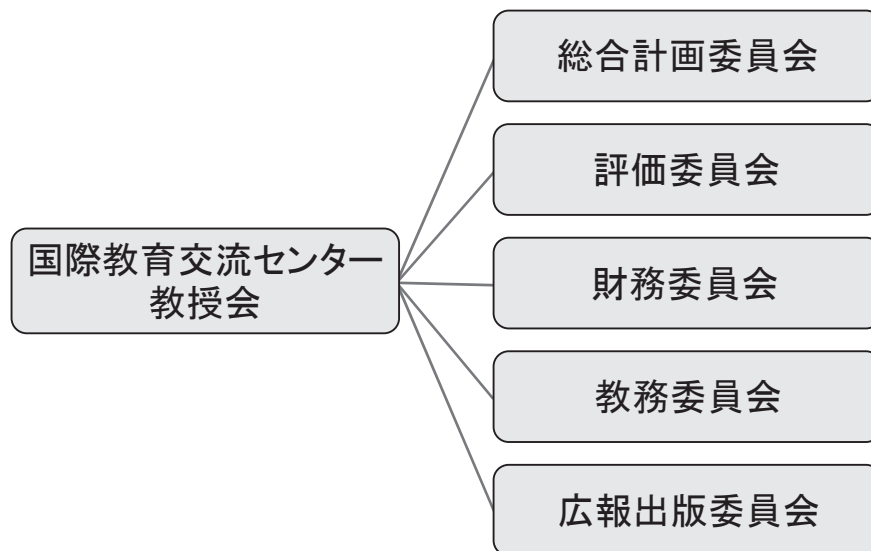


図1 国際教育交流センター教授会と各種委員会

2. 組 織

国際教育交流センターは、交流アドバイジング研究チーム（教授1、講師1、特任准教授2）、短期プログラム開発研究チーム（教授1、准教授1、特任助教1）、日本語教育研究チーム（教授3、准教授3、特任講師2）の3つのチームとサポートオフィスで構成されている。そして、教員を中心として、特任事務職員（交流アドバイジング研究チーム2、短期プログラム開発研究チーム3、日本語教育研究チーム1、サポートオフィス2）も参画して、実際の業務にあたっている。

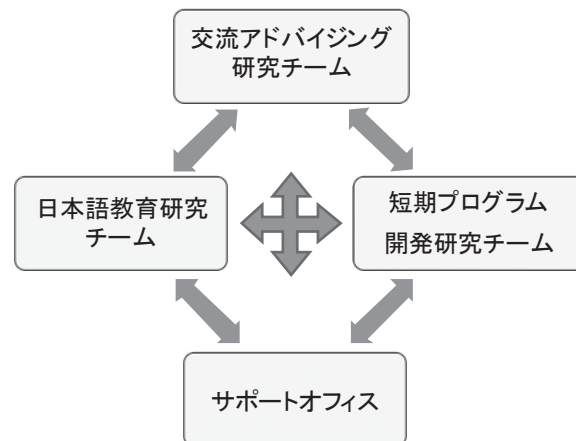


図2 国際教育交流センターのチームとサポートオフィス

また、各チームは必要に応じて相互支援・協力をしながら各種の業務に当たっている。センターが行っている主な業務は以下の通り。

教育	留学生受け入れ支援	海外留学派遣支援	地域・社会貢献	サポートオフィス
- 日本語研修コース - 留学生日本語プログラム - 国際交流科目 - 全学共通教育（日本語と多文化コミュニケーション） - 全学共通教育基礎セミナー - 大学院教育 - 大学院高度副プログラム、大学院高度プログラム	- OUSSEP 運営 - 超短期プログラムの開発と運営 - 留学生オリエンテーション - 留学生を対象としたカウンセリング - 受け入れ・派遣に関わるコーディネーション - 大阪大学留学生会（OUISA）との連携・支援 - Brothers and Sisters Program (BSP) の支援 - 留学生日本語スピーチコンテストの企画・運営 - 留学生のキャリア支援	- 短期派遣留学プログラムの開発と運営 - 海外留学相談・アドバイス - 海外留学・研修等危機管理オリエンテーション - 海外留学帰国学生と派遣内定者との交流会 - 海外留学帰国者スピーチコンテストの企画・運営	- 留学生交流情報室（IRIS） - 留学生支援ボランティア協議会 - いちよう日本語プログラム - ホストファミリープログラム - 公立学校教員初任者研修 - 国際理解教育への協力 - にほんごテーブル運営のボランティアグループの支援	- 新規来日留学生・外国人研究者等への情報提供 - ビザ取得手続き等各種手続きのサポート - 宿舍手配の支援 - 新規来日者オリエンテーション - 各種ハンドブックやホームページの作成・更新
研究活動				
- 日本語教育のカリキュラム・教材開発と日本語学習・教育支援システムの開発 - 多文化社会と留学生交流研究会の開催 - 留学生指導研究協議会等各種の研究会や研究協議会の開催 - 日本語教育に関する研究・開発、留学生教育、留学生交流に関する研究				

図3 国際教育交流センターの業務の概要

3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※ 2018 年 4 月現在を基本とする。

センター長		有川 友子 (Ph.D、Education)
交流アドバイジング 研究チーム	教授	有川 友子
	講師	岡本 紗知 (Ph.D、Microbiology)
	准教授	魚崎 典子 (特任、博士 (工学))
	准教授	後藤 厳寛 (特任、修士 (学術))
短期プログラム開発 研究チーム	教授	近藤 佐知彦 (Ph.D、Social Science)
	准教授	北山 夕華 (博士 (人間科学))
	助教	中野 遼子 (特任、博士 (言語文化学))
日本語教育研究 チーム	教授・副センター長	村岡 貴子 (博士 (言語文化学))
	教授	西口 光一 (博士 (言語文化学))
	教授	義永 美央子 (博士 (言語文化学))
	准教授	大谷 晋也 (修士 (言語文化学))
		難波 康治 (教育学修士)
		西村 謙一 (法学修士)
	講師	勝田 順子 (特任、博士 (学術))
兼任教員	留学生受入れ	韓 喜善 (特任、博士 (言語文化学)、2018 年 9 月から)
	専門教育教員	鄭 聖汝 (講師、文学研究科)
		安元 佐織 (講師、人間科学研究科)
		EL BALTI BELIGH (准教授、法学研究科)
		勝又 壮太郎 (准教授、経済学研究科)
		卓 妍秀 (講師、理学研究科)
		藤田 清士 (教授、工学研究科)
		寺井 智之 (講師、工学研究科)
		金子 聖子 (助教、工学研究科)
		中橋 真穂 (助教、工学研究科)
		鎌谷 研吾 (講師、基礎工学研究科)
	特任講師 (短期)	脊尾 泰子 (2018 年 6 月 16 日 - 8 月 15 日)
		山内 陽子 (2018 年 6 月 16 日 - 8 月 15 日)
非常勤講師		伊藤 創、上仲 淳、梅本 仁美、浦木 貴和、岡崎 洋三、岡田 亜矢子、 小原 俊彦、蔭山 拓、菅 摂子、滝井 未来、竹内 茜、佐川 祥予、 笹川恵美子、田中 真衣、滑川 恵理子、畑中 香乃、花井 理香、 半田 佳奈子、藤澤 好恵、松田 佳子、村上 康代、矢部 正人、 山崎 深雪、山田 真知子、韓 喜善 (2018 年 7 月まで)
日本語 TA		アンドリアリニアイナ・ファナンテナナ・リアナスア、王 一瓊、王 健、 笹川 史絵、茶園 直人、パンクラートワ・スネジャンナ
招へい研究員		劉偉 (華南師範大学准教授、2017 年 9 月 1 日 - 2018 年 8 月 31 日)

	簡珮鈴（2018年4月1日－2019年3月31日）
特任事務職員	段家 恭子（留学生交流情報室）、三好 絵美（留学生交流情報室） 川上 圭子（短期チーム）、山下 雅世（短期チーム 2018年5月1日から）、 黒川 愛実（サポートオフィス）、三輪 久美子（サポートオフィス）
事務補佐員	福井 めぐみ（短期チーム、2019年2月28日まで）、 垣塚 保子（短期チーム）、若林 沙希（短期チーム、2018年9月30日まで）、 柏原 美佐緒（短期チーム、2018年9月1日から） 中村 香菜（サポートオフィス） 五十嵐 美香（日本語教育チーム） 高森 洋志子（日本語教育チーム）
留学生交流情報室 スタッフ	塩見 知佐子（2018年4月30日まで）、大野 奈苗（2018年5月16日から） 岩根 由依、山岸 美穂、山下 景子（2018年12月31日まで）

4. 今年度の動き

勝田順子特任講師は、2019年3月末をもって転出し、同年4月1日から志學館大学人間関係学部准教授に着任された。また、本年度は、夏のJ-ShIPプログラムにおいて、同期間中の特任講師として、脊尾泰子氏（本務校はマギール大学、講師、2017年夏に引き続き）と山内陽子氏（本務校はカリフォルニア大学サンタバーバラ校、講師）を任用した。両氏とも、コーディネータとしてまた授業担当教員として十二分な役割を果たしてくれた。

Ⅲ. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記表に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施／提供している。学生の多様な日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心に提供するプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100 レベル）から、日本語能力試験 N1 相当以上の超上級レベル（700 レベル）まで7段階のレベルを設定している。

* 単位あり正規科目

対象留学生		プログラム名	レベル
大学院生・研究生 (研究留学生)	国費大使館推薦	1. 留学生日本語集中コース	100 ～ 300
	全学	2. 留学生日本語選択コース	100 ～ 700
	全学	3. 学際融合教育科目*	600 ～ 700
学部留学生	一般正規生	4. 全学共通教育：第2外国語／国際教養*	700
	学部英語コース	4'. : 第1外国語*	100 ～ 600
短期留学生		5. 国際交流科目（日本語）*	100 ～ 600
日韓共同理工系留学生プログラム生		6. 日韓共同理工系留学生プログラム	400・500

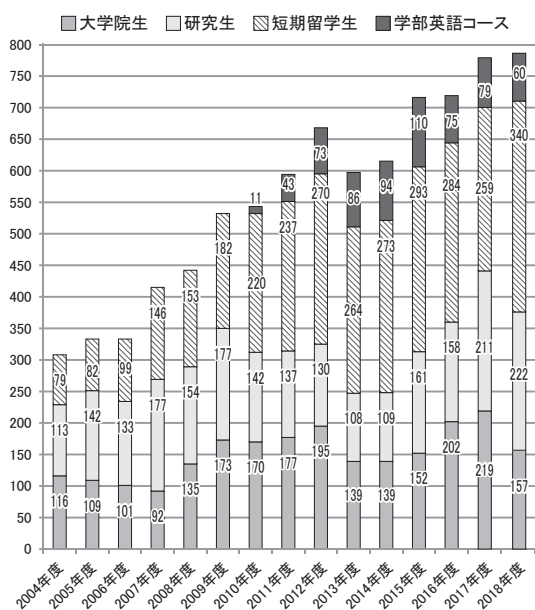


図1 年度ごと身分別履修者数の推移
(学部一般正規生(上表の4)は含まない)

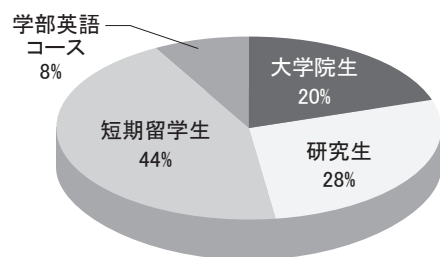


図2 2018年度履修者身分別分布

2018年度の春～夏学期・秋～冬学期の履修者数合計は779名で、過去最高を更新している(図1)。身分別分布(図2)にみると、短期留学生が44%と最大の割合を占める。また、研究生の受講者数の増加傾向も近年の特徴である。

2004年度以降の推移(図1)から、総履修者数がこの10年あまりで約2.5倍に増加していることがわかるが、短期留学生増および学部英語コース新設が日本語履修者数急増の要因となっている。文部科学省の国際化拠点整備事業(大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業)およびスーパーグローバル大学創生支援事業による留学生増の方針を実現するための大学の国際化戦略、すなわち、学部英語コースの創設や短期留学生の積極的受け入れといった取り組みを反映した結果である。

また、2017(平成29)年度から大学全体の学事暦が変更され、4学期制が導入されているが、本センターの日本語プログラムでは、全ての科目をセメスター科目(春～夏学期および秋～冬学期開講)として開講した。

上記1～6の各プログラムの時間割、および、選択コースの履修登録状況は、巻末記載の資料1、資料2に示している。

1. 日本語集中コース

日本語集中コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語研修生の大部分は文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。

日本語研修生（以下、学生）は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100、IJ200、IJ300の3レベルに分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期末には修了発表会を実施し、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。この修了発表会には研修生の研究指導教員を招待する他、発表準備の過程を随時指導教員に報告し、日本語研修と研究活動との接続に配慮している。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

(1) IJ100A/IJ100B

① 概要

100クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。例年受講生が多い春～夏学期には、よりきめ細かい教育を実施するため、4クラス体制をとっている。授業時間数は1週間当たり15コマ（春・夏学期は14コマ）で、うち4コマを漢字と語彙のクラスにあてている。100クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第48期・第49期 日本語集中コースクラス時間割（平成30年度）

第48期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30-12:00	講義 IJ100A, 100B	チュートリアル1 IJ100A	チュートリアル1 IJ100B	チュートリアル2 IJ100A	チュートリアル2 IJ100B
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	プレゼンテーション IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B
4時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	プレゼンテーション IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B
5時間目 16:20-17:50			講義 IJ100A, 100B		

第 49 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2 時間目 10:30-12:00	講義 IJ100	チュートリアル 1 IJ100	チュートリアル 2 IJ100	チュートリアル 3 IJ100	チュートリアル 4 IJ100
12:00-13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100
4 時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100

(2) IJ200

① 概要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は 1 週間当たり 12 コマで、10 コマの 200 クラス専用授業とチュートリアル 1 コマおよび選択必修の漢字・語彙クラスで構成されている。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「200 クラス日本語（コミュニケーション行動）（IJ200）」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。

② 時間割

第 48 期・第 49 期 日本語集中コース IJ200 クラス時間割（平成 30 年度）

第 48 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50-10:20			漢字と語彙 漢字系 JK202		漢字と語彙 非漢字系 JK201
2 時間目 10:30-12:00		コミュニケーション行動 IJ200	チュートリアル IJ200	読解 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
12:00-13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
4 時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動 IJ200			コミュニケーション行動 IJ200	

第 49 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50-10:20			漢字と語彙 漢字系 JK202		漢字と語彙 非漢字系 JK201
2 時間目 10:30-12:00		コミュニケーション行動 IJ200	チュートリアル IJ200	読解 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
12:00-13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
4 時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動 IJ200			コミュニケーション行動 IJ200	

※漢字と語彙：JK201 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

(3) IJ300

① 概要

300 クラスは、日本語を1～2年、約200～300時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は1週間当たり9コマで、「コミュニケーション行動」4コマ、「ライティング」1コマ、「文法・読解」2コマ、「漢字と語彙」1コマ、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1コマで構成されている。「コミュニケーション行動」はトピックベースの授業で、政府資料等の生教材を使用して読解、聴解、ディスカッションを行い、「ライティング」では研究計画書作成を目標として学習活動を展開する。そして、「漢字と語彙」および「文法・読解」で語彙や文法を学習する。

② 時間割

春～夏学期、秋～冬学期とも、同一のトピック・ユニットで学習した。扱ったトピックは、気候・地理、食べる、家族、住む、大阪、男性と女性、若者・教育、環境問題、文化の歴史、社会の歴史である。

第48期・第49期 日本語集中コースIJ300 クラス時間割（平成30年度）

第48期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20			漢字と語彙 漢字系 JK302	漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2時間目 10:30-12:00		文法・読解 IJ300	コミュニケーション行動 IJ300		
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	ライティング IJ300	文法・読解 IJ300	コミュニケーション行動 IJ300	コミュニケーション行動 IJ300	チュートリアル IJ300
4時間目 14:40-16:10				コミュニケーション行動 IJ300	

第49期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20			漢字と語彙 漢字系 JK302	漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2時間目 10:30-12:00		文法・読解 IJ300	コミュニケーション行動 IJ300	コミュニケーション行動 IJ300	
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	ライティング IJ300	文法・読解 IJ300	コミュニケーション行動 IJ300	コミュニケーション行動 IJ300	チュートリアル IJ300

※漢字と語彙：JK301は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK302は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

○コーディネーター

村岡貴子（全体・IJ200 クラス）、西村謙一（IJ300 クラス）、西口光一（IJ100A・IJ100B クラス）

○学生数と身分別内訳（IJ100Bは春～夏学期（第48期）のみ開講のため秋～冬学期（第49期）は“—”と記す）

クラス別人数

	IJ100A	IJ100B	IJ200	IJ300	計
第48期	9	10	9	11	39
第49期	9	—	8	7	24
合計	18	10	17	18	63

身分別人数

	大使館推薦※1	教員研修※2	学内応募※3	計
第48期	31	0	8	39
第49期	6	0	18	24
合計	37	12	26	63

※1 大使館推薦クラス別内訳

	IJ100A	IJ100B	IJ200	IJ300	計
第48期	7	7	8	9	31
第49期	3	—	2	1	6
合計	10	7	10	10	37

※2 学内応募クラス別内訳

	IJ100A	IJ100B	IJ200	IJ300	計
第48期	2	3	1	2	8
第49期	6	—	6	6	18
合計	8	3	7	8	26

大使館推薦の配置（進学）先別内訳

	IJ100A		IJ100B		IJ200		IJ300		計
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	
第48期	5	2	5	2	7	1	7	2	31
第49期	2	1	—	—	1	1	1	0	6
合計	9	3	8	2	9	2	10	2	45

○学生の出身国と配置（進学）先一覧

学生の出身国

国名	第48期	第49期
アメリカ合衆国		1
インドネシア	2	2
イラン	2	
ウルグアイ	1	
エジプト	2	
グアテマラ	1	
ケニア	1	
コロンビア		1
コートジボワール		1
サモア		1
スーダン	1	
タイ	3	3
デンマーク	1	
チェコ		1
ドミニカ	1	
ニュージーランド	1	
パキスタン	3	
バングラデッシュ		1
フィリピン	5	
ブラジル	2	
ブルキナファソ	1	
ベトナム	1	1
マレーシア	3	1
メキシコ	1	
モザンビーク	1	
韓国	1	1
中国	5	10
合計	39	24

配置（進学）先一覧

配置（進学）先	第48期	第49期
医学系研究科	4	3
医学系研究科（保健学専攻）	2	1
基礎工学研究科	1	
経済学研究科	2	
言語文化研究科（言語社会専攻）		1
工学研究科	5	3
工学部	1	1
国際公共政策研究科	4	1
歯学研究科		1
情報科学研究科	3	2
接合科学研究所	1	2
微生物病研究所		3
免疫学フロンティア研究センター	2	1
理学研究科	1	1
生命機能研究科	1	
文学研究科		1
レーザー科学研究所	1	
産業科学研究所	1	
連合小児発達学研究科		1
人間科学研究科	1	
蛋白質研究所	2	
奈良先端科学技術大学院大学	7	2
総計	39	24

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、全学の大学院生および大学院入学を希望する研究生である。これらの留学生の中には、研究活動の遂行に必要となるアカデミックな日本語能力の養成を必要とする者もいれば、研究活動や大学院入試は英語で行われるが、研究室等での日常的なコミュニケーションに日本語を必要とする者もいる。そのため、日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目を開講し、学内の留学生の幅広い日本語学習ニーズに対応している。受講希望者は本センターが開発した日本語レベルチェックをウェブ上で受け、各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案し、該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 700 レベルまでの 7 レベル）の科目群の中から、必要な科目を週当たり 1 ～ 数科目選択できるように設定されている。

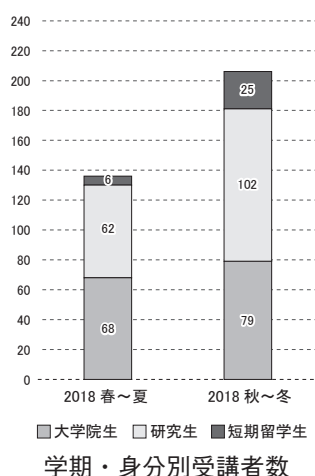
○開講科目

100 から 300 までの入門～初中級レベルでは、総合日本語（JB）および漢字と語彙（JK）で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、専門をより深く学ぶための日本語を各スキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション・プレゼンテーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語科目を提供している。

	総合日本語 (JB)	漢字と語彙 (JK)	アカデミック リーディング	アカデミック ライティング	アカデミック コミュニケーション	アカデミック プレゼンテーション	ビジネス日本語 コミュニケーション
100 (入門)	JB100						
200 (初級)	JB200	JK201 (非漢字系) もしくは JK202					
300 (初中級)	JB300	JK301 (非漢字系) もしくは JK302					
400 (中級)							
500 (中上級)				JW400/500	JC400/500		
600 (上級)			JR600/700	JW600/700	JC600/700	JP600/700 春～夏学期のみ 開講	BJ500/600/700 秋～冬学期のみ 開講予定
700 (超上級)							

○履修登録者数

実数で春～夏学期 136 名、秋～冬学期は 206 名の計 342 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、特に秋～冬学期は研究生の割合が圧倒的に高く、研究生の日本語学習ニーズの高さが窺える。部局別では、工学研究科を筆頭に、15 研究科／学部および 5 研究所 3 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えていることがわかる。



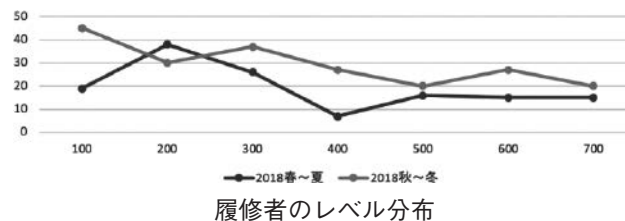
学期・身分別受講者数



秋～冬学期広報用ポスター

○履修者のレベル分布

入門（レベル 100）～初中級（レベル 300）程度の履修者が多い傾向にある。



3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、「第2外国語」と「国際教養2」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第2外国語」として、後者を「国際教養2」として履修する位置づけとしている。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生が協働してプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2009年度に2コマ増設した「多文化コミュニケーション（日本語）」および1コマ増設した「専門日本語」（吹田キャンパスで開講）、2011年度に2コマ増設した「専門日本語」に加え、2014年度は、さらに受講者のニーズに配慮して授業を展開するため、「総合日本語」と「多文化コミュニケーション（日本語）」をそれぞれ2コマずつ増設するとともに、後期からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにした。2016年度と2018年度には、それまで増やしてきたコマを整理し直し、学生の受講機会の維持に配慮しつつ、受講者の少なかった授業をそれぞれ2コマ・1コマ削減した。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「基礎セミナー」（「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、計26コマ（実質17コマ）を提供した。

なお、日本語関係科目は、他の外国語関係科目と同様、平成30年度に発足したマルチリンガル教育センターが所管することとなり、授業担当者全員が当該センターの兼任教員となるとともに、1名が運営に携わった。

○マルチリンガル教育センター兼任教員

有川 友子 教 授	村岡 貴子 教 授	義永美央子 教 授
西村 謙一 准 教 授	北山 夕華 准 教 授	後藤 厳寛 特任准教授
岡本 紗知 講 師	勝田 順子 特任講師	大谷 晋也 准 教 授

（マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員）

○提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- ・総合日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期1コマ計3コマ提供）

大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。

- ・専門日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期3コマ計5コマ提供）

各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) 国際教養2

- ・多文化コミュニケーション（日本語）

（2単位：春～夏学期5コマ・秋～冬学期4コマ計9コマ提供）

下記(3)の基礎セミナーを受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 基礎セミナー

- ・多文化コミュニケーションセミナー

（2単位：春～夏学期5コマ・秋～冬学期4コマ計9コマ提供）

上記(2)の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○共通教育提供科目・担当者一覧

春～夏学期

秋～冬学期

(1) 第2外国語

授業科目名	担当者
総合日本語	勝田 順子
総合日本語	大谷 晋也
専門日本語	義永美央子
専門日本語	村岡 貴子

授業科目名	担当者
総合日本語	勝田 順子
専門日本語	大谷 晋也
専門日本語	義永美央子
専門日本語	村岡 貴子

(2) 国際教養2

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	北山 夕華
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	後藤 厳寛

(3) 基礎セミナー

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	北山 夕華
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	後藤 厳寛

4. 国際交流科目

本学では、英語（もしくはその他の外国語）で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生を主な対象として日本語科目（JA）を提供している。また、本科目は、学部英語コース学生対象の第一外国語科目と合同開講となっている。各JAクラスでは、90分の授業が週に3コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようにカリキュラムが編成されている。本年度は、入門（JA100）から上級（JA600）まで、6レベルで各2トラックを開講した。また秋～冬学期には特に入門レベルの受講希望者が急増したことから、人間科学部で開講されたモナシユカレッジ学生を対象とした短期プログラムに日本語の科目を提供したことにより、JA100が5トラックでの開講となった。トラック1は主として大学院生および学部英語コース学生とiExPO、Frontier-Lab@OsakaU等の短期留学生、トラック2は主としてOUSSEP学生が受講している。専任教員が担当する講義（lecture）は2トラック合同で開講し、トラック間の交流を図るとともに、限られた人員・予算内での学生数の増加に対応している。

○提供科目と担当者一覧

平成30年度 春～夏学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波 康治・岡田亜矢子・蔭山 拓
JA100 トラック2	難波 康治・花井 理香
JA200 トラック1	義永美央子・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック2	義永美央子・半田佳奈子
JA300 トラック1	西口 光一・畑中 香乃・矢部 正人
JA300 トラック2	西口 光一・岡崎 洋三
JA400 トラック1	勝田 順子・田中 真衣・畑中 香乃
JA400 トラック2	勝田 順子・矢部 正人
JA500 トラック1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック1	大谷 晋也・岡崎 洋三・小原 俊彦
JA600 トラック2	大谷 晋也・佐川 祥予・伊藤 創

平成30年度 秋～冬学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波 康治・岡田亜矢子・蔭山 拓
JA100 トラック2	難波 康治・花井理香
JA100 トラック3	難波 康治・笹川恵美子
JA100 トラック4	難波 康治・畑中 香乃・伊藤 創
JA100 トラック5	難波 康治・山田真知子・花井 理香
JA200 トラック1	義永美央子・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック2	義永美央子・半田佳奈子
JA300 トラック1	西口 光一・畑中 香乃・矢部 正人
JA300 トラック2	西口 光一・岡崎 洋三
JA400 トラック1	勝田 順子・田中 真衣・畑中 香乃
JA400 トラック2	勝田 順子・矢部 正人
JA500 トラック1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック1	大谷 晋也・岡崎 洋三・小原 俊彦
JA600 トラック2	大谷 晋也・佐川 祥予・伊藤 創

5. 学際融合教育科目

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されている。大学院に在籍する留学生の増加に伴い、研究活動の遂行のために必要なアカデミックな日本語能力の必要性が高まっているが、本センターではこのようなニーズに対応するため、「上級専門日本語・アカデミックリーディング」「上級専門日本語・アカデミックライティング」「上級専門日本語・アカデミックプレゼンテーション」「上級専門日本語・アカデミックコミュニケーション」の4科目を学際融合教育科目（いずれもセメスター科目、「上級専門日本語・アカデミックプレゼンテーション」は春～夏学期のみ開講）として提供している。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は1科目あたり2単位を取得することができる。これらの科目では、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野を超えた対話や学びの場を提供するように努めている。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○学際融合教育科目・担当者一覧

春～夏学期

授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) A	難波 康治
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A	義永美央子

秋～冬学期

授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) B	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B	義永美央子

IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOSプログラム）とは、日本の国立大学の理工系学部には韓国人留学生を受け入れる留学生事業であり、大阪大学では、プログラム初年度の平成12年度より受入を開始した。本プログラムでは、学部入学前に1年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されているKOSMOSプログラムは、日本語教育と専門教科教育の2つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育教員が担当し、日本語科目については、国際教育交流センター教員がコーディネーターとなり、授業の計画および実施に携わっている。

週7コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配置している。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることから、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、国際教育交流センターの日本語教育研究チームの教員が「ホームルーム」の時間を活用して生活面でのアドバイスをおこなっている。さらに、交流アドバイジング研究チームとも連携して、課外活動として地域の学校における国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1. 時間割

第2次第9期日韓共同理工系学部留学生対象予備教育時間割（平成30年度）2018.10－2019.2

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	(吹田)	(豊中)	(吹田)	(豊中)	(吹田)
1時間目 8:50－10:20		共通教育 数学聴講 解析学	理系 日本語① (村上) Room4		
2時間目 10:30－12:00	専門基礎 日本語① (蔭山) Room4	専門教科 化学(1) (立光) C-S4	理系 日本語② (村上) Room4	日本事情・ 異文化適応 (蔭山) C-S4	専門教科 英語 (スミス) Room 4
昼休み			ホームルーム		
3時間目 13:00－14:30	専門教科 物理(I) (李) Room4	専門教科 化学(2) (立光) C208 (HALC4)		専門教科 数学(2) (杉山) C-S4	専門基礎 日本語③ (上仲) Room 4
4時間目 14:40－16:10	専門教科 物理(II) (寺井) Room4	専門教科 数学(1) (宮田) C304		専門基礎 日本語② (上仲) C-S4	専門基礎 日本語④ (上仲) Room4
5時間目 16:20－17:50					

※月曜日・水曜日・金曜日は吹田で授業（国際教育交流センターICホール）

※時間割は次の順で記載……授業名、()内：講師名、下段：講義室名

※C-S4は全学教育推進機構C棟4階S4教室、C204は同棟2階204教室、C208は同棟2階208教室、C304は同棟3階304教室

2. 学生数と進学先

平成 30 年度は、7 名の学生を受け入れた。進学先は、工学部 5 名、基礎工学部 1 名、理学部 1 名である。

3. 平成 30 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会

6 月 22 日に神戸大学が当番校となって日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催され、本センターおよび国際学生交流課からは村岡貴子・本センター教授、松林慶・国際学生交流課事務職員の 2 名が参加した。同協議会は、日本の文部科学省と韓国国立国際教育院、日本側受入大学と韓国側の予備教育担当大学である慶熙大学の関係者が一同に会し、予備教育を含めた本事業の現状とその問題点等について認識の共有を図り、より効果的な事業実施に向けて検討を行うことを目的としている。

(1) 日 程：2018 年 6 月 22 日（金）

(2) 場 所：神戸大学

(3) 講 演

(1) 「日本の留学生施策について ― 日韓理工系プログラムの今後の方向性 ―」

(文部科学省高等教育局学生・留学生課 小栗孝明専門官)

＊日韓共同理工系学部留学生事業関連のみ抜粋

- ・第 3 次事業について、1) 日本と韓国で相互交流の事業にすること、2) 2020 年から 2029 年までの期間に各年双方 200 名ずつ、合計 4,000 人の交流を目標とすること、3) 韓国から日本へ送り出す分野は指定される一方、日本から韓国に送り出す分野の指定は行わない方向で検討が進められている。

(2) 「日韓共同理工系学部留学生派遣の成果及び第 3 次事業の推進方向」

(大韓民国国立国際教育院 グローバル人材養成部 徐希政主務官)

- ・第二次事業 10 期生については 418 名の応募があり、今後 120 名が選抜され、8 月 22 日に実施される面接を経て 8 月末には最終順位が発表される。
- ・本事業の修了者の活躍について紹介。
- ・第 3 次事業については、日韓両国間の相互交流に転換するが、詳細は未定である。

(3) 「2018 年第 2 次第 9 期生韓国予備教育課程の現状報告」(慶熙大学校国際教育院院長 洪允基氏)

- ・韓国予備教育開始前に日本語予備教育を行った。来日時には N2 レベルを確保するよう教育している。
- ・物理と化学を必修とした。物理担当教員より、記述式答案の作成練習が不足しているとの指摘がある。

(4) 全体会議

テーマ：日韓理工系プログラムによる人材育成の成果を考える

(1) 「日韓プログラムの 20 年を振り返る ― 日本側の教員による取り組みについて ―」

(金沢大学国際機構 太田亨教授)

事業全体の歩みを概観し、両国でのシンポジウム・研究会・協議会・推進フェアの開催、専用メーリングリストの活用、外部資金獲得による研究や教育参画などの成果が紹介された。

- (2) 「日韓プログラム留学生の日本留学観について」 (茨城大学全学教育機構 安龍洙教授)

予備教育生に対する日本留学に関する意識調査（アンケート）の結果、および、日韓プログラムの留学生における日本留学観の変容（PAC分析法）について報告があった。配置大学選択の理由は、将来の仕事に有利、学びたい専門分野があった、が上位を占め、日本に対する印象がプラスイメージに変容するなどの過程も示された。

- (3) 「理工系の大学教育と研究における日韓プログラムの現況」

(大阪大学大学院工学研究科 藤田清士教授)

韓国での本予備教育プログラムに対する教育参画での物理授業の紹介がなされ、かつ、日本側の受け入れ大学の教育・研究指導担当の立場から見た本プログラムの特徴や意義、および課題について説明があった。

- (4) 「卒業生（神戸大学）による発表：日韓プログラムから学んだこと、活かされたこと」

キム・ヒョンジン氏（LINE株式会社）、チョウン・ウォンヨン氏（弁護士：法務法人（有限）太平洋）、ソン・チホン氏（生理学研究所 助教）の3名より、現在の仕事の状況から、日本語能力、人的ネットワーク、国際的な活動を含めた留学経験を振り返った経験談が語られた。それぞれ、学部、修士、博士を取得した人材であり、現在の日本と韓国での職務における活躍ぶりが示された。

4. 韓国教育部国際教育院および大阪韓国教育院との連携

5月10日に、韓国教育部国際教育院のPark Seung Chul院長、事務職員のSeo Huijeong氏およびCho Hejin氏が本学を来訪した。本センターおよび国際学生交流課からは村岡貴子・本センター教授、西村謙一・同准教授および松林慶・国際学生交流課事務職員が応対し、本学の日韓共同理工系学部留学生の状況について意見交換を行った。協議では、1) 来日前の韓国での予備教育の後の日本語能力、2) 学生の日本語能力の個人差への対応、3) 成績や単位取得の状況、4) 数学の論証問題への対応、5) 問題を抱えた学生への対応等について意見交換を行ったほか、今後の教育プログラムや学生指導について両国の教育関係者がより連携を行うことの重要性について改めて確認した。

10月19日に、大阪韓国教育院の金次守院長および南職員と懇談会を行った。本センターおよび国際学生交流課からは西村謙一・准教授、橘弘治・国際学生交流課長、林政伸・同課国際教育共通事務室長が参加し、日韓共同理工系学部留学生の運営にあたって緊密に連絡を取り合うことを改めて確認した。

5. 日韓共同理工系学部留学生事業留学推進フェア

9月2日に、大韓民国 国立国際教育院（京畿道 城南市 盆唐区）において日韓共同理工系学部留学生事業留学推進フェアが開催され、本学からは村岡貴子・国際教育交流センター教授、寺井智之・工学研究科講師、鎌谷研吾・基礎工学研究科講師、卓妍秀・理学研究科講師、松林慶・国際学生交流課事務職員に加え、通訳として本事業第二次第6期生のLEE JUN HYUN氏（基礎工学部3年次生）が参加した。同フェアへの日本からの参加大学は17大学（資料参加大学12大学）であった。フェアの概要を以下に示す。

なお、第二事業は本年度で終了するため、留学フェアは昨年度が最終回である。

- (1) 対象者：第二次第 10 期選抜筆記試験合格者 120 名とその保護者
- (2) フェアで活用した資料：
- 各受入学部の学部紹介を韓国語に翻訳した共通フォーマットのリーフレット（40 部）
 - 各受入学部の学部紹介のための冊子またはパンフレット（各 40 部）
 - 会場で本学学部のウェブページを活用して詳細に説明
- (3) 大阪大学ブースでの対応：
- ブースを訪れたすべての学生と保護者に資料を配布した。
 - 大阪大学に進学を希望する学生には、面接シートを用いて詳細に面接（14 名）を行った。
 - 面接を待つ学生と保護者に対して、適宜質問への対応を行った。
- (4) 主な質問内容：
- 学部間で類似すると見られる学科の教育・研究内容の違い
 - 日本の大学における大阪大学の位置づけやランキング、看板学部・看板学科について
 - 兵役休学の導入はなされているか
 - 他大学の理工系学部との違い（例：東工大、名古屋大）
 - 筆記試験の成績・順位からみた大阪大学合格の可能性
（→韓国の国際教育院との連携により、昨年度に比べ、学生は情報が円滑に入手できた）
 - 就職状況、および企業立ち上げや就職のための支援の有無
 - 大阪での生活や地理、入寮期間やアパートの家賃、治安等について

V. 国際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、大阪大学短期留学特別プログラムとして運用を開始された 1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムの中核として平成 30 年度は春学期に 73 名、秋学期には 98 名の交換留学生を受け入れた。G30 によって非正規生を含めた留学生受入に数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad タイプの留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。同時に、日本人学生と留学生が英語で専門科目（国際交流科目）を共に学ぶ状況を学内に作るための戦略プログラムとしての性格もある。なお国際交流科目の一部は「G30 英語コース」の履修科目としても指定されており、様々な背景を持つ学生が一堂に集うカリキュラムを充実させている。

平成 30 年度も奨学金受給者を主対象として UR 都市機構と連携した宿舎を用意した。職制上変則的ではあるものの、プログラムコーディネータが管理会社の協力の下に運営しており、かつては 8 住戸 16 人を住まわせていた宿舎を、本年度は 5 住戸 15 人の三人シェア体制へ変更するなど、留学生受入スキームのインフラ整備など、全学プログラムの運営課制下合理化に向けての先導的な役割を引き続いて果たしている。

なお平成 20 年度以来、留学生センター所属のコーディネータおよびサブコーディネータの二人体制（教員 1、職員 1）で運用されているが、平成 21 年度の G30 選定に伴い、サブコーディネータが G30 特任職員となった。教員 3（教授、准教授、特任助教）、職員 2 並びに事務補佐員 3 名から構成される「短期留学開発研究チーム」によって運営されている一プログラムという位置づけになっている。また OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。また平成 30 年度末には 10 年単位で集めてきた授業アンケートデータを分析に取りかかっており、より良い英語授業を学内で提供出来るよう、考察を進めている。

1. 行 事

OUSSEPおよび国際交流科目関係の行事（2018年4月から2019年3月まで）

月	日	曜日	行 事 等
4	1	日	4月受け入れ学生 大阪到着 市役所手続き等（～4/4(水)）
	5	木	交換留学生オリエンテーション（OUSSEP, FrontierLab, iExPO）
			自主研究指導教員面談（吹田キャンパス）
			吹田キャンパスツアー
			OUSSEPオリエンテーション
			ホストファミリーとの出会いの会
	6	金	UR学生オリエンテーション
			豊中キャンパスツアー
			自主研究指導教員面談（豊中キャンパス）
	9	月	国際交流科目（平成30年度 春・夏学期）開始
	9～12		学生定期健康診断（豊中キャンパス）
	13	金	国際交流科目（平成30年度 春・夏学期）履修届提出締め切り
	19～26		学生定期健康診断（吹田キャンパス）
5	23	月	自主研究 Registration & Study Plan Form 提出締め切り
	29	日	いちょう祭準備
	30	月	いちょう祭
6	1	火	いちょう祭 祭日
	2	水	いちょう祭片付け
	28	月	日本食文化調理体験（高野豆腐）
7	16	土	見学旅行（高野山）
	17	日	
8	9	月	日本食文化調理体験（わらび餅）
	27	金	フェアウェルパーティ
9	6	月	国際交流科目（平成30年度 春・夏学期）終了
	7	火	夏季休業開始 終了学生随時帰国
10	14	金	9月受入れ学生大阪到着（～9/21(金)） 市役所手続き等（～9/26(水)）
	27	木	豊中オリエンテーション（交換留学生オリエンテーション、OUSSEPオリエンテーション、 豊中キャンパスツアー、自主研究指導教員面談）
	28	金	吹田オリエンテーション（UR学生オリエンテーション、ホストファミリーとの出会いの会、 自主研究指導教員面談、吹田キャンパスツアー）
11	1	月	国際交流科目（平成30年度 秋・冬学期）授業開始
	10	水	国際交流科目（平成30年度 秋・冬学期）履修届提出締め切り
	19	金	自主研究 Registration & Study Plan Form 提出締め切り
12	1	木	大学祭準備 授業なし
	2	金	まちかね祭大学祭（～11/4(日)）
	5	月	My Country & My University発表会（EXPOCITY 光の広場） 大学祭片付け授業なし
	17	土	見学旅行（宮島・広島）
	18	日	
1	3	月	日本食文化調理体験（お好み焼VS広島焼き）
	26	水	冬期休業（～1/3(木)）
2	11	金	大学入試センター準備のため休講
	30	水	フェアウェルパーティ
3	8	金	国際交流科目（平成30年度 秋・冬学期）終了
	9	土	春季休業開始 終了学生随時帰国

2. 2018 年度 春夏学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2018 年度 春夏学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

No.	国 籍	出 身 校 名	配属部局
1	アメリカ合衆国	ウェズリアンカレッジ	外国語学部
2	アメリカ合衆国	ジョージア大学	理学部
3	アメリカ合衆国	ジョージア大学	文学部
4	アメリカ合衆国	ジョージア大学	人間科学部
5	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	人間科学部
6	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	人間科学部
7	アメリカ合衆国	パデュー大学	工学部
8	インドネシア	インドネシア大学	経済学部
9	インドネシア	ガジャマダ大学	人間科学部
10	オーストラリア	モナシュ大学	文学部
11	オーストリア	ウィーン大学	外国語学部
12	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	文学部
13	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	人間科学部
14	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	人間科学部
15	カナダ	マックマスター大学	外国語学部
16	カナダ	マックマスター大学	理学部
17	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	基礎工学研究科
18	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学 (KTH)	工学研究科
19	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学 (KTH)	工学研究科
20	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学 (KTH)	工学研究科
21	スペイン	マドリッド自治大学	文学部
22	スペイン	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	理学部
23	セルビア	ウィーン大学	人間科学部
24	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
25	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
26	ドイツ	アーヘン工科大学	情報科学研究科
27	ドイツ	アーヘン工科大学	経済学研究科
28	ドイツ	アーヘン工科大学	理学研究科
29	ドイツ	アウグスブルグ大学	経済学研究科
30	ドイツ	ゲッティンゲン大学	経済学部
31	ドイツ	ビーレフェルト大学	基礎工学部
32	ドイツ	ベルリン工科大学	基礎工学部
33	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	外国語学部
34	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	人間科学部
35	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	人間科学部
36	ドイツ	ルール・ボーフム大学	文学部

2018 年度 春夏学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

No.	国 籍	出 身 校 名	配属部局
37	ドイツ	ルール・ボーフム大学	文学部
38	ドイツ	ルール・ボーフム大学	経済学研究科
39	ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール カルバン派大学	外国語学部
40	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	文学部
41	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	法学部
42	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	理学研究科
43	ブラジル	サンパウロ大学	工学部
44	ブラジル	サンパウロ大学	工学部
45	フランス	グルノーブル大学連合	経済学研究科
46	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
47	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
48	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
49	フランス	ストラスブール大学	人間科学部
50	ベトナム	ブリティッシュ・コロンビア大学	経済学部
51	メキシコ	メキシコ国立自治大学	基礎工学部
52	メキシコ	メキシコ国立自治大学	工学部
53	メキシコ	メキシコ国立自治大学	工学部
54	メキシコ	メキシコ国立自治大学	外国語学部
55	英国	リーズ大学	文学部
56	英国	リーズ大学	人間科学部
57	英国	香港大学	文学部
58	香港	香港科技大学	基礎工学部
59	香港	香港大学	文学部
60	香港	香港大学	工学部
61	台湾	国立交通大学	人間科学研究科
62	台湾	国立交通大学	工学研究科
63	台湾	国立台湾大学	工学部
64	台湾	国立台湾大学	理学部
65	台湾	国立台湾大学	理学部
66	台湾	国立台湾大学	人間科学部
67	台湾	国立台湾大学	人間科学部
68	大韓民国	釜山大学校	外国語学部
69	大韓民国	中央大学校	経済学部
70	中華人民共和国	南京大学	文学部
71	中華人民共和国	南京大学	理学部
72	中華人民共和国	武漢大学	経済学研究科
73	日本	ハイデルベルグ大学	人間科学研究科

2018 年度 春夏学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	芸術との科学のインターフェイス —文理融合アプローチの実践	Art and Neuroscience — An Interdisciplinary Approach	文学研究科	好井 千代
2	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology	人間科学研究科	Mohacs Gergely
3	比較社会学	Comparative Sociology	人間科学研究科	Scott North
4	多文化共生論	Seminar in Studies of Multicultural Societies	人間科学研究科	Viktoriya Kim
5	政治学入門	Introduction to Politics	人間科学研究科	Philip Streich
6	日本の社会階層	Social Stratification in Japanese Society	人間科学研究科	Paola Cavaliere
7	移動の社会学	Sociology of Migration	人間科学研究科	Viktoriya Kim
8	基本的人権論	Human Rights	人間科学研究科	Christie Lam
9	家族と結婚の社会学入門	Introduction to Sociology of Marriage and Family	人間科学研究科	Viktoriya Kim
10	知覚と認知の心理学	Psychology of Perception and Cognition	人間科学研究科	森川 和則
11	ジェンダー論	Gender Studies	人間科学研究科	Paola Cavaliere
12	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
13	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
14	バイオエシックスとヘルス・ロー	Bioethics and Health Law: Legal Issues Concerning Biotechnology, Medicine and Health Care System	法学研究科	瀬戸山 晃一
15	身の回りの化学	Chemistry and Human Life	理学研究科	石川 直人
16	我が国の保健サービスと医療ケア	Health Service and Medical Care in Japan	医学研究科	杉本 香奈
17	地球総合工学入門 —持続可能な開発における地球総合工学の役割—	Introduction to Global Architecture — Role of Global Architecture in Sustainable Development —	工学研究科	戸田 保幸
18	近代日本文学における大阪	Osaka in Modern Japanese Literature	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュース
19	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国学部	波多野 吉徳
20	イノベーションの管理と変遷	Managing Innovation and Change	インターナショナルカレッジ	三森 八重子
21	オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	国際教育交流センター	魚崎 典子
22	日本の社会とイデオロギー	Japan; Society and Ideology	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
23	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
24	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100 - Track 2		
25	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	義永 美央子
26	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200 - Track 2		
27	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
28	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300 - Track 2		
29	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	勝田 順子
30	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400 - Track 2		
31	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
32	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500 - Track 2		
33	総合日本語 JA600-トラック 1	Japanese JA600 - Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
34	総合日本語 JA600-トラック 2	Japanese JA600 - Track 2		
35	異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	国際教育交流センター	中野 遼子
36	科学英語入門	Introduction to Scientific English	国際教育交流センター	岡本 紗知
37	教育の社会学	Sociological Perspectives on Education	国際教育交流センター	北山 夕華
38	自主研究 II-A 自主研究 II-B 自主研究 II-C	Independent Study II -A Independent Study II -B Independent Study II -C		各自主研究担当教員

3. 2018 年度 秋冬学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2018 年度 秋冬学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

No.	国 籍	出 身 校 名	配属部局
1	アメリカ合衆国	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	人間科学部
2	アメリカ合衆国	ジョージア大学	人間科学部
3	インドネシア	アイルランガ大学	経済学部
4	インドネシア	ガジャマダ大学	基礎工学部
5	インドネシア	バンドン工科大学	工学部
6	オーストリア	ウィーン大学	経済学研究科
7	オランダ	グローニンゲン大学	文学部
8	オランダ	グローニンゲン大学	基礎工学部
9	オランダ	デルフト工科大学	基礎工学部
10	オランダ	デルフト工科大学	工学研究科
11	カナダ	デルフト工科大学	工学部
12	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	人間科学部
13	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	理学部
14	カナダ	マックマスター大学	理学部
15	カナダ	マックマスター大学	人間科学部
16	カナダ	マックマスター大学	理学部
17	クロアチア	アーヘン工科大学	外国語学部
18	シンガポール	シンガポール国立大学	文学部
19	タイ	カセサート大学	外国語学部
20	タイ	チュラロンコン大学	人間科学部
21	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
22	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
23	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
24	デンマーク	コペンハーゲン大学	理学部
25	デンマーク	コペンハーゲン大学	人間科学部
26	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
27	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
28	デンマーク	コペンハーゲン大学	理学部
29	デンマーク	南デンマーク大学 (人文学部)	人間科学部
30	デンマーク	南デンマーク大学 (人文学部)	人間科学部
31	ドイツ	アーヘン工科大学	工学研究科
32	ドイツ	アウクスブルク大学	経済学部
33	ドイツ	アウクスブルク大学	経済学部
34	ドイツ	アウクスブルク大学	経済学部
35	ドイツ	アウクスブルク大学	人間科学研究科
36	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	工学研究科
37	ドイツ	グローニンゲン大学	人間科学部
38	ドイツ	グローニンゲン大学	人間科学部
39	ドイツ	デルフト工科大学	工学部
40	ドイツ	ハイデルベルク大学	理学部
41	ドイツ	ハイデルベルク大学	文学研究科
42	ドイツ	ハイデルベルク大学	理学部
43	ドイツ	ベルリン工科大学	人間科学部
44	ドイツ	ベルリン工科大学	工学研究科
45	ドイツ	ベルリン工科大学	工学研究科
46	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	法学部
47	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	経済学研究科
48	ドイツ	ミュンヘン工科大学	経済学部

2018 年度 秋冬学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

No.	国 籍	出 身 校 名	配属部局
49	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	人間科学部
50	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	法学部
51	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	人間科学部
52	ドイツ	ルール・ボーフム大学	文学部
53	ドイツ	ルール・ボーフム大学	文学研究科
54	ドイツ	ルール・ボーフム大学	文学部
55	フィンランド	オーボアカデミー大学	国際公共政策研究科
56	フィンランド	オーボアカデミー大学	言語文化研究科
57	フィンランド	オーボアカデミー大学	言語文化研究科
58	フィンランド	ヘルシンキ大学	外国語学部
59	ブラジル	サンパウロ大学	工学部
60	フランス	エックス・マルセイユ大学	外国語学部
61	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
62	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
63	フランス	グルノーブル大学連合	工学研究科
64	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
65	フランス	ストラスブール大学	法学研究科
66	フランス	ストラスブール大学	外国語学部
67	フランス	ストラスブール大学	人間科学部
68	フランス	リール政治学院	外国語学部
69	フランス	リール政治学院	外国語学部
70	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
71	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
72	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
73	ベトナム	ハノイ国家大学	外国語学部
74	ベトナム	ミュンヘン工科大学	工学部
75	メキシコ	メキシコ国立自治大学	人間科学部
76	メキシコ	メキシコ国立自治大学	工学部
77	ルーマニア	グローニンゲン大学	理学部
78	ロシア	サンクトペテルブルク大学	人間科学部
79	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
80	ロシア	サンクトペテルブルク大学	人間科学部
81	ロシア	サンクトペテルブルク大学	法学部
82	英国	ダーラム大学	文学部
83	英国	ダーラム大学	基礎工学部
84	英国	リーズ大学	外国語学部
85	英国	リーズ大学	人間科学部
86	香港	香港科技大学 (理学部)	基礎工学部
87	香港	香港科技大学 (理学部)	基礎工学部
88	台湾	国立台湾大学	法学部
89	大韓民国	ジョージア大学	理学部
90	大韓民国	ボルドー大学	理学部
91	大韓民国	釜山大学校	外国語学部
92	大韓民国	漢陽大学校	文学部
93	中華人民共和国	ハイデルベルク大学	理学研究科
94	中華人民共和国	上海交通大学	理学部
95	中華人民共和国	武漢大学	国際公共政策研究科
96	中華人民共和国	北京大学	法学部
97	中華人民共和国	北京大学	情報科学研究科
98	中華人民共和国	北京大学	言語文化研究科

2018 年度 秋冬学期 国際交流科目開講リスト

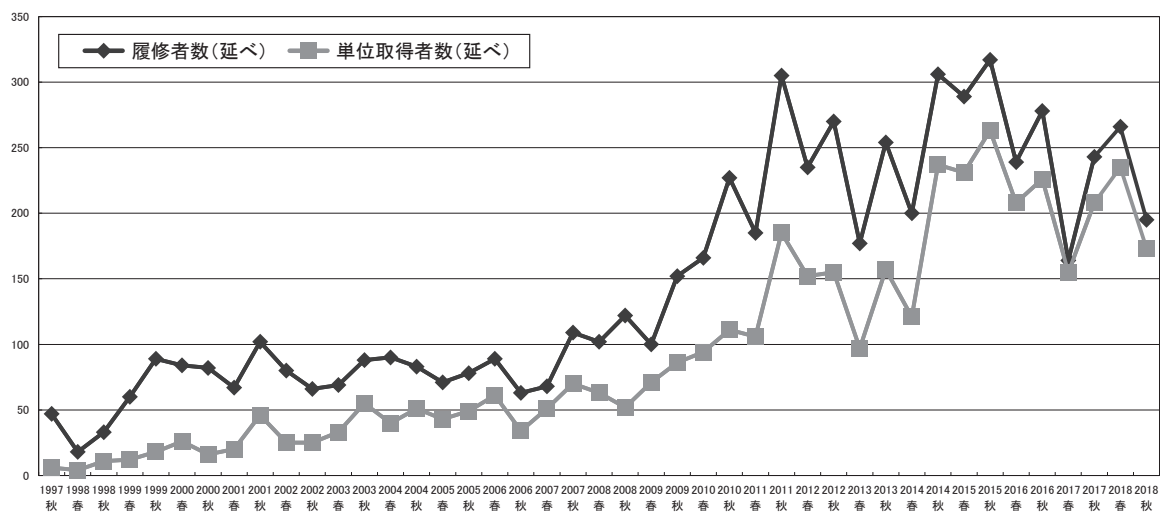
No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	アジアから考える グローバルヒストリー	Creating Global History from Asian Perspectives	文学研究科	秋田 茂
2	多変量統計科学	Multivariate Data Science	人間科学研究科	足立 浩平
3	日本のサル学	Primateology in Japan	人間科学研究科	中道 正之
4	社会学入門	Introduction to Sociology	人間科学研究科	Viktoriya KIM
5	文化人類学理論と論文の書き方	Cultural Anthropological Theory and Writing	人間科学研究科	Christie Lam
6	グローバル化と大学教育	Global Issues in Education	人間科学研究科	Kim Mawer
7	日本の神話と伝説	Japanese Myths and Legends	人間科学研究科	Irina HOLCA
8	社会学	Sociological Theory	人間科学研究科	Viktoriya Kim
9	市民社会運動	Introduction to Civil Society Movements	人間科学研究科	Christie Lam
10	比較思想史	Contemporary Japanese Thought	人間科学研究科	Wolfgang Schwentker
11	メディア社会学	Media Sociology	人間科学研究科	Viktoriya Kim
12	特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題)	Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law)	法学研究科	Leonardo Ciano
13	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
14	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
15	マーケティング意思決定	Marketing Decision Making	経済学研究科	WIRAWAN DONY DAHANA
16	現代物理学の最前線	Current Topics in Modern Physics	理学研究科	久野 良孝
17	応用理工学入門	Introduction of Mechanical, Materials and Manufacturing Science	工学研究科	安田 弘行
18	環境・エネルギー問題に対する 工学的アプローチ	Engineering Approaches to Energy and Environmental Issues	工学研究科	藤井 俊行
19	持続可能な社会に向けた環境と エネルギー問題	Energy and Environment: A multidisciplinary approach towards world's energy crisis	工学研究科	藤田 清士
20	国際理解入門	Introduction to International Understanding	工学研究科	藤田 清士
21	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュウ
22	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国部学部	波多野 吉徳
23	ソーシャルイノベーションと ソーシャルデザイン	Social Innovation and Social Design	インターナショナル カレッジ	三森 八重子
24	文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	国際教育交流センター	有川 友子
25	言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese language instruction	国際教育交流センター	西口 光一
26	コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	国際教育交流センター	魚崎 典子
27	日本のメディアと コミュニケーション	Media and Communications in Japan	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
28	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
29	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100 - Track 2		
30	総合日本語 JA100-トラック 3	Japanese JA100 - Track 3		
31	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	義永 美央子
32	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200 - Track 2		
33	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
34	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300 - Track 2		
35	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	勝田 順子
36	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400 - Track 2		
37	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
38	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500 - Track 2		
39	総合日本語 JA600-トラック 1	Japanese JA600 - Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
40	総合日本語 JA600-トラック 2	Japanese JA600 - Track 2		
41	科学と社会	Science and Society	国際教育交流センター	岡本 紗知
42	近現代日本の諸事情	Modern Japanese Circumstances	国際教育交流センター	後藤 徹寛
43	異文化コミュニケーションと言語	Intercultural Communication and Language	国際教育交流センター	中野 遼子
44	社会起業	Social Entrepreneurship	創成本部	伊藤 ゆかり
45	シティズンシップと多文化共生	Citizenship, Diversity and Inclusion	国際教育交流センター	北山 夕華
46	自主研究 I-A 自主研究 I-B 自主研究 I-C	Independent Study I-A Independent Study I-B Independent Study I-C		各自主研究担当教員

4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

部局別：OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文	人科	外	法	経済	理	医	歯		
2018 春	7 (7)	78 (74)	28 (27)	29 (26)	14 (12)	38 (24)	5 (2)	3 (3)		
2018 秋	6 (6)	66 (65)	13 (9)	16 (14)	22 (18)	20 (19)	2 (2)	0 (0)		
2018 春・秋合計	13 (13)	144 (139)	41 (36)	45 (40)	36 (30)	58 (43)	7 (4)	3 (3)		
1996 春から2018 秋の合計	477 (312)	599 (346)	1001 (578)	659 (397)	577 (385)	447 (279)	140 (66)	12 (7)		
学部	薬	工	基工	言語	国公	情報	生命	高司	計	G/R
2018 春	0 (0)	3 (3)	25 (24)	31 (29)	0 (0)	5 (4)	2 (2)	0 (0)	266 (235)	0.88
2018 秋	0 (0)	0 (0)	21 (18)	25 (19)	1 (1)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	195 (173)	0.89
2018 春・秋合計	0 (0)	3 (3)	46 (42)	56 (48)	1 (1)	8 (6)	2 (2)	0 (0)	461 (408)	0.89
1996 春から2018 秋の合計	55 (31)	800 (443)	580 (375)	77 (60)	49 (32)	29 (20)	31 (15)	3 (1)	5534 (3345)	0.60

いずれも延べ数。() 内の数字は単位取得者数を表す。G/Rは、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。



OUSSEP 学生以外の国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移

5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受講する科目であり、その数は年々増え、平成30年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな部局から多様な授業が提供された。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートを行っている。

(1) FDオリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員およびTA（ティーチングアシスタント）を対象にFDオリエンテーションを豊中と吹田の両キャンパスで実施している。平成30年度は、全学教育推進機構教育学習支援部（TLSC）の佐藤浩章准教授監修のもと、FD研修内容の改善に努め、さらに、「国際交流科目ティーチング・ティップス集」の作成にも取り組んでいる。

平成30年度 春～夏学期 国際交流科目 担当教員・TA対象 FDオリエンテーション

●平成30年4月6日（金）豊中キャンパス CELAS 2階 セミナールームA 14：00～

〈プログラム〉

I. オリエンテーション

国際交流科目でご配慮いただきたいこと

授業アンケート結果報告（前学期分）と実施のお願い

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. FD

「国際交流科目 Teaching Tips 集作成 ワークショップ

— 国際交流科目担当者お悩みアレコレの解決に向けて —」

講師：佐藤 浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部准教授）

* 講演は日本語で行われます。

III. 質疑応答・全体での意見交換



FDオリエンテーションにおけるワークショップとグループディスカッションの様子

平成 30 年度 秋～冬学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象
FDオリエンテーション

●平成 30 年 9 月 28 日（金）吹田キャンパス 情報科学研究科 講義室 10：00 ～

〈プログラム〉

I. オリエンテーション

- ① 通常の授業と国際交流科目はここが違う！
- ② 授業アンケート結果からわかる学生を惹きつける 3 つのポイント

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. FD

- ① 学生を惹きつける授業のコツ

講師：村上・スミス・アンドリュース（言語文化研究科准教授）

- ② 国際交流科目 Teaching Tips 集作成ワークショップ— 解決策編

ファシリテーター：近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教）

監修：佐藤 浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部准教授）

* 講演・ワークショップは日本語で行われます。

III. 授業実施に関わる情報交換会



FDオリエンテーションにおける講演とグループディスカッションの様子

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、毎学期数回の授業が行われた時点で、授業の最後に時間をとって受講生アンケートを実施している。アンケートは指定した受講生に回収させ、コピーをとり担当教員に学内便にて返送するとともに、集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、その学期の後半の授業にアンケートでの受講生の声をフィードバックいただきながら、授業を組み立てていただくよう担当教員の方々にお願いしている。詳しくは巻末資料編の資料5のアンケートのサンプルを参照いただきたい。

また、学期の原則最終授業に同様のアンケートをとり、指定した学生に回収させ、そのコピーと集計結果は、成績評価の締め切り後に担当教員に返送している。

平成 30 年 5 月 11 日

平成 30 年度 春夏学期 国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長

有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
先生方にご開講頂いている国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入に大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められています。

このような趣旨に基づき、毎学期に 2 回（中間および期末）受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しています。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですが何とぞ高配賜りますようお願い申し上げます。具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照くだされば幸いです。公平性担保のために、特に「回収方法」につきましてご注意くださいようお願い申し上げます。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考ともさせて頂きたく併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させていただきます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 若林 沙希

wakabayashi-s@office.osaka-u.ac.jp

Tel : 06-6879-7128（内線 7128）

平成 31 年 1 月 8 日

平成 30 年度 秋冬学期 国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長

有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
先生方にご開講頂いている国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められています。

このような趣旨に基づき、毎学期に 2 回（中間および期末）受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しています。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですが何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照くだされば幸いです。公平性担保のために、特に「回収方法」につきましてご注意くださいようお願い申し上げます。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考ともさせて頂きたく併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させていただきます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 柏原 美佐緒

kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp

Tel : 06-6879-7128（内線 7128）

VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム

1. 『超短期』プログラム

平成 20 年度以来、当センターでは、いわゆる「超短期」と呼ばれるプログラムを運用してきている。平成 21 年度には「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラムとして並行開催した。これは平成 20 年度大学改革推進等補助金で「21 世紀型『超短期』受入プログラム開発」で試行したパイロットプロジェクトであり、全国の Short-Stay プログラム普及への先鞭をつけた。

日本学生支援機構（JASSO）によって Short-Stay 奨学金が創設された平成 23 年度には、東日本大震災の悲劇を受け「日本語日本文化プログラム」に止まらない「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再設計、阪神淡路大震災の経験など「防災・減災」の取り組みについても紹介するプログラムとして運用することとした。平成 23 年度夏においては、前年度のタイ王国での洪水被害に伴い夏休みのスケジュールが変わったため同国の協定校から例年通りの参加は難しい由の相談を受けた。そこでプログラムの「防災」の主旨にも鑑み、通常の 8 月プログラムに加えて 9 月プログラムを開催して、日本語に親しみつつ、日本の防災実践に触れる機会を提供している。

平成 24 年度以降、協定校等からの要請などで概ね春と夏に「超短期」を開催する方向で運用されている。平成 29 年度についてはタイの協定校の担当者交代に伴い、夏のプログラムがキャンセルされており、韓国協定校を対象とした冬プログラムのみを開催している。平成 30 年度は、マレーシアの大学の要望に合わせたプログラムを実施し、同校から 20 名の学生を受け入れた。韓国協定校対象の冬プログラムは例年通り開催された。

【夏超短期参加者リスト】

2018 年度 夏超短期プログラム（2018.8.1－2018.8.23 実施）

	在籍校	国籍	専攻
1	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
2	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
3	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
4	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
5	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
6	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
7	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
8	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
9	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
10	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
11	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
12	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
13	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
14	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
15	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
16	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
17	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
18	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
19	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering
20	マレーシア工科大学	マレーシア	Chemical Process Engineering

【春超短期参加者リスト】

2018 年度 春超短期プログラム（2019.1.31－2019.2.21 実施）

	在籍校	国籍	専攻
1	釜山大学校	韓国	Physics
2	釜山大学校	韓国	Japanese Language & Literature
3	釜山大学校	韓国	Clothing & Textiles
4	釜山大学校	韓国	Japanese Language & Literature
5	釜山大学校	韓国	Statistics
6	釜山大学校	韓国	Global Studies
7	釜山大学校	韓国	Department of Electronics
8	釜山大学校	韓国	Chinese Language & Literature
9	釜山大学校	韓国	Interior & Environmental Design
10	釜山大学校	韓国	School of Urban, Architecture and Civil Engineering
11	釜山大学校	韓国	School of Electrical and Computer Engineering
12	釜山大学校	韓国	International Trade
13	釜山大学校	韓国	Preliminary Medicine
14	釜山大学校	韓国	Nano Energy Engineering
15	釜山大学校	中国	Political Science & Diplomacy

2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP

J-ShIP は平成 23 年度夏に新たに創設された。

設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤（2012）等に譲るが、日本語をキラーコンテンツとし、平成 23 年度に新設された Short-Stay プログラム奨学金を最大限獲得する設計であった。かなりの突貫工事であったが、日本語教育開発研究チームの全面的な協力を得て急遽運営にこぎ着けることができた。立ち上げ当初には 10 月から 12 月中旬までの 2 ユニット、および 12 月中旬から 1 月末までの 1 ユニットとして運用された。

平成 24 年度には、新たに「夏プログラム」も増設し、カリフォルニア大学（UC）を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講プランを作り、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語単位を在籍校において互換しうる機会を提供してきている。

特に平成 25 年 6 月には UC の日本進出 50 周年のイベントが東京で行われたが、同時に UC 関係者多数を招いて大阪でもサブイベントを開催し、その際にも J-ShIP が本学と UC とが連携をする際のフラッグシッププログラムとして紹介された。その後秋プログラムは閉講し、豪州向け冬プログラムとともに、協定校等の長期休暇期間中に開講される「サマープログラム」へと性格を変えた。

平成 26 年度以降は米国向け 90 コマ 8 週間のサマーインスティテュート（6－8 月）、および豪州向け 45 コマ 5 週間のサマーインスティテュート（12－1 月）の 2 サイクルを運営することになった。それぞれに多数の学生が来学し、特に夏プログラムについては、UC などから予想外に多くの学生が殺到し、教室を「時間差」でやりくりをしながらプログラムの運営を行うことになった。また平成 26 年度からは宿舍のオプションとして新たに「ホームステイ」を導入した。日本学生支援機構からの奨学金支援を受けている。

平成 27 年度 28 年度には、協定校側からの強い要望を受けて中上級クラスである「Mid-Summer」プログラムを追加し、受入れ体制をさらに拡充して運営するなど、引き続いて受入態勢を強化してきた。ハード面では箕面に教室および職員室を増設して 3 教室体制を整備した。また非常勤講師のボランティアに頼っていた「オフィスアワー」を制度化し、参加学生の旺盛な学習ニーズに応えている。平成 29 年度の夏には海外などで活躍する日本語教師の先生方を期間中に特任教員として雇用し、J-ShIP の一部の運営をお任

せするなど、実験的なプログラムとしても先進的に運用を続けている。平成30年度の夏は、大阪北部地震や西日本豪雨の対応に追われたが、多くの方々からの協力により、一時学生の避難場所を確保するなどの対策を講じて、最後までプログラムを実施することができた。

近藤佐知彦（2012）「SSプログラムJ-ShIPの1年目：新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第16号 pp.07 - 106

【夏J-ShIP参加者リスト】

2018年度 夏J-ShIPプログラム（2018.6.18-2018.8.10実施）

	在籍校	国籍	専攻
1	カリフォルニア大学 アーバイン校	中国	Mathematics
2	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	Ecology & Evol Biology
3	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	Aerospace Engineering
4	カリフォルニア大学 アーバイン校	フィリピン	Biological Sciences
5	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	International Studies
6	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Literature
7	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Molecular, Cell & Dev Bio
8	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Comp Game Design
9	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Computer Science
10	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Computer Science
11	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Neuroscience
12	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	communication
13	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	Film and Media Studies
14	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	Creative Studies:Comp Sci
15	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	Physics (Bs)
16	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Pharmacological Chemistry
17	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Electrical Engineering
18	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Marine Biology
19	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Biochem & Cell Biology
20	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	中国	International Studies - International Business
21	カリフォルニア大学 デイビス校	中国	Design
22	カリフォルニア大学 デイビス校	インド	Managerial Economics
23	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Public Health
24	カリフォルニア大学 バークレー校	中国	Undeclared
25	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Mathematics
26	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Intended computer science
27	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Anthropology
28	カリフォルニア大学 リバーサイド校	アメリカ	Mechanical Engineering
29	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Biochemistry
30	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Nursing - Gen/Prelicense
31	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Physiological Science
32	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Design Media Arts
33	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Architectural Studies
34	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Microb, Im, Mol Gen (Pre)
35	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Molec, Cell, & Dev Bio
36	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	台湾	Electrical Engineering
38	オークランド大学	ニュージーランド	Data science
39	ケンタッキー大学	アメリカ	Japanese language
40	ケンタッキー大学	アメリカ	English
37	ケンタッキー大学	アメリカ	Japan studies
41	コーネル大学	中国	East Asian Studies
42	ソウル神学大学校	韓国	Japanese
43	ソウル神学大学校	韓国	Japanese
44	ソウル神学大学校	韓国	Japanese
45	ブラウン大学	中国	Computer Science
46	プリティッシュコロンビア大学	中国	Sociology

※網かけの学生は地震のために途中帰国。

【冬J-ShIP参加者リスト】

2018 年度 冬J-ShIP プログラム（2019.1.7－2019.2.8 実施）

	在籍校	国籍	専攻
1	モナシュ大学	インドネシア	Bachelor of Music
2	モナシュ大学	インドネシア	Japanese studies
3	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese studies
4	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese studies
5	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese studies
6	モナシュ大学	シンガポール	Chemistry
7	モナシュ大学	中国	Finance, Japanese
8	モナシュ大学	中国	Accounting and Japanese
9	モナシュ大学	ドイツ	Psychology
10	モナシュ大学	マレーシア	Japanese studies
11	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Korean
12	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Japanese
13	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Japanese & French
14	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Computer science
15	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Japanese
16	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Japanese
17	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Japanese
18	オーストラリア国立大学	中国	Japanese and economics
19	オーストラリア国立大学	中国	Medical science
20	オーストラリア国立大学	中国	Psychology
21	オーストラリア国立大学	中国	Psychology
22	オーストラリア国立大学	中国	International
23	オーストラリア国立大学	中国	Digital humanities
24	オーストラリア国立大学	中国	International
25	オーストラリア国立大学	中国	Finance
26	オーストラリア国立大学	中国	International relations
27	オーストラリア国立大学	ニュージーランド	Accounting
28	ソウル神学大学校	韓国	Japanese
29	ソウル神学大学校	韓国	Japanese
30	ソウル神学大学校	韓国	Japanese

3. 『学外連携実習』 ExPERT

平成 30 年度には、新たに ExPERT（Extension Program for Education in Real-world Trainings）を開始した。

かねてより、多くの協定校から職業体験型プログラムへの要望が強く、より多くの優秀な学生を受け入れるため、吹田キャンパス近郊のエキスポシティ内にある大阪英語村（Osaka English Village, 以下 OEV）と共同で、8 週間の無給職業トレーニングプログラムを開発した。参加学生へ単位を付与するために、教職課程の『教育実習』の科目を参考にしながら、『学外連携実習』を新たに正規科目として登録した。

OEV は体験型英語教育施設で、アメリカの日常や歴史、文化をテーマにした様々なシチュエーションルームが 23 種類あり、各ルームでは、英語ネイティブのインストラクターとともに英語を楽しみながら学ぶことができる（OEV ホームページ参照）。ExPERT 生は、インストラクターの訓練を受けながら、授業見学、アシスタント業務、そして実習体験を通して、主に子どもや高校生以下の学生に対する英語教授法を修得する。

平成 30 年度はパイロット・プログラムとして、アメリカ合衆国から 4 名の学生を受け入れた。OEV による評価、ウィークリーレポート、最終プレゼンテーションを経て、4 名とも無事に修了し、単位（4 単位）が付与され、本センターと OEV 連名の修了証書が授与された。

OEV は、4 名の ExPERT 生の受け入れにより、「OEV のアカデミック・スタッフにとって、学生の視点が

入り、良い刺激となった」、「年齢が近いため、子どもが話しかけやすく、良い影響があった」、「受け入れて良いことしかなかったので、今後もぜひ続けたい」と、プログラムを高く評価し、2019年度も実施予定である。また、4名の参加者のうち1名は、平成31年4月からOEVにて正式に就業している。

宿舎については、ホームステイの斡旋会社ネクステージと協力し、「英語インストラクター実習生のホームステイ」として、ExPERT生にホストファミリーへの週3回の1時間英語レッスンを義務付け、その代わりに宿泊費を安価に提供する新たなホームステイの枠組みも開発した。

また、同プログラムは、平成30年度3月に締結された「国立大学法人大阪大学と三井不動産株式会社との連携協定」に基づく取り組みのキックオフプログラムとして実施された。

VII. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS：Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。定期的に発行するIRISレター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUIA：Osaka University International Student Association）やB.S.P.（Brothers and Sisters Program）の支援も継続して行っている。更に、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適応できるようにアドバイスにあたりるとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの紹介と情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS（あいりす）はInformation Room for International Studentsの略。以下IRISと記す。）にて平日8時半～18時の間、豊中地区では学生会館2階の豊中分室で平日10時半～17時の間、箕面分室は原則として平日10時半～17時の間、原則として休業日を除く学期期間中、行っている。表1にIRIS、表2に豊中分室、表3に箕面分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

国際教育交流センター所属及び新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申込受付などを含め、来日前からコンタクトを取っている。来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、国際学生交流課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援した。

国際教育交流センターは、留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称OHP）を実施している。大阪大学で学ぶ留学生と大阪大学近郊の市民ボランティアが、宿泊ではない、家族ぐるみで気軽な交流活動を行っている。来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングについては、近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整し、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期の段階に出会う機会を設定している。また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪

間の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡をとり、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で実施した。学生間の交流や支援の観点から、B.S.P.の学生によるキャンパスツアー、大阪大学留学生会（OUIA）の活動の紹介を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学国際教育交流センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況

平成30年度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	259	391	596	417	165	175	569	452	309	159	121	83	3696
日本語	95	44	31	31	3	18	58	25	12	6	12	14	349
奨学金	8	9	5	5	5	3	6	6	9	2	7	3	68
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居保証人	0	0	1	3	0	0	0	0	2	0	0	0	6
医療	12	12	12	10	8	1	12	11	2	3	1	0	84
入管関係	11	3	0	1	3	5	10	12	3	6	4	8	66
家族について	0	0	0	1	0	1		0	0	0	0	0	2
就職	4	5	1	3	7	31	102	81	33	28	12	27	334
住居	3	12	29	19	3	21	16	9	11	15	6	6	150
各種情報提供	248	130	123	104	52	61	118	53	111	82	64	63	1209
生活用品	78	59	35	25	8	12	41	28	22	16	5	8	337
学習・研究	28	19	16	15	11	8	87	47	7	10	23	7	278
事故・トラブル	2	11	16	15	10	2	5	0	3	1	0	2	67
引越	3	3	6	5	1	0	0	0	0	0	0	2	20
アルバイト	5	3	0	5	9	10	8	2	0	4	4	2	52
ホストファミリー	102	23	44	164	138	112	143	29	7	32	111	27	932
ホームステイ	0	4	5	0	11	0	0	4	0	0	0	0	24
海外留学相談	1	3	3	1	0	3	1	0	5	0	2	1	20
問合わせ等（学外）	17	39	29	21	35	14	29	23	13	12	16	15	263
その他	12	23	22	20	4	12	14	16	6	7	6	5	147
計	888	793	974	865	473	489	1219	798	555	383	394	273	8104

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087	4675	4880	4489	4413	5112	4517	5553	6114	8106	7106	7398	8104

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	16450	17848	17996	18025	18077	19255	19356	19934	19532	19574	20909	20107	20176	19170	19252	19858

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	2905	2217	2301	2026	682	532	1953	1527	1098	1090	610	287	17228
日本人学生	116	153	167	79	24	23	231	120	60	81	26	22	1102
その他・一般	259	117	82	99	97	92	145	174	151	130	70	112	1528
合計	3280	2487	2550	2204	803	647	2329	1821	1309	1301	706	421	19858

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表 2 大阪大学国際教育交流センター豊中分室の相談状況及び来室・利用状況

平成 30 年度相談対応延べ状況

項目 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
交流	72	78	54	45	13	8	63	42	27	23	11	4	440
日本語	17	8	1	14	2	13	22	4	7	21	4	4	117
奨学金	18	4	2	2	1	3	14	1	2	4	1	7	59
保証人	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	5
住居保証人	0	1	0	1	1	1	5	2	1	3	0	4	19
医療	8	12	8	7	1	1	7	4	3	5	1	3	60
入管関係	2	2	9	4	1	4	12	5	1	3	1	8	52
家族について	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	5
就職	7	7	2	3	2	1	10	5	6	13	5	7	68
住居	1	3	6	2	0	2	2	3	8	6	4	1	38
各種情報提供	134	62	59	76	34	52	171	82	68	84	29	23	874
生活用品	5	4	4	6	0	5	12	11	28	35	6	5	121
学習・研究	36	17	24	26	11	2	25	13	27	29	7	5	222
事故・トラブル	1	0	4	4	0	0	4	6	1	3	1	2	26
引越	0	2	0	1	0	0	1	2	3	2	3	2	16
アルバイト	4	7	6	7	1	3	14	7	13	10	3	2	77
ホストファミリー	35	3	0	0	2	0	16	3	0	0	1	0	60
ホームステイ	0	0	11	2	12	0	0	5	0	0	0	0	30
海外留学相談	75	39	31	14	7	14	24	14	13	18	14	14	277
問い合わせ（学外）	3	7	4	7	1	2	4	10	7	3	9	2	59
その他	6	11	10	7		19	7	8	6	6	5	3	88
合計	426	267	236	228	89	132	414	229	222	268	105	97	2713

相談対応件数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	2843	2294	1352	1164	1139	805	916	1253	1271	993	906	1302	2192	2721	2713

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	8320	7524	5183	5324	7508	5212	6029	9065	11230	10563	9580	9612	12806	13406	12618

豊中分室の利用延べ状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
留学生	1088	1036	918	929	185	227	1250	1023	826	1072	285	198	9037
日本人学生	393	298	342	297	70	68	338	260	221	219	81	50	2637
教官・学外など	125	80	82	86	52	30	102	103	82	93	48	61	944
合計	1606	1414	1342	1312	307	325	1690	1386	1129	1384	414	309	12618

*ここでの「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況

平成30年度相談対応延べ状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流		47	11	10	17		13	27	11	10	52		12	210
日本語											12	7	0	19
奨学金											2		0	2
保証人													0	0
住居保証人													0	0
医療													0	0
入管関係		4			2			1	1	1	2	1	0	12
家族について													0	0
就職			2		1								2	5
住居											1		0	1
各種情報提供		19	10	13	10	8	6	19	1	4	5	5	1	101
生活用品											1		0	1
学習・研究		8	7	10	24	5	3	9	10	5	2		0	83
事故・トラブル													0	0
引越													0	0
アルバイト								1					0	1
ホストファミリー		6						11	1				0	18
ホームステイ													0	0
海外留学相談		23	15	26	23	5	3	15	5	4	7	2	0	128
問い合わせ(学外)					2								0	2
その他				2	4			1			1		0	8
計		107	45	61	83	18	25	84	29	24	85	15	15	591

相談対応件数推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	1488	966	840	661	831	797	731	854	788	699	591

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ(電話・メールも含む)を示す。

来室者数推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	2893	3517	4477	5249	5703	5024	4570	4525	3907	4867	4403

箕面分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	296	235	228	308	35	155	283	154	118	168	27	5	2012
日本人学生	280	248	218	276	51	25	317	238	211	233	39	10	2146
その他・一般	21	21	42	38	15	18	24	11	22	21	5	7	245
合計	597	504	488	622	101	198	624	403	351	422	71	22	4403

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数(イベント等含む)を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連(小・中・高校の教師)、ボランティアなどである。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P.と大阪大学留学生会（OUIA）の活動の支援を行った。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会（OUIA）の活動を記す。今年度も年間を通して学生主体の活動を積極的に支援した。

表4 平成30年度 B.S.P.の活動内容

〈主な活動内容〉

月	日		内 容	共 催 団 体
4	5	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでB.S.P.の紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	6	豊中	豊中キャンパスツアー ティーパーティー 新留学生オリエンテーションでB.S.P.の紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	6	箕面	キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでB.S.P.の紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	9～13	豊中	なんでも相談コーナー	
	10	豊中	スナックパーティー	
	11	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUIA）
	12	豊中	スナックパーティー	
	19	吹田	日本語カフェ（毎週木曜日）	
	20	豊中	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUIA）
	25	箕面	ピザパーティー	
	26	豊中	日本語カフェ（5月以降毎週水・金曜日）	
	27	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUIA）
5	9	箕面	日本語カフェ（毎週金曜日）	
	14	吹田	うどんパーティー	
	18	豊中	スペイン料理パーティー	
	20	箕面	遠足（生八つ橋作り体験、漢字ミュージアム見学、河原町観光）	
	23	箕面	ゲーム大会	
6	1	吹田	ラタトゥイユパーティー	
	9	豊中	遠足（六甲山牧場）	
	11	吹田	デンマークパーティー	
	14	豊中	餃子パーティー	
	19	箕面	箕面キャンパスツアー（Summer J-ShIP）	
	20	箕面	おにぎりカフェ	
	28	豊中	インターナショナルフードパーティー （インドネシア・シンガポール・マレーシア料理）	
	29	吹田	インド料理パーティー	
7	2～6	豊中	七夕ウィーク（笹取り、笹飾り作り、短冊作り、そうめんパーティー、和菓子パーティー）	
	4	箕面	七夕パーティー	
	10	豊中	パンケーキパーティー	
	11	吹田	流しそうめん	
	11	箕面	かき氷パーティー	
8	3	豊中	フェアウェルパーティー	
9	27	豊中	新留学生オリエンテーションでB.S.P.の紹介	
			豊中キャンパスツアー	大阪大学留学生会（OUIA）
	28	吹田	吹田キャンパスツアー	大阪大学留学生会（OUIA）

9	28	箕面	箕面キャンパスツアー	大阪大学留学生会 (OUISA)
			新留学生オリエンテーションでB.S.P.の紹介	
10	1,2,4,5	豊中	なんでも相談コーナー	
	3	豊中	スナックパーティー	
	3	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでB.S.P.の紹介	大阪大学留学生会 (OUISA)
	5	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	9	豊中	スナックパーティー	
	16	吹田	インターナショナルパーティー (サウジアラビア、日本)	
	19	豊中	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	23	吹田	日本語カフェ (毎週火曜日)	
	24	豊中	日本語ランチ (毎週水・金曜日)	
	24	箕面	日本語カフェ (隔週水曜日)	
	26	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	31	箕面	English カフェ (隔週水曜日)	
11	10	箕面	遠足 (ラーメン博物館・池田動物園)	
	16	豊中	たこ焼きパーティー	
	24	豊中	遠足 (箕面の滝)	
	26	豊中	手巻き寿司パーティー	
	30	吹田	うどん・わらびもちパーティー	
12	5	箕面	さつまいもパーティー	
	19	吹田	年末大掃除	大阪大学留学生会 (OUISA)
	20	豊中	ぜんざいパーティー	
	26	豊中	年末大掃除・年越しそばパーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
1	8	箕面	箕面キャンパスツアー (Winter J-ShIP)	
	9	吹田	ドミニカ料理パーティー	
	9	豊中	ニューイヤーパーティー (書き初め、お正月遊び)	
	9	箕面	書初めパーティー	
	10	豊中	「ムスリムについてもっと知ろう」	OMA (大阪ムスリム学生協会)
	22	吹田	書き初めパーティー	
	23	箕面	ぜんざいパーティー	
2	6	豊中	おつかれパーティー	

表5 平成30年度 大阪大学留学生会 (OUISA) の活動内容

月	日	内 容	場 所	共催団体、内容他
4	5	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期・日本語研修留学生対象/B.S.P.共催
	6	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	豊中キャンパス	学部留学生対象/B.S.P.共催
	6	新規留学生キャンパスツアー	豊中キャンパス	学部留学生・短期留学生対象/B.S.P.共催
	6	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	Uコース対象/B.S.P.共催
	10	役員会 (1)	豊中：CIEE 豊中分室	
	11	Welcome Party	箕面：福利会館 2F	B.S.P.共催
	13	OUISA デイリーライフオリエンテーション	吹田：IC ホール 講義室 5,6	新規留学生対象
	20	W.W.W. Party	豊中：大学会館	B.S.P.共催
	27	Welcome Party	吹田：IC ホール	B.S.P.共催
	30	いちよう祭出店	豊中キャンパス	
5	7	総会	吹田：IC ホール 4F 会議室	
	7	役員会 (2)	吹田：IC ホール 4F 会議室	
	26-27	キャンプ	兵庫県三田市	

6	7	OUISA HOUR (コートジボワール)	豊中：CIEE 豊中分室	
	22	役員会 (3)	豊中：CIEE 豊中分室	
	23	Fun Run	吹田キャンパス	
	26	OUISA HOUR (ブラジル)	豊中：CIEE 豊中分室	
7	13	役員会 (4)	吹田：IC ホール 講義室 1	
8	6	OUISA Farewell Party	吹田：IC ホール IRIS	
9	20	役員会 (5)	豊中：CIEE 豊中分室	
	27	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	豊中キャンパス	短期留学生対象/B.S.P.共催
	28	新規留学生キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期留学生対象/B.S.P.共催
	28	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	Maple, 日研生対象/B.S.P.共催
10	3	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	日本語研修コース・KOSMOS/B.S.P.共催
	5	Welcome Party	箕面：福利会館 2F	B.S.P.共催
	10	役員会 (6)	吹田：IC ホール IRIS	
	15	OUISA オリエンテーション	吹田：IC ホール 講義室 5,6	新規留学生対象
	17-18	Book Give Away	吹田：IC ホール IRIS	
	19	Welcome Party	豊中キャンパス:大学会館	B.S.P.共催
	26	Welcome Party	吹田：IC ホール	B.S.P.共催
11	7	アカデミックライフワークショップ	吹田：IC ホール 講義室 5,6	
	15	役員会 (7)	豊中：CIEE 豊中分室	
	17	大阪大学留学生会スポーツ大会	吹田キャンパス	協力：B.S.P.
12	5	役員会 (8)	吹田：IC ホール IRIS	
	15	OUISA 15 周年記念イベント	吹田：銀杏会館	
	18	パネトーネパーティー	吹田：IC ホール IRIS	
	19	年末大掃除	吹田：IC ホール IRIS	B.S.P.共催
	26	年末大掃除	豊中：CIEE 豊中分室	B.S.P.共催
1	10	役員会 (9)	豊中：CIEE 豊中分室	
2	6	役員会 (10)	吹田：IC ホール IRIS	
3	4	ジョブハンティングセミナー	吹田：IC ホール IRIS	
3	28	OUISA Farewell Party	吹田：IC ホール IRIS	

(4) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部局の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。国際教育交流センター主催の連絡・交換会は平成30年7月27日に開催した。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

地域との連携も引き続き積極的に行っている。ホストファミリープログラムについては、大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。ホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を緊密に取っている。表6は平成30年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

第27回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を平成31年2月14日に開催した。今回

の協議会では、大学フィリピン留学生会、大阪ムスリム留学生会の活動や各国の文化についての発表や、音楽等のパフォーマンスが行われた。当日は学内 31 名、学外 105 名、あわせて 136 名の参加があった。

表 6 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
ホストファミリー グループ アミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	9	15	10	13	14	12	16	13	11	10	7	9	8	262
茨木市 国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	15	13	10	9	6	8	7	10	7	10	16	10	251
(公財) とよなか 国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	42	85	80	73	68	80	73	63	62	65	79	73	1058
(公財) 箕面市 国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	22	36	23	28	36	35	32	42	50	39	24	32	528
池田市公益活動 促進協議会*6	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	14	13	12	8	8	4	8	8	7	9	6	6	228
(公財) 吹田市 国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	16	30	28	24	29	32	39	41	47	62	61	61	638
国際交流の会 とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	18	14	12	14	15	15	13	19	18	11	14	13	13	311
川西市 国際交流協会*1									11	13	14	9	9	19	16	12	11	9	6	15	14	15	10	7	10	200
留学生 さとおやの会*2												5	8	7	6	7	6	6	7	10	8	11	9	10	13	113
海外協力グループ クスクス*3															7	12	11	13	6	4	6	10	9	11	11	100
国際交流グループ チャーターボックス*4																11	12	9	8	12	10	11	13	8	10	104
三井ボランティアネットワーク 事業団*7																							3	3	3	9
シルバーアドバイザー ネット大阪*8																									8	8
OHP/IRIS に 直接登録*5	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	6	19	17	20	15	25	27	24	32	29	35	38	403
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	170	247	239	231	226	240	259	255	273	279	282	296	4213

- * 1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 14 年 10 月開始
- * 2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 17 年 4 月開始
- * 3 海外協力グループクスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 20 年 9 月開始
- * 4 チャーターボックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 21 年 4 月開始
- * 5 ホストファミリーの学内公募平成 19 年 8 月開始
- * 6 池田ホームステイ友の会は平成 24 年 3 月で終了、平成 24 年 9 月より池田市国際交流協議会、平成 29 年 4 月より池田市公益活動促進協議会として参加
- * 7 三井ボランティアネットワーク事業団のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 28 年 10 月開始
- * 8 シルバーアドバイザーネット大阪のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 30 年 4 月開始

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表 7 は、平成 30 年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数である。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しながら、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。留学生の派遣は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

表7 平成30年度「国際理解教育」実施状況

*「/」は二重国籍

月	日	府／市	学校／プログラム名	派遣人数	派遣学生国籍
6	4		かんらんこども園	4	トルコ・ポーランド・フランス・カナダ/台湾
6	27	茨木市	春日丘小学校	6	アメリカ・インド・スーダン・台湾・中国・トルコ
7	12	茨木市	郡小学校	10	イギリス・インド・インドネシア・スーダン・中国・ドイツ・パナマ・フィリピン・ブラジル・フランス
7	13	兵庫県	川西北陵高等学校	8	バングラデシュ・フランス・台湾・イギリス・フィリピン・東ティモール・香港/イギリス・インドネシア
7	21		大阪国際大和田高等学校	8	ナイジェリア・ブラジル・パナマ・フランス・マレーシア・インドネシア・イギリス・トルコ
7	23-24		京都光華高等学校	3	ウガンダ・イエメン・ケニア
8	31		清教学園中学校	13	アメリカ・インド・インドネシア・ドイツ・トルコ・ニュージーランド・東ティモール・フィリピン・ブラジル・マレーシア・ミャンマー
9	9		帝塚山学院 泉ヶ丘高校	8	シリア・インド・マレーシア・イギリス・インドネシア・スーダン
9	15	名張市	南中学校	8	マレーシア・スーダン・インドネシア・インド・イギリス・シリア
9	20	能勢町	能勢小学校 能勢中学校	11	イギリス・イラン・インドネシア・シリア・スーダン・パナマ・フィリピン・ブラジル・マレーシア・メキシコ
9	25-27		報徳学園中学校	13	パキスタン・イラン・インド・ナイジェリア・ケニア・インドネシア・バングラデシュ・タイ・トルコ・パナマ
10	10	大阪府	刀根山支援学校 阪大病院分教室	1	イギリス
10	26	吹田市	竹見台中学校	5	韓国・スーダン・ブラジル・ドイツ・フランス/ニュージーランド
11	7	茨木市	南中学校	6	イギリス・インド・インドネシア・スーダン・バングラデシュ・ミャンマー
11	15		関西大倉高等学校	15	香港・ウルグアイ・オーストラリア・ドイツ・インドネシア・イエメン・イギリス・バングラデシュ・エジプト・シリア・パキスタン・フィリピン・ケニア・ロシア・タイ
11	15*	大阪府	北野高等学校	5	ミャンマー・タイ・トルコ・インドネシア
11	16	豊中市	第九中学校	7	イギリス・インド・オーストラリア・オランダ・韓国・中国・ドイツ
11	20	豊能町	東能勢中学校	6	イエメン・インドネシア・タイ・バングラデシュ・ブラジル・ミャンマー
11	22	能勢町	能勢小学校 能勢中学校	6	アメリカ・イギリス・インドネシア・トルコ・フィリピン・ロシア
11	30	吹田市	南千里中学校	4	イギリス・韓国・中国・ベトナム
12	6	茨木市	東奈良小学校	4	イギリス・イラン・インド・ブラジル
12	10	能勢町	能勢小学校 能勢中学校	8	インドネシア・ウルグアイ・エジプト・カナダ・韓国・タイ・マレーシア
12	15	大阪府	茨木高等学校	61	カンボジア・ルーマニア・リトアニア・メキシコ・マレーシア・香港・ベトナム・フランス・ブラジル・フィリピン・トルコ・ドイツ・中国・台湾・スーダン・シンガポール・シリア・コロンビア・ケニア・カナダ・ウガンダ・韓国・インドネシア・インド・イラン・イギリス
12	18	大阪市	堀江小学校	6	イラン・インド・インドネシア・バングラデシュ
12	19	大阪市	堀江小学校	5	イラン・インド・インドネシア・パキスタン
12	20	大阪市	堀江小学校	6	イラン・ドイツ・トルコ・バングラデシュ・フィリピン・ベトナム
1	18	大阪府	豊中高等学校	47	メキシコ・マレーシア・香港・ベトナム・ブラジル・フィリピン・バングラデシュ・パナマ・パキスタン・トルコ・ドイツ・中国・タイ・スーダン・台湾・ケニア・カナダ・韓国・オーストラリア・エジプト・ウルグアイ・インドネシア・インド・イラン
1	25	豊中市	第十四中学校	4	インドネシア・韓国・パナマ・ベトナム
2	5	豊中市	第十三中学校	6	イギリス・インド・スーダン・中国・フィリピン・フィンランド
2	8	吹田市	西山田中学校	4	イギリス・イラン・フィリピン・ベトナム
2	12	豊中市	第四中学校	5	イギリス・オーストラリア・韓国・台湾・パナマ
2	15	摂津市	第三中学校	8	インド・カナダ・韓国・デンマーク・トルコ・パキスタン・バングラデシュ・メキシコ
2	18・19	大阪府	刀根山支援学校 阪大病院分教室	1	イラン
2	25	兵庫県	兵庫高等学校	10	ドイツ・スーダン・インド・リトアニア・トルコ・イラン・エジプト・ブラジル・インドネシア・イギリス
2	28	大阪府	豊中支援学校 中学部	2	イラン・タジキスタン
3	1-3	大阪府	大手前高等学校	12	南アフリカ・ドイツ・ウガンダ・シリア・バングラデシュ・ベトナム・ケニア・フィリピン・ブラジル・ウルグアイ・カナダ・パナマ

* 11/15、22、12/13、20、1/10、17、24 から2～3日間、各学生を派遣。

計：36件/336名

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、平成30年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を全8回開催した。また個々の相談に対応するため就職相談コーナーを開室した。

(1) 平成30年度の留学生のための就職対策講座

2018年10月より2019年1月にかけて「留学生のための就職対策講座」を開催した。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、元留学生OB・OG、内定者の留学生の協力のもと全8回のシリーズとして開催され、参加者数は述べ166名であった。(図1参照)。

Job Search Strategy Course for International Students 2018 平成30年度 留学生のための就職対策講座 CIEE		
月日 Date	場所 Place	講義項目 Subject
※ 10月11日(木)	【豊中】全学教育推進機構 大講義室	留学生のための就職活動セミナー(学生・キャリア支援課主催)
1 Oct. 22nd(木)	【Toyonaka】Seminar Room B, 2F Student Commons	Introduction to job search for international students (English)
2 10月29日(月)	【吹田】生物工学国際交流センター4階セミナー室	情報収集及び企業・業界研究
3 11月7日(水)	【豊中】スチューデント commons 2F セミナー室B	自己分析/キャリアデザイン
4 11月22日(木)	【吹田】ICホール2F R5 & 6	OB・OGによる体験談
5 11月28日(水)	【吹田】同上	内定者による体験談
6 12月3日(月)	【豊中】スチューデント commons 2F セミナー室B	エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策
7 12月10日(月)	【吹田】ICホール4F 会議室	面接の基礎とグループディスカッション対策
8 1月7日(月)	【豊中】スチューデント commons 2F セミナー室B	集団面接練習会

時間帯/Time :17:00-18:30 (10月11日のみ16:30-17:50) Language: English on Oct. 22nd. Other seminars are in Japanese.

申込み Registration career@ciece.osaka-u.ac.jp

1. 氏名 2. 学部 3. 学年 4. 国籍 を書いて申し込んでください。件名に「就職対策講座申し込み」と書いてください。
Email us with 1. your full name, 2. faculty, 3. year, and 4. nationality.
Put "Job search strategy course registration" in the subject line.

※全講座申し込みは10月22日まで。Registration for the full course until October 22nd.
※単発申し込みは各セミナー開催日の前日まで。Registration for a single seminar until one day before the date.

主催 大阪大学国際教育交流センター 共催 大阪大学キャリアセンター 協力 工学研究科国際交流推進センター

図1 就職対策講座ポスター

(i) アンケート調査結果

就職対策講座では毎回アンケートを実施した。各回の参加者数は図2に示されている通りである。全8回のうち、第2回「情報収集及び企業・業界研究」の参加者が最も多く34名、次に第6回「エントリーシートの書き方／合同企業説明会等対策」の24名が続いた。参加者の出身国では中国が最も多く86名で、全体の52%を占めた(cf.表8)。所属別では人間科学系が最も多く39名であった(cf.図3)。学年別では博士課程前期1年次が最も多く75名で全体の45%を占めた(cf.図4)。

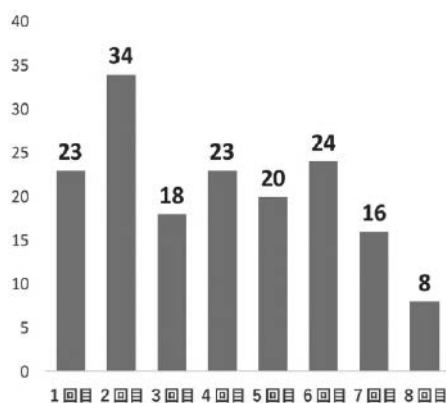


図2 各回の参加人数

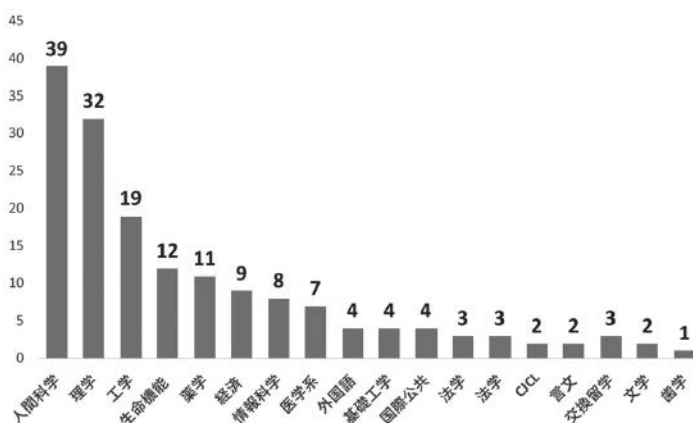


図3 参加者の所属

表 8 参加者の出身国

出身国	人数	出身国	人数
中国	86	タジキスタン	2
ベトナム	15	ロシア	2
台湾	10	日本	2
韓国	8	アメリカ	1
インド	6	エジプト	1
スロバキア	6	オーストラリア	1
ブラジル	6	カナダ	1
パナマ	4	ギリシャ	1
イラン	3	スーダン	1
トルコ	3	バングラデシュ	1
インドネシア	2	フィリピン	1
アゼルバイジャン	2	香港	1

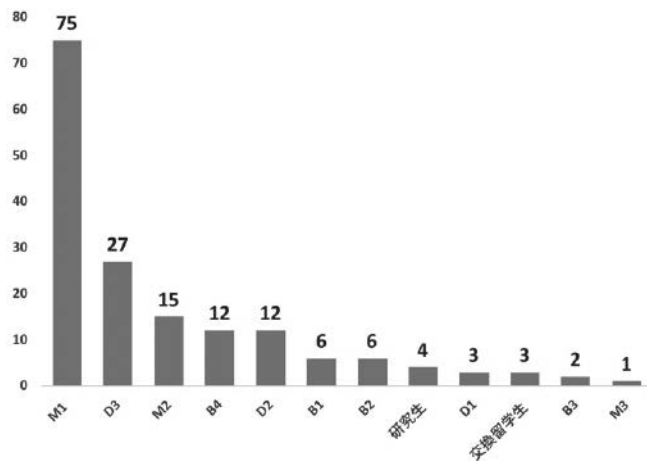


図 4 参加者の学年



第 2 回 情報収集および企業・業界研究



第 3 回 自己分析／キャリアデザイン



第 4 回 OB・OG による体験談



第 8 回 模擬面接

就職対策講座の様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため、吹田、豊中および箕面キャンパスで各週1回の就職相談コーナーを原則予約制で行った（図7参照）。平成30年度利用者数は延べ53名、メールによる相談は延べ48件となっている（表9、10参照）。

留学生のための就職相談コーナー
Consultation on Job Search for International Students

大阪大学国際教育交流センター
CIEE

留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？
 If you are interested in finding a job in Japan, why not come for consultation?

豊中/Toyonaka	毎週火曜日(Tue.) 12:00 ~13:00 学生交流棟 2F 国際教育交流センター ミーティングルーム CIEE Meeting Room, 2nd floor, Student and Service Union
箕面/Minoh	毎週水曜日(Wed.) 12:00 ~13:00 国際教育交流センター 箕面分室 B棟1階 CIEE Minoh Branch, 1st floor, B-building
吹田/ Suita	毎週木曜日(Thu.) 12:00 ~13:00 ICホール2F, 講義室3 Room 3, 2nd floor, IC Hall

申込み Appointment **career@ciee.osaka-u.ac.jp**

1. 希望日時 2. 氏名 3. 学部 4. 学年 5. 国籍 を書いて申し込んでください。件名に「相談コーナー申し込み」と書いてください。
Email us with 1. your preferred date, 2. your full name, 3. faculty, 4. year, and 5. nationality.
Put "career consultation" in the subject line.



主催 大阪大学国際教育交流センター
 Center for International Education and Exchange

共催 大阪大学 キャリアセンター
 Career Center, Osaka University

コーディネーター 亀崎典子 特任准教授
 Noriko UOSAKI, specially appointed associate professor

図7 就職相談コーナーポスター

主な相談内容は以下の通りである。

- ◇面接の練習（複数）
- ◇エントリーシートの日本語チェック（多数）
- ◇履歴書の日本語チェック（複数）
- ◇ビザの変更について
- ◇リクルーターとは？ ジョブマッチングとは？
- ◇インターンシップの応募の仕方
- ◇秋入学の場合の就活の仕方
- ◇日本で就職したい場合修士だけのほうがよいか？
- ◇スーツを購入する際の留意点
- ◇自分の研究を活かした職業に就きたい
- ◇英語講師志望
- ◇4週間インターンシップしたい。
- ◇自分の強みがわからない。
- ◇Dだが学業をやめてM卒として就職したい。
- ◇アルバイトの情報がほしい。

表9 相談コーナー利用状況（月別・出身国別）

	中 国	ベ ト ナ ム	韓 国	台 湾	パ ナ マ	マ レ ー シ ア	ブ ラ ジ ル	バ ン グ ラ デ シ ュ	ト ル コ	ア メ リ カ	ベ ネ ズ エ ラ	香 港	イ ン ド ネ シ ア	イ タ リ ア	モ ザ ン ビ ー ク	モ ン ゴ ル	ミ ヤ ン マ ー	コ ス タ リ カ	プ ラ ジ ル	イ ラ ン	シ リ ア	ド イ ツ	日 本	ロ シ ア	エ ジ プ ト	タ イ	イ ン ド	計	
4 月	1	1	2	1										1	1	1													8
5 月	1	2	1			1			1	1							1	1											9
6 月											1	1																	2
7 月	2																												2
8 月								1																					1
9 月																													0
10月	3				0				1																				4
11月	2						1	1					1							1									6
12月																				1									1
1 月	1																				1	1	1	1	1				6
2 月	3								1																				4
3 月	4								1				1	1												1	1	1	10
	17	3	3	1	0	1	1	2	4	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	1	1	53

表10 メール相談件数（月別・出身国別）

	韓 国	モ ン ゴ ル	中 国	ミ ヤ ン マ ー	ベ ト ナ ム	マ レ ー シ ア	バ ン グ ラ デ シ ュ	ア ゼ ル バ イ ジ ヤ ン	台 湾	イ ン ド ネ シ ア	ロ シ ア	イ ラ ン	計
4月	4	3	1										8
5月	2			1	6	2							11
6月													0
7月													0
8月							1						1
9月							6						6
10月								2					2
11月							1		1	1			3
12月	1												1
1月									1		1	6	8
2月			3									1	4
3月			4										4
	7	3	8	1	6	2	8	2	2	1	1	7	48

4. 防犯・防災の講習会等

(1) 留学生対象 セーフティプロモーション講習会

国際教育交流センターでは、阪神・淡路大震災をはじめ、近年の東日本大震災、熊本地震などの災害教訓を踏まえて、これまで防災知識や避難手段を中心に留学生らを教育してきたが、2018年6月18日に「大阪府北部地震」(最大震度6弱)が大阪大学の直ぐ近隣(震源:大阪府高槻市)で発生した際に、留学生だけで延べ100名以上の一時避難者を出したものの、死傷者も1名足りとも出さなかったことは幸いであった。これまでの教育内容が活かされた証として胸を撫で下ろす一方、防災意識や学習ニーズがより

一層に高まるなかで、AEDを使ったCPR救急救命処置法などの講習をより本格化させる必要性を感じている。防災教育や避難訓練などの学習経験が少ない留学生が、日本滞在期間中だけでなく帰国後も安心安全な日常生活を過ごせるよう、豊中キャンパス全学教育機構サイエンスコモンズ・サイエンススタジオBにおいて4月6日(16名参加)と10月25日(24名参加)、吹田キャンパスICホール3Fでは4月9日(48名参加)に「防災」「防犯」「交通安全」「救急救命」についてセーフティプロモーション講習会を開催した。



(2) 留学生対象 防災体験学習フィールドトリップ(バスツアー)

平成30年度は、大型台風の度重なる大阪上陸ほか、国内外各地での集中豪雨や土砂崩れ、強風などの自然災害が頻発した一年であった。国際教育交流センターは、これらの災害から身を守るための防災知識や回避方法を留学生らに体験学習してもらうため、5月1日に大阪市立阿倍野防災センター(16名参加)において、11月1日には阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター(19名参加)で留学生向けの防災体験学習フィールドトリップを主催し、それぞれ多くの留学生・日本人学生らが参加。前述の大阪府北部地震後の留学生らへのインタビュー調査では、地震や台風に伴う長雨による停電や断水の際、この防災体験学習フィールドトリップで「学んだ知識が大変役に立った」「防災教育の経験が有るのと無いのでは心構えが全く違う」といった意見を得られた。さらには「このようなプログラムが有ることを知らなかった。知っていれば参加したのに……」などの声も多くあり、潜在的な参加希望者が多数いた一方で、開催の周知や日程調整が不十分であったことは反省すべき点である。



VIII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学の学生の海外派遣留学促進のために様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加に応え、短期語学研修プログラムの実施、海外留学オリエンテーションでの情報の提供、相談対応による疑問や不安の解消に努めている。

1. 海外研修・異文化体験プログラム

短期海外研修として、英国エセックス大学での夏季語学研修、オーストラリアモナシュ大学での春季語学研修を実施した。海外体験を希望する学生に機会を提供することに加え、これらのプログラムは、協定校への交換留学の準備段階としても位置付けられている。英語力の伸びを客観的に測るために研修前と、研修中あるいは研修後に、IELTS・TOEFLの受験を義務付けた。

また、事前研修として留学生との交流学习の場も設けた。エセックス現地研修出発前には、3度（6月23日、7月5日、8月10日）事前研修を行ったが、このうち1度目の事前研修では、箕面キャンパスにて、プロの演出家であるゲスト講師とともに大阪大学で日本語を学ぶ留学生との協働活動（演劇ワークショップ、グループディスカッション、グループプレゼンテーション）を行った。モナシュ現地研修出発前にも3度（1月11日、1月20日、2月13日）出発前の事前研修を行い、2度目の事前研修は本学で短期間日本語研修プログラムに参加している留学生との協働活動を行った。

そして、2018年度より、CIEE（国際教育交換協議会）日本代表部に外部委託し、ニュージーランドオタゴ大学での夏季語学研修プログラムを新たに開始した。プログラム修了者には、上記2つの研修と同様、本学の単位が付与された。

(1) 事前研修（留学生との協働活動）の様子



(2) エセックス大学夏季語学研修 現地研修日程（参加者 21 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2018 年 8 月 18 日（土）	PM 04：50	関西国際空港集合
	PM 06：50	出国：関西国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX569 便）
	PM 09：55	経由：香港国際空港着
2018 年 8 月 19 日（日）	AM 00：25	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX255 便）
	AM 06：20	入国：ヒースロー空港着
		大学のバスでエセックス大学へ移動
2018 年 8 月 20 日（月） 2018 年 9 月 21 日（金）		エセックス大学にて研修 Excursion (Oxford)：8 月 25 日（土） IELTS 受験：9 月 15 日（土）
2018 年 9 月 22 日（土）		大学のバスで空港へ移動
	PM 00：20	出国：ヒースロー空港発 （キャセイパシフィック航空CX252 便）
2018 年 9 月 23 日（日）	AM 07：05	経由：香港国際空港着
	AM 08：00	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX594 便）
	PM 00：55	入国：関西国際空港着、解散

(3) モナシュ大学春季語学研修 現地研修日程（参加者 25 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2019 年 2 月 16 日（土）	AM 08：00	関西国際空港集合
	AM 10：00	出国：関西国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX503 便）
	PM 01：25	経由：香港国際空港着
	PM 07：10	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX135 便）
2019 年 2 月 17 日（日）	AM 07：30	入国：メルボルン空港着
		大学のバスでモナシュ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面
2019 年 2 月 18 日（月） 2019 年 3 月 15 日（金）		モナシュ大学にて研修
2019 年 3 月 16 日（土）		大学のバスで空港へ移動
	PM 03：35	出国：メルボルン空港発 （キャセイパシフィック航空CX104 便）
	PM 09：45	経由：香港国際空港着
2019 年 3 月 19 日（日）	AM 01：50	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX566 便）
	AM 06：20	入国：関西国際空港着、解散

(4) オタゴ大学春季語学研修 現地研修日程（参加者 15 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2018 年 8 月 25 日（土）	PM 00：00	伊丹空港集合
	PM 05：00	伊丹空港発 （全日空NH034 便）
	PM 06：15	経由：羽田空港着
	PM 10：05	出国・経由：羽田空港発 （ニュージーランド航空NZ092 便）
2018 年 8 月 26 日（日）	AM 11：40	経由：オークランド国際空港着
	PM 17：00	経由：オークランド国際空港発 （ニュージーランド航空NZ677 便）
	PM 06：50	ダニーデン空港着
		大学のバスでオタゴ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面
2018 年 8 月 27 日（月） 2018 年 9 月 21 日（金）		オタゴ大学にて研修
2018 年 9 月 22 日（土）		終日自由行動（帰国準備）
2018 年 9 月 23 日（日）		大学のバスで空港へ移動
	PM 06：05	ダニーデン空港発 （ニュージーランド航空NZ678）
	PM 07：50	経由：オークランド空港着
	PM 10：00	出国・経由：オークランド空港発 （ニュージーランド航空NZ091）
2019 年 9 月 24 日（月）	AM 05：55	入国・経由：羽田空港着
	AM 09：00	経由：羽田空港発 （全日空NH017 便）
	AM 10：05	伊丹空港着、解散

2. 海外留学オリエンテーション

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

平成30年度4月に主に新入生を対象に入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、全新入生が共通教育を受ける豊中キャンパスにおいて、海外留学オリエンテーション入門編をお昼休みと夕方に国際部国際学生交流課の協力のもと開催した（表1参照）。

オリエンテーションでは在学中の交換留学制度や夏休み／春休み中の短期の語学研修プログラムについての説明、実際のプログラム参加学生の体験談発表の後、質問を受け付けた。また交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語で行われる国際交流科目や、教員や留学経験学生による留学相談システムなどの情報を提供することで、計画的に交換留学へ向けた準備を始めるよう促した。終了後も多数の質問が寄せられ、新入生の海外に対する高い興味関心を確認することができた。

表1 平成30年度4月海外留学オリエンテーション（入門編）参加者数

開催キャンパス	開催日時	参加者数
豊 中	4月18日（12：10～12：55）	117
豊 中	4月26日（18：00～19：30）	99
計		216（前年比+6％）

(2) 海外留学オリエンテーション本編

平成30年度6月には、主に交換留学の制度と手続きを解説する海外留学オリエンテーション本編を、こちらも国際部国際学生交流課の協力のもと開催した。例年通り豊中・吹田・箕面の3キャンパスで計4回開催した（表2参照）。

表2 平成30年度6月海外留学オリエンテーション（本編）
各キャンパスの海外留学オリエンテーション参加者数

開催キャンパス	開催日時	参加者数
箕 面	6月1日（12：10～12：50）	159
豊 中	6月4日（18：00～19：00）	62
豊 中	6月6日（12：10～12：0750）	83
吹 田	6月7日（18：00～19：00）	11
計		315（前年比+30％）



海外留学オリエンテーション（入門編）の様子



海外留学オリエンテーション（本編）の様子

3. 大学間交換留学者数

先述のように、総計 315 名の海外留学オリエンテーション（本編）への参加者があり、また後述する留学相談件数の増加からも、多くの学生が海外留学に興味を示していることがうかがえる。それにもなつて、大学間交換留学派遣者数も堅調に推移している。提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し学内面接選考を実施した。これに合格して交換留学派遣の推薦を獲得した学生数は、平成 30 年度においては、大学間協定に限定しても 132 名に至っている（表 3 参照）。

表 3 交換留学派遣推薦者数（大学間協定）

大陸名	国・地域名	大学名	人数
アジア	シンガポール共和国	シンガポール国立大学	2
	タイ王国	カセサート大学	1
		タマサート大学	4
		チェンマイ大学	2
		チュラロンコン大学	1
	モンゴル国	モンゴル国立大学	2
	大韓民国	ソウル大学校	1
		中央大学校	1
		漢陽大学校	2
		釜山大学校	1
		延世大学校	2
	台湾	国立台湾大学	1
	中華人民共和国	清華大学	3
		浙江大学	1
		復旦大学	3
		北京師範大学	2
		北京大学	5
		香港中文大学	1
オセアニア	オーストラリア連邦	アデレード大学	2
		オーストラリア国立大学	6
		クィーンズランド大学	2
		モナシュ大学	2
北 米	アメリカ合衆国	ウェズリアンカレッジ	2
		カリフォルニア大学	10
		ジョージア大学	1
		テキサス A&M 大学	3
		ナザレスカレッジローチェスター校	1
		ライス大学	1
		ワシントン大学	3

北 米	カナダ	トロント大学	1
		プリティッシュ・コロンビア大学	5
		マックマスター大学	5
南 米	ブラジル連邦共和国	サンパウロ大学	4
ヨーロッパ	英国	ノッティンガム大学	1
		リーズ大学	2
	オーストリア共和国	ウィーン大学	3
	オランダ王国	グローニンゲン大学	4
	スウェーデン王国	イエーテボリ大学	1
	スペイン王国	バリャドリッド大学	1
	デンマーク王国	コペンハーゲン大学	5
	ドイツ連邦共和国	ハイデルベルク大学	2
		ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	3
		ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	4
	ハンガリー	エトヴェシュ・ロラード大学	2
	フィンランド共和国	オーボアカデミー大学	2
		ヘルシンキ大学	4
	フランス共和国	エクス・マルセイユ大学	3
		ストラスブール大学	5
		ボルドー大学	3
	ロシア連邦	サンクトペテルブルク大学	4
総 計			132

4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

国際教育交流センターでは、国際部国際学生交流課と協力して、海外で研修あるいは留学する予定の学生を対象に、試験が終了する時期に派遣前危機管理オリエンテーションを実施している。

平成30年度は、2018年8月10日豊中キャンパス（参加者234名）／2019年2月13日吹田キャンパス（参加者133名）の2度開催し、海外渡航中のテロ対策や健康や生活の面で注意すべきことなどについて周知徹底した。

【プログラム】

平成30年度第1回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：平成30年8月10日（火）14：00～16：00

場所：豊中キャンパス 豊中総合学館301

司会：中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教（常勤））

〈プログラム〉

14：00～14：05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

14：05～15：05 「海外渡航時の危機管理について」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15：05～15：35 「留学生危機管理サービス（OSSMA）について」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15：35～15：45 休 憩

15：45～16：30 「海外渡航時の健康管理について」

馬場 幸子（医学系研究科 助教）

16：30～16：35 閉会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

平成 30 年度第 2 回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：平成 31 年 2 月 13 日(水) 14:00～16:35

場所：吹田キャンパス コンベンションセンターMOホール

司会：中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教（常勤））

〈プログラム〉

14:00～14:05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

14:05～15:05 「海外渡航中の危機管理について」

川村 慎哉

（大阪府警察本部警備部外事課国際テロ対策室 警部）

15:05～15:35 「OSSMAについて」

江見 裕明

（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15:35～15:45 休 憩

15:45～16:30 「海外渡航中の健康管理について」

酒井 規夫（医学系研究科保健学専攻 教授）

16:30～16:35 閉会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

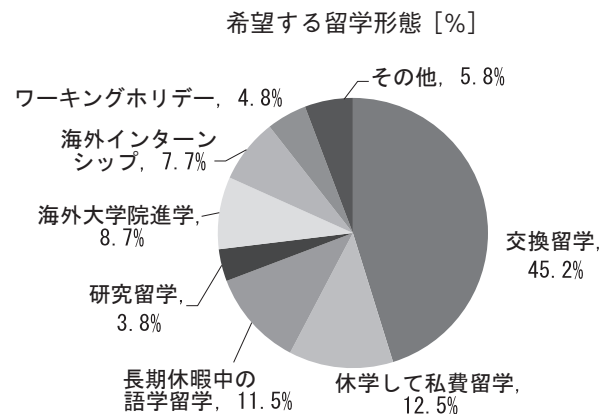
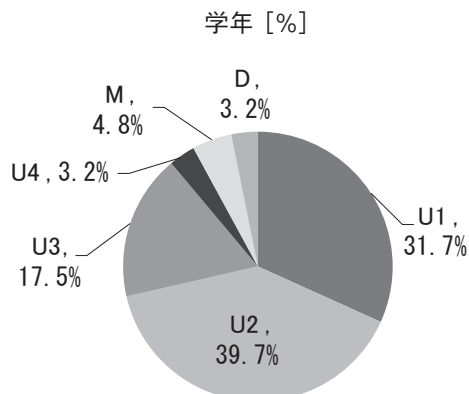
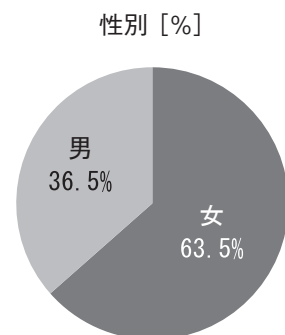
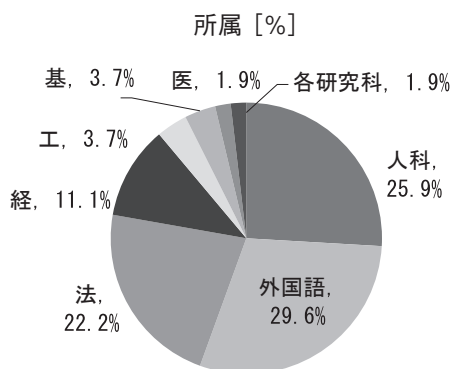
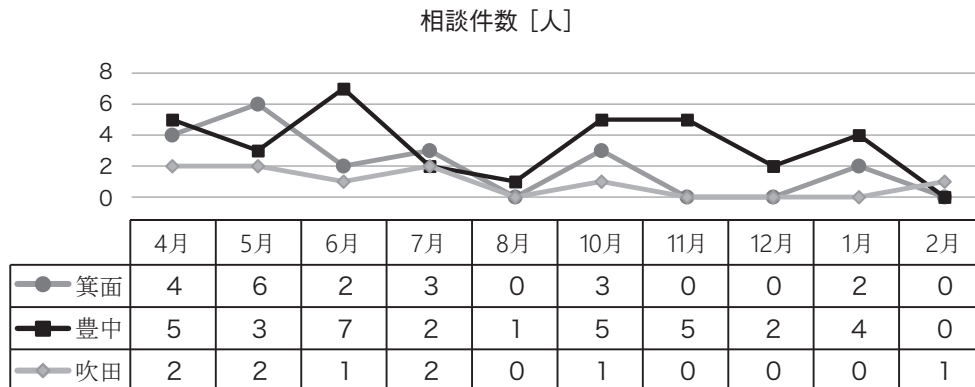


危機管理オリエンテーションの様子

5. 海外留学相談とアドバイス

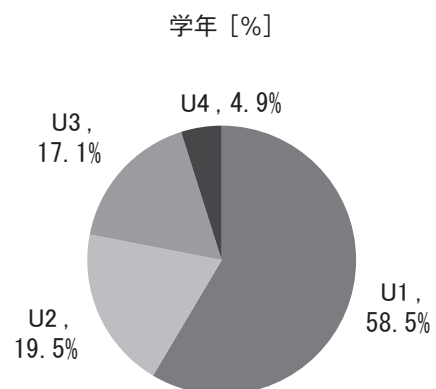
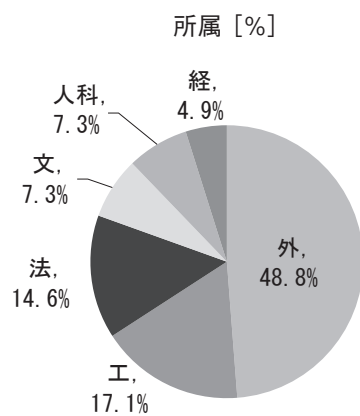
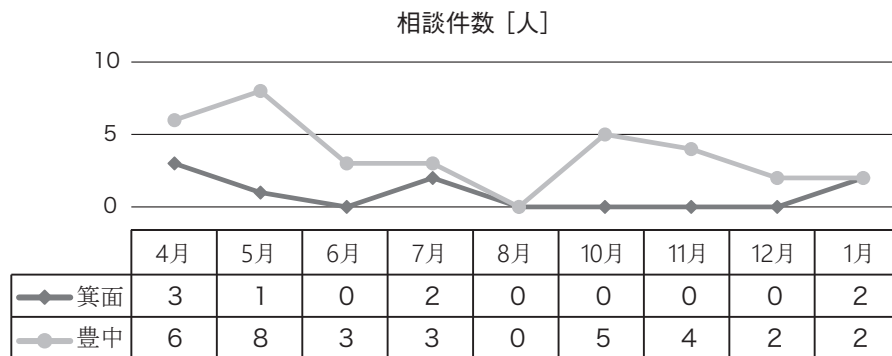
(1) 教員による留学相談

国際教育交流センターの豊中分室と箕面分室、また吹田キャンパスICホールにおいて、授業期間中（平成30年4月13日～2月9日）にそれぞれ週1回、留学経験のある教員による対面での留学相談を実施した。留学相談は留学ポートフォリオシステムを用いて随時受け付けた。相談利用者の総数は98名。内訳は以下の通りである（留学ポートフォリオシステムによる集計、有効回答者数63名）。



(2) 学生による留学相談

交換留学を経験した本学学生2名により、箕面キャンパスと豊中キャンパスで定期的な留学相談会を開催した。相談利用者の内訳は以下の通りである。



IX. サポートオフィスの活動

2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

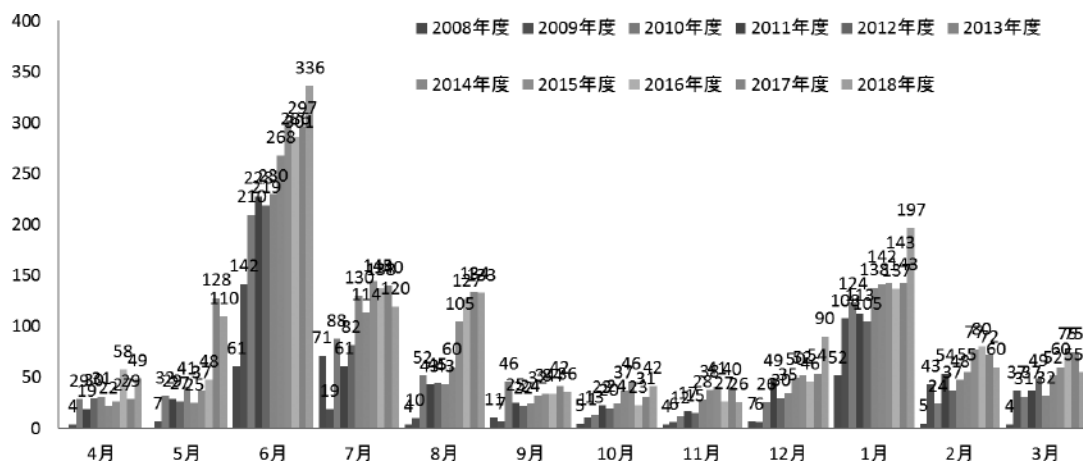


サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、来日前の査証（ビザ）に関わる手続き、宿舍手配の支援、来日直後に必要な諸手続き、また日本滞在中に必要な在留手続き等を中心に、サポートや情報提供を行なっている。このような活動をとおして、世界中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。2018年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。

1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2018年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は1,270件であった（「留学」888件、「教授」184件、「文化活動」76件、「家族滞在」122件、その他0件）。CESR Web申請システムは、申請者が利用しやすくなるよう年々改良を重ねている。また2014年度より申請書作成システムを全学内に導入することにより、日本滞在中に必要な在留手続きに対するサポートの強化が実現している。2018年度の同システムによる申請書作成件数は、286件であった。（「在留期間更新許可申請書」221件、「在留資格変更許可申請書」36件、「資格外活動許可申請書」29件、「再入国許可申請書」0件）。ビザ関連支援に関連するE-mailの送信件数は約5,867件、電話対応件数は約1,980件、窓口対応件数は約326件であった。

グラフは2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援

2010年4月にUR都市機構との留学生・外国人研究者に対する賃貸住宅貸与に関わる全学での包括協定が締結され、連帯保証人不要・敷金減免や研究者向けには家具家電付住宅とNPOによる生活サポートサービスが実現した。これに伴い、URとの契約件数（入居者人数）は、2009年度は1件（1名）だったが、サポートオフィスが業務を引き継いだ2010年は10件（14名）、2011年度は33件（42名）、2012年度は48件（62名）、2013年度19件（26名）、2014年度43件（51名）、2015年度47件（60名）、2016年度77名と確実に支援実績を伸ばしている。

2017年3月31日をもってサポートオフィスでのUR新規受付は終了し、4月1日以降は大阪大学生協マールームにて受付並びに対応を開始した。ハウジングリクエスト機能を用いたリクエスト件数は49件であり、それに対する不動産会社からの返信件数は144件であった。またホームページでは、留学生や外国人研究者自身がおおよそどのような宿舎に該当するのかを導く宿舎ナビシステムの提供をしている。宿舎支援に関するE-mailの送信件数は約2,412件、電話対応件数は約1,227件、窓口対応件数は約33件であった。

3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。2018年度の参加者の合計は186名であった。主な内容は以下のとおりであった。

- ① サポートオフィスの紹介
- ② 在留資格に関する案内
- ③ 市役所等での手続きの案内
- ④ 宿舎についての案内
- ⑤ 学内外のコミュニティとネットワークの紹介
- ⑥ 学内の情報ネットワークの説明
- ⑦ 異文化での生活についてのアドバイス
- ⑧ 日本語履修についての説明（留学生対象）

2018年度 春期
新規来日留学生・外国人研究者向けオリエンテーション

主催：サポートオフィス & IRIS（国際教育交流センター）／協力：サイバーメディアセンター

◆ 開催日時・場所

2018年 3月29日（木） 13時00分～（1時間程度）英語／14時45分～（1時間程度）日本語
豊中キャンパス スタudent commons 2階 セミナー室B

2018年 4月 2日（月） 13時00分～（1時間程度）英語／14時45分～（1時間程度）日本語
吹田キャンパス コンベンションセンター1階 研修室

◆ 実施内容

- ・ サポートオフィス概要
- ・ IRISとその他の学内外コミュニティについて
- ・ 在留資格及びその延長・更新に必要な手続きについて
- ・ 借舎について
- ・ 大阪大学で新しい生活を始めるにあたってのアドバイス
- ・ 大阪大学のインターネットサービスについて
- ・ 日本語履修についての説明（留学生対象）
- ・ 個別相談（自由参加）



豊中キャンパスマップ 吹田キャンパスマップ

＜お問い合わせ＞

サポートオフィス
TEL: 06-6879-4748
E-mail: supportoffice@office.osaka-u.ac.jp

留学生交流情報室「IRIS」
TEL: 06-6879-7976
E-mail: iris@das.osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

2018 年秋および2019 年春の留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入に伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舍支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。

【2018（H.30）年度第1回研修会】

参加者 55 名（教員 2 名、事務職員 53 名）

2018 年 5 月 28 日（月）13：00－15：10（豊中）

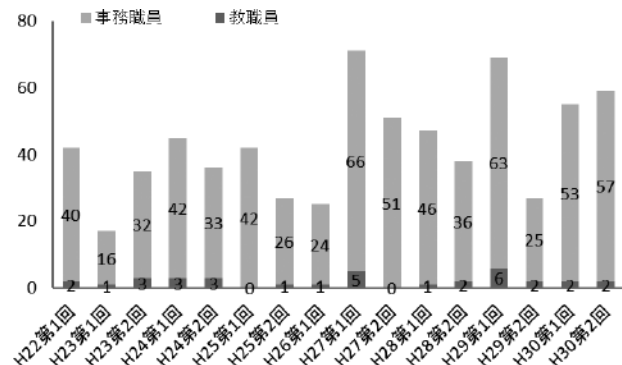
2018 年 6 月 5 日（火）13：00－15：10（吹田）

【2018（H.30）年度第2回研修会】

参加者 59 名（教員 2 名、事務職員 57 名）

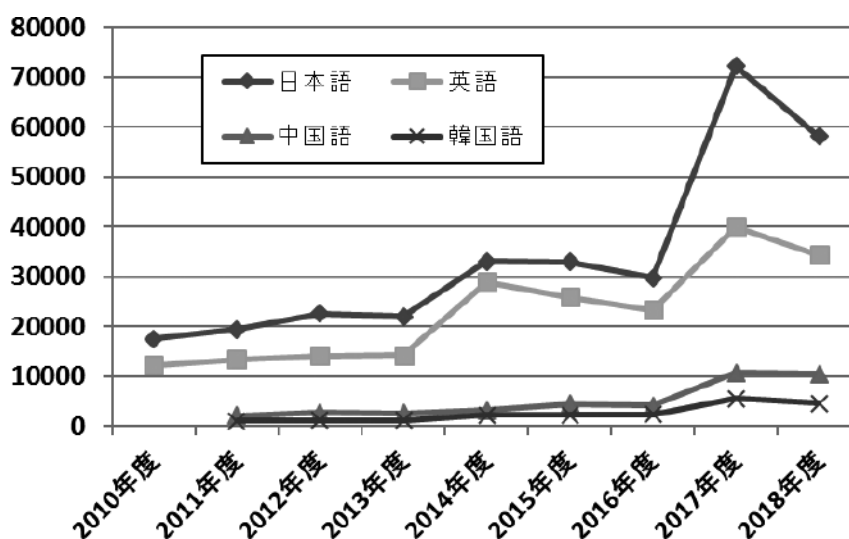
2018 年 11 月 26 日（月）13：00－15：10（豊中）

2018 年 11 月 30 日（金）13：00－15：10（吹田）



5. ホームページの管理運営

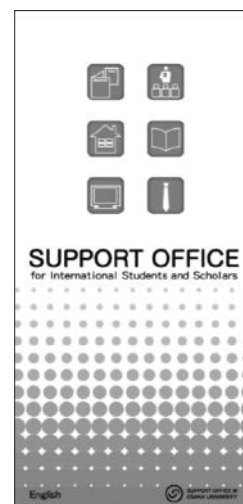
サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを4ヶ国語で公開している（日・英サイトは2010年4月より、中・韓サイトは2011年4月より公開）。2018年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約58,148件、英語サイトが約34,415件、中国語サイトが約10,475件、韓国語サイトが約4,642件であった。グラフは各言語の閲覧件数を示す。



6. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『Coming to Osaka』は、主に CESR 送付時に同封し（637 部送付・配布）、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションで主に配布した（547 部）。また、サポートオフィスの紹介パンフレットは、来訪者や留学フェア等で配布された（英：266 部）。

*（ ）内の数値は 2018 年度の配布数。



X. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文の順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程

【科目名】応用言語学研究A

【講義題目】第二言語教育学のための言語心理学（西口光一）

【講義概要】現代の外国語教育学は、現代の言語研究が拠り所としているのと同じ言語観や言語コミュニケーション観に、基づいて成立している。その一方で、人文科学の分野においては、記号論の観点から言語や思考や意識などを基礎づけなおす作業がすすんでいる。本講義では、そうした動きの中心に位置するバフチンの言語哲学・記号論を、外国語教育学の興味・関心に引きつけて読み解いた。授業は、『対話原理と第二言語の習得と教育』（西口光一著、くろしお出版）の各章を輪読する形で進めた。また、バフチンの言語観に基づいて開発された基礎日本語教科書『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese — テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）に関して、バフチン言語論との関連や教育内容と教育方法等について解説した。

【科目名】応用言語学研究B

【講義題目】ダイアロジズムと第二言語教育学（西口光一）

【講義概要】バフチンの言語哲学・文化記号論をさらに深く理解し、外国語教育学への応用を検討することを目的として、“Methods for Teaching Foreign Languages” (Hall, 2002)などを輪読の形式で講じた。随時に、自己表現活動中心の基礎日本語教育の方法についても言及した。

【科目名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

本授業では、基本的に、講義に加え、ペアや3人前後の小グループでの議論や意見交換の結果をクラスで共有し、全体での議論を深化させる形態をとった。また、学期後半の受講者による発表期間には、自身が発表を担当しない文献の場合にも事前に必ず読んでコメントができるように、問題意識を持って議論に臨むよう注意を促した。

【科目名】言語技術研究B

【講義題目】アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読み、コミュニケーションの目的や場面に応じた、書記言語コミュニケーションとしてのライティング活動について理解を深めることである。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるアカデミック・ライティングに関して、ディスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカデミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮について、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

本授業では、基本的に、講義に加え、ペアや3人前後の小グループでの議論や意見交換の結果をクラスで共有し、全体での議論を深化させる形態をとった。また、学期後半の受講者による発表期間には、自身が発表を担当しない文献の場合にも事前に必ず読んでコメントができるように、問題意識を持って議論に臨むよう注意を促した。

【科目名】言語コミュニケーション論A

【講義題目】CEFRと複言語・複文化主義（義永美央子）

【講義概要】1990年代に欧州評議会が開発したCEFR（Common European Framework of Reference for Languages: ヨーロッパ言語共通参照枠）は、ヨーロッパのみならず日本でも言語教育の実践や教材開発の理論的根拠として広く用いられている。本講義では、CEFRおよびCEFRの言語・文化観である複言語・複文化主義の基本的な考え方についての理解を、文献購読およびディスカッションを通じて深めることを目指した。また、日本をはじめとするアジア諸国でのCEFRおよび複言語・複文化主義の文脈化や、具体的な教育実践のあり方についても検討した。

【科目名】言語コミュニケーション論B

【講義題目】言語学習における自律学習とその支援（義永美央子）

【講義概要】近年、言語学習において、学習者の自律（オートノミー）、すなわち自分自身の学習を管理する能力に注目が集まっている。教室外にも学習リソースが豊富にある現代社会において、言語学習者は「何をどのように学ぶか」をどのように決定しているのか。また、そうした主体的な学習を教師はどのように支援できるのか。本講義では、自律学習に関する基本概念を検討した上で、自律学習・学習者オートノミーやその支援に関する論文を読み、自律学習がどのように生起するのか、また自律学習をどのように支援できるのかを考察した。

【科目名】言語文化教育論A

【講義題目】言語文化教育論入門（大谷晋也）

【講義概要】言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということを、それらを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り返るとともに、それを正へと転換する方策について考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱

い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語文化教育論B

【講義題目】言語文化教育の現状と課題（大谷晋也）

【講義概要】ヨーロッパや南アフリカ・中国・シンガポールなどのいくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るとともに、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に検討した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものであるべきなのかを考察した。

また、院生の専門や興味関心に応じて、認知言語学や医療人類学の話題も取り上げた。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語文化政策論A

【講義題目】「市民社会とは何か」（西村謙一）

【講義概要】「市民社会」に関して、公共圏と親密圏の関係をめぐる議論に関する検討を行った。また、人々の流動性が高まっている中で「シティズンシップ」概念の変容に関するクリスチャン・ヨブケらの議論を下敷きに、「市民」のあり方について検討を加えた。

【科 目 名】言語文化政策論B

【講義題目】多文化状況の中の「市民社会」（西村謙一）

【講義概要】「言語文化政策論A」でみた「市民社会」の思想を踏まえて、特に、多文化主義政策の構想に関するウィル・キムリッカの議論を参照しつつ、多エスニック・多文化状況下における「市民社会」の可能性について検討を加えた。

【科 目 名】応用マルチメディア論A

【講義題目】ITによる言語教育の拡張（難波康治）

【講義概要】第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つかについて検討した。前期は、インストラクショナルデザインの基礎となる教育および心理学の理論について学び、特にオンライン教育で問題となる動機付けについてARCSモデル等、既存のデザインを参考に検討を行った。

【科 目 名】応用マルチメディア論B

【講義題目】外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波康治）

【講義概要】後期は、ITを用いた教育の一つとして、映像がどのように語学教育を変えうるかについて、実践的に検討した。受講者が映像教材を作成し、それを受講してみることで、相互に評価を行った。今期は特にVR教材の作成について、その可能性を検討した。

② 博士後期課程

【科目名】応用言語学特別研究A（西口光一）

【科目名】応用言語学特別研究B（西口光一）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（村岡貴子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（村岡貴子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（義永美央子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（義永美央子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程

【科目名】共生行動論特別研究Ⅰ及び共生行動論特別研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、近藤佐知彦）、
共生行動論特定研究Ⅰ及び共生行動論特定研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、近藤佐知彦）

【講義題目】国際化と共生社会（近藤佐知彦担当分）

【講義概要】夏期集中講義を三人の教員で分担、近藤は共生社会実現における国際化に関する分野について講義とワークショップを行った。

(3) 大学院高度副プログラム

【プログラム名】インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践

【プログラム実施部局／連携部局】国際教育交流センター／言語文化研究科

【履修対象者】大学院博士前期（修士）課程学生および博士後期課程学生

【修了要件】8単位以上を修得すること（原則として1年で修得すること）

【プログラムの趣旨・概要】グローバル化、ポードレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっている。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もある。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものである。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考える。

【到達目標】本プログラムでの学習を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養すること。また、各授業での協働的な学習活動を通じて、背景の異なる他者とのコミュニケーションの際に、他者の話を傾聴し、かつ、他者への配慮ある発信方法を獲得すること。

【カリキュラムの構成】言語コミュニケーション論A・B（義永美央子）、言語技術研究A・B（村岡貴子）、言語文化教育論A・B（大谷晋也）、言語文化政策論A・B（西村謙一）から原則として1年以内に8単位を修得する。

(4) インターナショナル・カレッジ

【春夏学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	魚崎 典子
日本の社会とイデオロギー	Japan; Society and Ideology	近藤佐知彦
教育の社会学	Sociological Perspectives in Education	北山 有華
科学英語入門	Introduction to Scientific English	岡本 紗知
異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	中野 遼子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	勝田 順子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

日本語 700 レベル（共通教育科目）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	大谷 晋也
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	勝田 順子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	北山 有華
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	有川 友子

【秋冬学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	有川 友子
言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese Language Acquisition	西口 光一
シティズンシップと多文化共生	Citizenship, Diversity and Inclusion	北山 有華
コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	魚崎 典子
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	近藤佐知彦
科学と社会	Science and Society	岡本 紗知
近現代日本の諸事情	Modern Japanese Circumstances	後藤 徹寛
異文化コミュニケーションと言語	Intercultural Communication and Language	中野 遼子
アジアのなかの近代日本	Modern Japan in Asia	佐藤 治子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	勝田 順子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

共通教育科目（700 レベル）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	勝田 順子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	大谷 晋也
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	後藤 徹寛

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
M2	アラビア語学習者から見た日本語の名詞修飾節 — エジプト人中級日本語学習者を中心に	西口 光一 (平山 晃司)
M2	日本語アカデミック・ライティングにおけるパラフレーズの諸相 — 日本の中国人大学院生の事例をもとに	村岡 貴子 大谷 晋也
M2	「許可求め型表現」の使用実態及び聞き手の認識に関する考察	義永美央子 (瀧田 恵巳)
M1	海外にルーツを持つ子どもを取りまく言語環境 — 海外にルーツを持つ大学生へのインタビューからの一考察	西口 光一 (村上スミス・アンドリユー)
M1	中国語母語日本語学習成功者の研究 — 教育課程との相互作用の関心から	西口 光一 (ヨコタ村上孝之)
M1	日本在住の中国人ビジネスパーソンにおける職務上の電子メールライティングに見られる対人配慮の様相	村岡 貴子 (中村 綾乃)
M1	日本語学校の経営変容 — 経営者のインタビューを通して	義永美央子 (小口 一郎)
M1	アカデミック・ジャパニーズとビジネス日本語で求められるコミュニケーション能力の分析 — 出口を意識したAJ教育を目指して	義永美央子 難波 康治
M1	日本語におけるカタカナ外来語と原語の意味に対する意識研究 — 共時的・通時的分析を用いて	(力武 京子) 大谷 晋也
M1	「タメ口」をめぐる意識調査 — 日本語母語話者と日本語学習者の言語意識に関する対照社会言語学的研究	(山下 仁) 大谷 晋也
M1	JFL環境下の学習者の自律学習とその支援 — オンライン教室で学ぶ日本語学習者のモチベーションの変容から	(力武 京子) 難波 康治

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科・サイバーメディアセンター教員。

② 博士後期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D3	日本語学習者の相互行為能力の諸相—関係性、自己、物語行為	西口 光一 (力武 京子)
D3	中国の大学での観光業インターンシップに対するJOPの観点からの再考—学生、メンター、および教師への調査から	村岡 貴子 (力武 京子)
D3	日本語非母語話者同士の会話における言語規範について—自己開示場面に焦点を当てて	義永美央子 (秦 かおり)
D3	オーストラリア在住日英バイリンガル話者の言語実践—言語社会化の観点から	(ジェリー・ヨコタ) 義永美央子
D3	日本語の複合語におけるアクセントの融合・非融合に関する研究	(郡 史郎) 大谷 晋也
D3	EPA 看護師候補者に必要な漢字・語彙学習—看護師国家試験の出題漢字・語彙のデータベースに基づくオンライン教材開発	(岩根 久) 大谷 晋也
D3	台湾における言語使用と母語意識にみる帰属意識—小学校での閩南語履修者を事例に	(伊勢 芳夫) 西村 謙一
D2	インドネシア・北スマトラ州メダン市における日本語教育史	西口 光一 (大村 敬一)
D2	日本語教師の「専門性」—日本語教育関係者及び一般の人々へのインタビューとフォーカス・グループの会話分析	義永美央子 (岡田 悠佑)
D1	クリティカル・リーディング力育成を目指したピア・リーディング活動の会話分析	義永美央子 (岡田 悠佑)
D1	在日ベトナム難民の日本語学習を支える学習者オートノミーと社会的文脈に関するライフストーリー研究	義永美央子 西口 光一
D1	第二言語教育者のための教員養成課程の諸相と発展—ドラマトゥルギーを枠組みとして	(岩居弘樹) 大谷 晋也

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

③ 研究生

研 究 題 目	指 導 教 員
トルコ人学習者に対する日本語アカデミック・ライティング教育の現状と課題—学習者、教員及び日本語既習者のビジネスパーソンへの調査から	村岡 貴子

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
アラビア語学習者から見た日本語の名詞修飾節 — エジプト人中級日本語学習者を中心に	西口 光一 (平山 晃司)
日本語アカデミックライティングにおけるパラフレーズの諸相 — 日本の中国人民大学院生の事例をもとに	村岡 貴子 (大谷 晋也)
「許可求め型表現」の使用実態及び聞き手の認識に関する考察	義永美央子 (瀧田 恵巳)

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

② 博士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
日本語学習者の相互行為能力の諸相— 関係性、自己、物語行為	西口 光一 (力武 京子) *義永美央子
日本語の「はい」の表すもの— 「はい」の機能と韻律的特徴をめぐって	郡 史郎 義永美央子 *西口 光一
台湾における言語使用と母語意識にみる帰属意識— 小学校での閩南語履修者を事例に	(伊勢 芳夫) 西村 謙一 村岡 貴子
中国の大学での観光業インターンシップに対するJOPの観点からの再考 — 学生、メンター、および教師への調査から	村岡 貴子 (力武 京子) (山下 仁)
日本語の複合語におけるアクセントの融合・非融合に関する研究	(郡 史郎) 大谷 晋也
台湾における言語使用と母語意識にみる帰属意識— 小学校での閩南語履修者を事例に	(伊勢 芳夫) 西村 謙一
日本語学習過程におけるm-learningの現状、受容と利用プロセスについて	(岩根 久) 難波 康治 (岩居 弘樹)

*印は博士論文資格審査後の研究指導教員。()内は言語文化研究科・サイバーメディアセンター教員。

4. リサーチ・アシスタント (RA) の受入れ

研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 名	採用時間数	担 当 教 員
東南アジア諸国における地方自治に関する住民意識調査	27	西村 謙一

XI. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- 2018年4月2日 新規来日留学生・外国人研究者対象オリエンテーション（2回実施）
於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1階 研修室 参加者：英語 10名、日本語 15名、合計 25名
- 2018年4月5日 平成30年度 春季第49-1回 大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出合いの会」
於：吹田キャンパス ICホール 2階 講義室1～6、4階 会議室、コンベンションセンター 1階会議室、留学生交流情報室（IRIS） 組み合わせ数 70組
- 2018年4月6日 防災・防犯・交通安全等に関する留学生のためのセーフティプロモーション講習会
於：豊中キャンパス サイエンスコモンズ・サイエンススタジオB 参加者：16名
- 2018年4月9日 セーフティプロモーション講習会（留学生のための防災・防犯・救命救急講習会）
於：吹田キャンパス ICホール 2階 講義室5・6 参加者：48名
- 2018年4月14日 平成30年度 春季第49-2回 大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出合いの会」
於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室1313 組み合わせ数 31組
- 2018年4月18日 第17回 大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール 4階 会議室
学内参加者：4名、学外参加者：7名、合計：11名
- 2018年4月18日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂 参加者：117名
- 2018年4月26日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂 参加者：99名
- 2018年4月28日 Project HELP! 第7期 メンター研修・オリエンテーション
於：吹田キャンパス コンベンションセンター 会議室1・2・3、研修室 参加者：71名
- 2018年5月1日 防災体験学習フィールドトリップ
於：大阪市立阿倍野防災センター 参加者：16名
- 2018年6月1日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：箕面キャンパス 管理棟 4階 大会議室 参加者：159名
- 2018年6月4日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂 参加者：62名

- 2018年 6 月 6 日 海外留学オリエンテーション（本編）
 於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂 参加者：83 名
- 2018年 6 月 6 日、13日 IELTS Intensive Programme (HELP! plus) 説明会
 於：豊中キャンパス サイエンス・コモンズ 参加者：10 名
- 2018年 6 月 7 日 海外留学オリエンテーション（本編）
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6 参加者：11 名
- 2018年 6 月13日 第 82 回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：豊中キャンパス 待兼山会館 2 階 会議室 参加者 15 名
- 2018年 7 月27日 平成 29 年度 国際教育交流関係者連絡・交換会
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階 研修室 参加者：76 名
- 2018年 8 月 3 日 第 48 回 大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室 参加者：学内 3 名、学外 21 名、
 合計 24 名
- 2018年 8 月10日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
 於：豊中キャンパス 全学教育推進機構 大講義室 参加者：234 名
- 2018年 9 月11日 第 83 回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室 参加者 17 名
- 2018年 9 月26日 新規来日留学生・外国人研究者対象オリエンテーション（2 回実施）
 於：豊中キャンパス 全学教育推進機構 総合棟 I スチューデントコモンズ 2 階
 セミナー室 B 参加者：英語 8 名、日本語 8 名、合計 16 名
- 2018年 9 月28日 平成 30 年度 秋季第 50-1 回 大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出
 会いの会」
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 1～6、4 階 会議室、留学生交流情
 報室（IRIS） 組み合わせ数 58 組
- 2018年10月 3 日 平成 30 年度秋季第 50-2 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出
 会いの会」
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6、留学生交流情報室（IRIS）
 組み合わせ数 18 組
- 2018年10月 3 日・5 日 Project HELP! メンティーミニ説明会
 於：豊中キャンパス サイエンス・コモンズ・スタジオ A 参加者：19 名
- 2018年10月 5 日 新規来日留学生・外国人研究者対象オリエンテーション（2 回実施）
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階 会議室 1 参加者：英語 91
 名、日本語 35 名、合計 126 名
- 2018年10月13日 平成 30 年度 秋季第 50-3 回 大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出
 会いの会」
 於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室
 1301-1305、講義室 1311-1313 組み合わせ数 85 組
- 2018年10月22日 平成 30 年度 外国人留学生のための就職対策講座 第 1 回目「Introduction」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室 B 参加者：23 名

- 2018年10月25日 セーフティプロモーション講習会（留学生のための防災・防犯・救命救急講習会）
 於：豊中キャンパス サイエンスcommons B 参加者：24名
- 2018年10月29日 平成30年度 外国人留学生のための就職対策講座 第2回目「情報収集及び企業・業界研究」
 於：吹田キャンパス 生物学国際交流センター 4階 セミナー室 参加者：34名
- 2018年10月29日 Project HELP! 第6期 メンター研修・オリエンテーション
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター 会議室1・2・3、研修室 参加者：56名
- 2018年11月1日 防災体験学習フィールドトリップ
 於：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 参加者：20名
- 2018年11月7日 平成30年度 外国人留学生のための就職対策講座 第3回目「自己分析 キャリアデザイン」
 於：豊中キャンパス スチューデントcommons セミナー室B 参加者：18名
- 2018年11月22日 平成30年度 外国人留学生のための就職対策講座 第4回目「OB・OGによる体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール 2階 講義室5・6 参加者：23名
- 2018年11月28日 平成30年度 外国人留学生のための就職対策講座 第5回目「内定者による体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール 2階 講義室5・6 参加者：20名
- 2018年12月3日 平成30年度外国人留学生のための就職対策講座 第6回目「エントリーシートの書き方／合同企業説明会等対策」
 於：豊中キャンパス スチューデントcommons セミナー室B 参加者：24名
- 2018年12月5日 Project HELP! メンター・メンティー交流会
 於：豊中キャンパス サイエンス・commons・スタジオA
 参加者：メンター（留学生）6名、メンティー（阪大正規生）8名 合計14名
- 2018年12月7日 国際教育交流センタースピーチコンテスト
 於：吹田キャンパス ICホール 2階 講義室5・6 発表者10名
- 2018年12月10日 平成30年度 外国人留学生のための就職対策講座 第7回目「面接の基礎とグループディスカッション対策」
 於：吹田キャンパス ICホール 4階 会議室 参加者：16名
- 2018年12月13日 第84回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：豊中キャンパス 大学会館 2階 会議室 参加者16名
- 2019年1月7日 平成29年度 外国人留学生のための就職対策講座 第8回目「集団面接練習会」
 於：豊中キャンパス スチューデントcommons セミナー室B 参加者：8名
- 2019年1月30日 平成30年度 大阪大学派遣交換留学前交流会
 於：豊中キャンパス サイエンス・commons・スタジオA
 参加者：派遣阪大生参加者15名、OUSSEP学生29名、合計44名
- 2019年2月1日 平成30年度 第2回国立大学法人留学生指導研究協議会 兼 第50回大阪大学留学生教育・支援協議会

- 於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール
 学内参加者：16 名、学外参加者：66 名、合計：82 名
- 2019年 2 月 2 日 第 7 回 留学生交流・指導研究会
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6
 学内参加者：5 名、学外参加者：33 名、合計：38 名
 - 2019年 2 月13日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター MO ホール 参加者：133 名
 - 2019年 2 月14日 第 27 回 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
 於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール
 学内参加者：31 名、学外参加者 105 名、合計：136 名
 - 2019年 2 月19日 第 12 回 専門日本語教育研究協議会
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階 研修室 参加者：学内 24 名・学外 27 名 合計 51 名
 - 2019年 2 月25日 日本語授業教務オリエンテーション
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室 参加者：6 名
 - 2019年 2 月25日 学生対応研修会
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室 参加者：6 名
 - 2019年 2 月28日 日本語授業教務オリエンテーション
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 1 参加者：16 名
 - 2019年 2 月28日 学生対応研修会
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 1 参加者：16 名
 - 2019年 3 月 4 日 第 49 回 大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室 参加者：学内 4 名、学外 22 名、合計 26 名
 - 2019年 3 月 6 日 第 85 回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室 参加者 14 名
 - 2019年 3 月13日 大阪大学国際教育交流センター 第 1 回 公開講座「本格的な外国人労働者受入れにあたって」
 於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 大会議室 参加者：学内 11 名、学外 34 名 合計 45 名
 - 2019年 3 月27日 新規来日留学生・外国人研究者対象オリエンテーション（2 回実施）
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター 2 階 会議室 3 参加者：英語 19 名、日本語 8 名、合計 27 名

2. 海外出張・海外研修

○ 海外出張

- 2018年 5 月 2 日－5 月 5 日 西村謙一准教授 インドネシアのジョグジャカルタに出張
 科研でのインドネシア地方自治のサーベイ調査実施に向けた調査員研修会への参加および実査の監

督のため

- 2018年5月28日－6月2日 近藤佐知彦教授 アメリカ合衆国フィラデルフィアに出張
NAFSAにおいて研究発表および情報収集のため
- 2018年6月6日－6月8日 魚崎典子特任准教授 アメリカ合衆国ルイジアナ州ニューオリンズ
に出張
NACE Conference & Expo2018において情報収集のため
- 2018年6月22日－6月30日 魚崎典子特任准教授 イタリア共和国ヴェネト州ベネチアに出張
第8回International Conference on Advanced Collaborative Networks, Systems and Applications (COLLA
2018)でパネルディスカッションでのパネリストおよび研究発表を行うため
- 2018年7月27日－8月7日 後藤徹寛特任准教授 アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市、オ
レゴン州ユージーン市ほかに出張
防災コミュニケーション調査研究およびUniversity of Oregonとの大学間交流協定の締結促進のため
- 2018年8月15日－8月29日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏およびカビテ州に出張
科研でフィリピンの地方自治に関するサーベイ予備調査を行うため
- 2018年8月16日－8月27日 中野遼子特任助教 カナダのロンドン（ヒューロン大学）へ出張
CAJLE（カナダ日本語教育振興会）2018年次大会における研究発表のため
- 2018年8月23日－8月28日 後藤徹寛特任准教授 タイ国バンコク市に出張
JASSO留学フェア参加およびChulalongkorn Universityでの防災教育・国際交流プログラム視察・
JETROバンコクオフィス・読売新聞社バンコク支局など表敬訪問のため
- 2018年8月26日－8月30日 難波康治准教授 台湾台中市に出張
逢甲大学にて、共同研究に関する講演および研究打ち合わせのため
- 2018年8月29日－9月2日 西口光一教授 ベトナムのハノイに出張
ハノイ国家大学社会人文科学大学で開催されたシンポジウムでの基調講演とワークショップのため
- 2018年9月1日－9月3日 村岡貴子教授 韓国京畿道盆唐区に出張
2018年度日韓プログラム留学推進フェアへの参加と情報収集のため
- 2018年9月6日－9月16日 西村謙一准教授 イギリスのロンドンに出張
インドネシア研究の専門家らとの意見交換のため
- 2018年9月11日－9月24日 北山夕華准教授 ノルウェーのオスロおよびドランメンに出張
共同研究の調査、日本学術振興会ノルウェー同窓会の行事出席、およびオスロ大学との大学間交流
協定の話し合いのため
- 2018年9月12日－9月18日 西口光一教授 英国のカーディフに出張
5th Cardiff Symposium of Applied Linguistics and Japanese Language Pedagogyで発表を行うため
- 2018年10月15日－10月20日 魚崎典子特任准教授 アメリカ合衆国ネバダ州ラスベガスに出張
World Conference on E-Learning (E-Learn 2018)で研究発表を行うため
- 2018年10月26日－10月29日 西村謙一准教授 中国の広州市に出張
The 5th International Conference on Social Policy and Governanceで発表を行うため
- 2018年11月25日－11月30日 魚崎典子特任准教授 フィリピン共和国マニラに出張
第26回International Conference on Computers in Education (ICCE 2018)で学会発表を行うため
- 2018年11月25日－12月2日 西村謙一准教授 フィリピン共和国のマニラ首都圏に出張

The 2018 Annual Conference of the Asian Group for Public Administrationで発表を行い、地方自治の調査を行うため

- 2018年11月28日－11月31日 大谷晋也准教授 中華人民共和国上海市に出張
上海海洋大学における講演のため
- 2018年11月29日－12月2日 岡本紗知准教授 台湾花蓮市に出張
International Conference of East-Asian Association for Science Education (EASE 2018) で学会発表を行うため
- 2019年2月20日－2月24日 西村謙一准教授 フィリピンのカビテ州に出張
科研でのフィリピン地方自治のサーベイ調査実施に向けた調査員研修会への参加のため
- 2019年3月10日－3月20日 西村謙一准教授 フィリピンのダバオ市およびマニラ首都圏に出張
科研でフィリピン地方自治の調査を実施するため
- 2019年3月15日－3月18日 村岡貴子教授 中国北京に出張
国際交流基金北京日本文化センター・北京日本学研究中心・高等教育出版社主催「日本語教育学の理論と実践をつなぐ国際シンポジウム」での講演とパネルディスカッションのため
- 2019年3月20日－4月1日 北山夕華准教授 ノルウェーのオスロおよびドランメンに出張
科研研究の調査のため、Oslo Metropolitan UniversityおよびUniversity of Southeastern Norway、現地公立学校やNGO、博物館施設等を訪問
- 2019年3月22日－3月29日 中野遼子特任助教 マレーシアのクアラルンプールへ出張
APAIE (Asia-Pacific Association for International Education, 海外教育フェア) に出席のため (JAFSA より奨励金を受給)
- 2018年3月24日－3月26日 難波康治准教授 韓国ソウル特別市に出張
サイバー韓国外語大学にて、研究打ち合わせのため

3. 出版物・印刷物等（2018年5月から2019年4月まで）

No.	出 版 物 の タ イ ト ル	発行年月
1	大阪大学国際教育交流センター 2017 年度年報	2018 年 7 月
2	OUSSEP Syllabus 2019-2020 (web 版)	2019 年 2 月
3	第 27 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会参加団体活動概要	2019 年 2 月
4	第 27 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書	2019 年 3 月
5	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第 23 号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No. 23	2019 年 3 月
6	留学生日本語プログラム事務職員用ガイド	2019 年 3 月
7	留学生日本語プログラム 2019 年度履修ガイド Japanese Language Programs for International Students 2019	2019 年 3 月

4. 来訪者対応

年 月 日	来 訪 者	センターからの対応者
2018年 4 月11日	ケンブリッジ大学ホマトン・カレッジ Stewart Eru氏 (Homerton International Programme)	近藤教授、中野特任助教
2018年 4 月11日	エジンバラ大学 Rupert Lezmore氏 (Head of Visiting Student Office, College of Arts, Humanities & Social Science)	北山准教授、中野特任助教
2018年 4 月19日	カルフォルニア大学 MARY E. MacMAHON氏 (Regional Director, Asia & Africa, UCEAP) UC 高橋香世氏 (東京スタディセンター オフィス・マネージャー)	近藤教授、中野特任助教
2018年 5 月10日	大韓民国教育部国際教育院 Park Seung Chul 院長、Seo Huijeong 氏、Cho He-jin 氏	村岡教授、西村准教授
2018年 5 月16日	クイーンズランド大学 Aaron Pont 氏 (Regional Manager, Market Development, Institute of Continuing & TESOL Education, UQ-ICTE))	近藤教授、中野特任助教
2018年 6 月 5 日	マッセイ大学 Harry Verhagen 氏 (Associate Director, Professional Education, Professional and Countinuing Education, PaCE), Hey Joung Choi-Milward 氏 (Programme Coordinator International Short Courses, PaCE)	近藤教授、中野特任助教
2018年 6 月11日	モナシュ大学 櫻木真由美氏 (Regional Manager, Business Development)	近藤教授
2018年 7 月 3 日	メルボルン大学 渡邊泰久氏 (Lecturer, Asia Institute)	近藤教授、勝田特任講師、 中野特任助教
2018年 7 月26日	ミュンヘン工科大学 Martina von Imhoff 氏 (The Student Exchange Coordinator, Department of Informatics)	近藤教授、中野特任助教
2018年 8 月 1 日	マレーシア工科大学 石松純講師 (Senior Lecturer)	近藤教授、西口教授、中野 特任助教、山下特任職員、 福井事務補佐
2018年10月12日	漢陽大学国際処 Han Hochuel 氏 (Senior Manager), Lee Da Hye 氏 (Associate Manager)	近藤教授、北山准教授、中 野特任助教
2018年10月19日	オレゴン大学 Li-Hsien Yang 先生 (East Asia Programs Director)	近藤教授、後藤特任准教 授、中野特任助教
2018年10月24日	アブダビ投資庁 Saeed AlMansori 氏 (Deputy Director), Reem B. Mahmud 氏 (Manager), Mohammed AlMansoori 氏 (Advisor with the scholarship)	北山准教授、中野特任助 教、橘課長、内山学生交流 企画係員
2018年10月26日	モナシュ大学 櫻木真由美氏 (Regional Manager, Business Development)	近藤教授、北山准教授、中 野特任助教
2018年11月 7 日	クイーンズランド大学 Dr. Pi-Hsuan Monica Chien 氏 (Lecturer, UQ Business School)	近藤教授、北山准教授、中 野特任助教
2018年11月28日	西南大学 Fajun ZHANG 氏 (Director of Office of International Cooperation and Exchange), Dr. Xiaodong Yin 氏 (工作研究科部長)、学生センター副処長、Lian ZHOU 氏 (Office of International Cooperation and Exchange)	有川センター長、西口教 授、近藤教授、北山准教授、 中野特任助教、赤坂専門職 員
2018年12月 4 日	サンパウロ大学 Vivian de Castro 氏 (Comissão de Cooperação Internacional Faculdade de Filosofia, Letras e Ciências Humanas)	近藤教授、北山准教授、中 野特任助教

年 月 日	来 訪 者	センターからの対応者
2018年12月13日	中国教育国際交流会 来日訪問団	近藤教授、北山准教授、魚崎特任准教授、中野特任助教
2018年12月13日	アイルランガ大学	近藤教授
2019年 3 月12日	ヘルシンキ大学 Dr. Minna Koutaniemi教授 (Head of International Exchange Service)、Raisa Asikainen氏 (Specialist of International Exchange Service)	北山准教授、中野特任助教
2019年 3 月14日	クイーンズランド大学 Brendon Lutwyche氏 (Director of International Services, UQ Business School)	北山准教授、中野特任助教
2019年 3 月14日	グローニンゲン大学 Jodien Houwers氏 (Policy Advisor of International Strategy & Relations)	中野特任助教
2019年 3 月27日	西南大学 Dr. Jin Yule教授 (Vice President), Dr. Changhua Hu教授 (Dean, College of Pharmaceutical Sciences), Qing-yuan Yang教授 (School of Geographical Sciences), Fajun Zhang氏 (Director, Office of International Cooperation and Exchange), Lian Zhou氏 (Chief, International Promotion of Chinese Language, Office of International Cooperation and Exchange)	有川センター長、大谷課長補佐、山下特任職員
2019年 3 月28日	テキサス A&M 大学	近藤教授

5. にほんごテーブル

にほんごテーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整・協力の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。にほんごテーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたり、自由に会話を楽しんだりしている。こうした活動に参加することで、参加者は自身の日本語学習の達成感を得てさらにモチベーションを高めることができ、いっそう日本語力を伸ばすことができる。また、にほんごテーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本での生活を快適に過ごすことができるさまざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上でのたいへん貴重な場となっている。国際教育交流センターは、各部局の留学生相談室等への案内や、留学生会のメーリングリストでの案内など広報の面で日本語テーブルの活動を支援している。

○吹田地区でのにほんごテーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成 18 年 4 月に発足した。会員数は、発足時が 41 名で、平成 31 年 2 月現在 30 名である。

吹田地区のにほんごテーブルでは、通常の活動の他に、学習者による自分の国や専門等の話題での日本語による発表を随時行っている。また、七夕飾り、年賀状教室、お茶会、カルタ会などの日本の習慣や文化の紹介も行っている。このような種々の活動により、にほんごテーブルは、外国人参加者の日本語学習・

習得のための機会として、また外国人参加者と一般日本人市民との交流の機会として、さらには外国人参加者同士の交流・情報交換の機会として重要な機能を果たしている。竹の子にほんご交流会では、会の活動を紹介するホームページを作成し公開している。

他に、竹の子にほんご交流会のメンバーの有志が、日本語テーブル終了後に日本語集中コースの初級クラスにビジターとして参加し、学生の会話パートナーをした。実績は、以下の通り。

春学期：2018年5月8日(火)－7月24日(火)の計11回 ビジター参加者10名

秋学期：2018年11月7日(水)－2019年2月6日(水)の計12回 ビジター参加者8名

□実施状況

・期 間：春季

参加登録—平成30年4月24日(火)

平成30年5月8日(火)－7月24日(火)

※7月3日(火)は交流会として、七夕飾りを実施した。

秋季

参加登録—平成30年10月31日(水)

平成30年11月7日(水)－平成31年2月6日(水)

※2月6日(水)は交流会として、茶話会を実施した。

・曜日と時間：上記期間中の春季は毎週火曜日、秋季は毎週水曜日 13時00分－14時30分

春季は11回、秋季は12回

・場 所：国際教育交流センター 第5・6教室

・平均参加者数：春季

外国人参加者：10.4人、日本人参加者：18.4人

秋季

外国人参加者：20.4人、日本人参加者：22.5人

□交流映画会

・平成30年7月31日(火) 13:00－16:00

『あん』(河瀬直美 監督・脚本 樹木希林 主演)

外国人参加者及び日本人参加者：合計39人

□竹の子にほんご交流会総会

・平成31年3月13日(水) 13:00－13:50

□研修会

・平成31年3月13日(水) 14:00－15:30 銀杏会館3階 大会議室

「本格的な外国人労働者受入れにあたって」

春原 憲一郎 先生(公益財団法人京都日本語教育センター校長)

○豊中地区でのにほんごテーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区でのにほんごテーブルの開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、平成26年6月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営と国際教育交流センターがそれ

を支援する形で、にほんごテーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループマチカネにほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。

マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成 26 年 5 月に発足した。会員数は、平成 31 年 4 月現在 22 名である。

□実施状況

- ・期 間：春季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成 30 年 4 月 18 日（水）－7 月 25 日（水）

秋季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成 30 年 10 月 10 日（水）－平成 31 年 1 月 30 日（水）

- ・曜日と時間：上記期間中の毎週水曜日 10 時 30 分－12 時 00 分

春季は 14 回、秋季は 15 回

- ・場 所：大阪大学国際交流会館 本館 ロビー

- ・平均参加者数：春季

外国人参加者：15 人、日本人参加者：16 人

秋季

外国人参加者：20 人、日本人参加者：16 人

□マチカネにほんご交流会総会

- ・平成 31 年 4 月 4 日（水） 10：30－12：00

□研修会

- ・平成 31 年 3 月 13 日（水） 14：00－15：30 银杏会館 3 階 大会議室

「本格的な外国人労働者受入れにあたって」

春原 憲一郎 先生（公益財団法人京都日本語教育センター校長）

XII. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語プログラム (5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語研修生 (4) 短期留学特別プログラム (5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 (6) その他
4. 教育(学外) 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演 11. 報道 12. その他

※以下の記載の7の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーションⅠ/Ⅱ-3

(5) 国際交流科目

○秋冬学期

Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナルカレッジ

○秋冬学期

Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応

5. 学内運営

(職指定を含む)

- ・国際教育交流センター長
- ・国際交流委員会委員

- キャンパスライフ健康支援センター運営委員会委員
- ハウジング委員会委員
- 経営協議会委員
- グローバル連携オフィス員

7. 研究業績

(3) 口頭発表

- 有川友子、2018、「日本の高等教育機関における留学生教育支援体制のあり方を考える」（単独ポスター）、異文化間教育学会第39回大会、平成30年6月9-10日（新潟大学）（無）

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 近畿地区幹事

9. 会議運営

- 平成30年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2019年2月
- 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2019年2月

10. 講演

- 洪庵忌 ― 適塾のタベ ―
講演「高等教育のグローバル化について考える ― 四半世紀の留学生との関わりを通して」
日時：平成30年6月4日（月） 場所：適塾
- 金沢大学理工学域・自然科学研究科第11回FDシンポジウム
講演・ワークショップ「多様化する留学生への指導のあり方 ― 事例を通して考える ―」
日時：平成31年3月14日（木）14:00-15:30 場所：金沢大学自然科学大講義棟 大講義室

12. その他

- 文部科学省 住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業選定委員会委員
- 京都市「京（みやこ）グローバル大学」促進事業 選考委員会委員

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○春学期

キャリアデザインとビジネスコミュニケーション

(5) 国際交流科目

○春・夏学期

オンライン・リソースを活用したL2学習

○秋・冬学期

コンピュータを活用した語学学習

3. 学生指導

- ・就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田・箕面キャンパス）
- ・留学生の相談対応（IRIS、箕面分室）

5. 学内運営

- ・海外派遣候補者選考WG
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会
- ・大阪大学キャリアセンター 連携協力者

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：16H03078 平成30年～32年度「学習ログシステムとeブックを活用した留学生のキャリア支援に関する研究と実践」 研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（B）課題番号：16H03078 平成28年～31年度「教育ビッグデータの解析による教材改善手法の開発と評価」（研究代表者：殷 成久） 研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究（S）課題番号：16H06304 平成28年～33年度「教育ビッグデータを用いた教育・学習支援のためのクラウド情報基盤の研究」（研究代表者：緒方 広明） 研究協力者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・Kousuke Mouri, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata, Learning analytics for supporting seamless language learning using e-book with ubiquitous learning system, *Educational Technology and Society*, 21(2): 150-163, 2018. [IF=2.034] 査読有

- Kousuke Mouri, Noriko Uosaki, Chengjiu Yin, Analyzing Learning Patterns Based on Log Data from Digital Textbooks, *International Journal of Distance Education Technologies*, 17(1), pp.1-14, 2019 [WOS (ESCI)]. 査読有
- Kousuke Mouri, Noriko Uosaki, Chengjiu Yin, Learning Analytics for Improving Learning Materials using Digital Textbook Logs, *Journal of Information Engineering Express Information Engineering Express International Institute of Applied Informatics*, Vol.4, No.1, pp.23-32, 2018. 査読有
- Kousuke Mouri, Noriko Uosaki, Atsushi Shimada, Design and evaluation of seamless learning analytics, *20th international conference on Human-Computer Interaction* (Invited paper), 査読有
- Mohammad Nehal Hasnine, Kousuke Mouri, Noriko Uosaki, Victoria Abou-Khalil, Brendan Flanagan and Hiroaki Ogata, SCROLL Dataset in the Context of Ubiquitous Language Learning, *Workshop Proceedings of the 26th International Conference on Computer in Education*, pp.418-423, November 26-30, Philippines, 2018. 査読有
- Mohammad Nehal Hasnine, Kousuke Mouri, Brendan Flanagan, Gokhan Akcapinar, Noriko Uosaki and Hiroaki Ogata, Image Recommendation for Informal Vocabulary Learning in a Context-aware Learning Environment, *Proceedings of the 26th International Conference on Computer in Education*, pp.669-674, November 26-30, Philippines, 2018. 査読有
- Kousuke Mouri, Mohammad Nehal Hasnine, Takafumi Tanaka, Noriko Uosaki and Hiroaki Ogata, Seamless Learning Infrastructure for Finding Relationships Between Lecture and Practical Training, *Proceedings of the 26th International Conference on Computer in Education*, pp.530-532, Nov.26-30, Philippines, 2018. 査読有
- Lingyu LI, Noriko UOSAKI, Hiroaki OGATA, Kousuke MOURI, & Chengjiu YIN, Analysis of Behavior Sequences of Students by Using Learning Logs of Digital Books, *Proceedings of the 26th International Conference on Computer in Education*, pp.367-376, Nov. 26-30, Philippines, 2018 (Best Student Paper Award Nominee). 査読有
- 毛利考佑, 島田敬士, 殷 成久, 魚崎典子, 金子敬一, 緒方広明, 非負値行列因子分解を用いたデジタル教科書におけるスクラッチ機能の閲覧パターン分析, 第 25 回 情報処理学会 教育学習支援情報システム研究会 (CLE), 北海道大学, 2018 査読無
- 松下孝太郎, 魚崎典子, 鈴木英男 個人用漢字学習システムの開発と外国人留学生クラスへの導入 (事例報告) 日本 e-Learning 学会誌 第 18 号 pp.1-6. (2018.9) 査読有

(2) 著書

- Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Mahiro Kiyota, Hiroaki Ogata, Supporting Seamless Learning with a Learning Analytics Approach, in Looi, C.-K., Wong, L.-H., Glahn, C., Cai, S. (Eds.) *Seamless Learning Perspectives, Challenges and Opportunities*, Springer, pp.171-190, 2019. DOI: 10.1007/978-981-13-3071-1_9

(3) 口頭発表

- 魚崎典子, 毛利考佑, 緒方広明, 学習ログシステムとeブックを活用した留学生のシームレスなキャリア支援, 第 25 回 情報処理学会 教育学習支援情報システム研究会 (CLE), 北海道大学, 2018-CLE-25 (2), 1-5, 2018 年 6 月 査読無
- Noriko Uosaki, Takahiro Yonekawa, and Chengjiu Yin, Supporting Collaborative Interaction Among Learners Using Collaborative Learning System InCircle, *Proceedings of the 8th International Conference on Advanced Collaborative Networks, Systems and Applications (COLLA2018)*, pp.1-6, June 24-28, Venice, Italy, 2018. 査

読有

- Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Chengjiu Yin, Hiroaki Ogata, Seamless Support for International Students' Job Hunting in Japan Using Learning Log System and eBook, *Proceedings of IEEE International Conference on Learning Technologies and Learning Environments (LTLE2018)*, pp.374-377, July 8-12, Yonago, Tottori, 2018. 査読有
- Mouri, K., Uosaki, N., Hasnine, M.N., Shimada, A., Yin, C., Kaneko, K. & Ogata, H. (2018). Supporting Teaching/Learning with Automatically Generated Quiz System. In *Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education* (pp.178-187). Las Vegas, NV, United States: Association for the Advancement of Computing in Education (AACE). 査読有
- Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Chengjiu Yin, Hiroaki Ogata, How We Can Support International Students' Job Hunting in Japan Seamlessly, *Proceedings of 26th International Conference on Computer in Education (ICCE2018)*, pp.527-529, Nov. 26-30, Philippines, 2018. 査読有
- Noriko Uosaki and Gustavo Zurita, Facilitating Collaborative Learning for Japanese Language Learners using Sketchpad, *Workshop Proceedings of the 26th International Conference on Computers in Education (ICCE2018)*, pp.767-774, Nov. 26-30, Philippines, 2018. 査読有

8. 学外運営

- グローバル人材活用運営協議会構成員
- CARES-Osaka 運営委員会構成員
- CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group, sub-division of ICCE2018) program committee member
- LTLE2018 (7th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

9. 会議運営

- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2019年2月

12. その他

- 2018年度「留学生のための就職対策講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年10月～2019年1月（計8回）
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年4月、10月（計4回）

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナー

○秋～冬学期

専門日本語・多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナー

(3) 大学院（言語文化研究科）／外国語学部

○春～夏学期

言語文化教育論A/言語文化教育論（F）

○秋～冬学期

言語文化教育論B/言語文化教育論（G）

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA600

○秋～冬学期

総合日本語 JA600

(6) インターナショナルカレッジ日本語科目

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3（うち留学生は2）

(2) 博士前期課程 3（留学生）

5. 学内運営

- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・外国語学部教授会構成員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員
- ・未来共生イノベーター博士課程プログラム担当教員
- ・情報化推進会議委員
- ・情報セキュリティ連絡会委員

- ODINS 運用部会委員
- マチカネにはんご交流会担当教員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26370607 平成 26 年度～平成 30 年度「EPA 看護師候補者のためのオンライン漢字語彙教材の開発」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 30 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「『日本語・グローバル理解演習』のコンセプトと設計の指針」『多文化社会と留学生交流』第 23 号（大阪大学国際教育交流センター）大谷晋也・西口光一、2019.3（共著）

(2) 編著書

- 『枕草子（三巻本）』（平安文学ライブラリー）、日本文学 Web 図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2019 年 3 月、Web 配信

(3) 口頭発表

- 「EPA 看護師候補者用国家試験必修語彙学習システム」（看護と介護の日本語教育研究会 第 16 回例会）陳雪蓮・大谷晋也・スミス 朋子、2018.7
- 「国内の大学における日本語教員養成課程の位置付けに関する実態調査」（日本教育工学会 第 34 回全国大会）野瀬 由季子・大山 牧子・大谷 晋也、2018.9

8. 学外運営

- 国・地方公共団体、医療事務連絡会（箕面市等）委員
- その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

10. 講演

- 「外国人・移民・難民について考える」みのお外国人医療サポートネット定例研修会、2018.7
- 「異文化「理解」と共生のために」高大連携特別講座（東洋大学附属姫路高等学校）2018.7
- 「共生のための異言語異文化「理解」」亜洲共同的大海洋之系列講座（上海海洋大学）2018.11
- 「在住外国人への災害対応と医療 ～被災地の経験と教訓から～」外国人市民への保健・医療サポートセミナー 2019（医療事務連絡会（箕面市等））2019.1（共同でコーディネーター）

1. 専門分野

微生物学、科学教育学、科学英語

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナーⅠ

○秋冬学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナーⅡ

(5) 国際交流科目

○春夏学期

Introduction to Scientific English（科学英語入門）

○秋冬学期

Science and Society（科学と社会）

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応（IRIS、豊中分室）
- ・留学生の個別相談対応

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター評価WG委員
- ・国際教育交流センター人権・セクシャルハラスメント対策委員
- ・国際教育交流センター財務委員
- ・国際教育交流センター研究倫理教育 実施担当
- ・国際教育交流センター研究調査申請 対応窓口
- ・国際教育交流センター研究会 実施担当
- ・大阪大学留学生支援ネットワーク担当責任者
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金 若手研究（課題番号 18K13256）平成 30 年度～平成 33 年度
「進路として理系を選択するまで：生徒の意思決定プロセスの質的分析」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- “Targeting IS608 transposon integration to highly specific sequences by structure-based transposon engineering”, N. Morero, C. Zuliani, B. Kumar, A. Bebel, S. Okamoto, C. Guynet, A. Hickman, M. Chandler, F. Dyda, O. Barabas, *Nucleic Acids Research*, 査読有, 2018 年 4 月
- 教科書に「科学の本質」は記述されるか——日本とカナダの高等学校・生物（分子生物学分野）の比較研究——、『科学教育研究』、査読有、2019 年 6 月刊行予定

(3) 口頭発表

- 「科学の本質」は教科書に記述されるか——日本とカナダの高校生物の教科書の比較解析, 岡本紗知, 日本理科教育学会第 68 回全国大会, 2018 年 8 月, 岩手
- “Textbooks’ View of the Nature of Science”, S. Okamoto, *International Conference of East-Asian Association for Science Education*, 2018 年 12 月, 台湾

10. 講演

- “Living Abroad —Cross-Cultural Communication—”（専門日本語研修生対象セミナー）、2018 年 10 月, 国際交流基金関西国際センター

12. その他

- 第 2 回日独HeKKSaGOn学生ワークショップ、企画・運営
- 新規来日国費留学生研究訪問コーディネート（4 月・10 月）
- 新規来日留学生への生活サポーターコーディネート（4 月・10 月）
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、運営、大阪大学国際教育交流センター（4 月・10 月）
- 平成 30 年度国際教育交流センタースピーチコンテスト, 企画・運営, 2018 年 12 月
- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、運営、大阪大学国際教育交流センター、2019 年 2 月

1. 専門分野

社会言語学、会話分析、日本語教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

総合日本語

○秋～冬学期

総合日本語

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA400-1

○秋～冬学期

総合日本語 JA400-1

(7) その他

○夏季J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2018年6月18日～8月10日までの8週間）のコーディネーション及び授業担当（週に6コマ）

○夏季超短期プログラム（マレーシア工科大学、2018年8月1日～8月23日）のコーディネーション

○冬季J-ShIPプログラム、2018年1月5日～2月9日）のコーディネーション及び授業担当（週に6コマ）

○中級日本語と防災（春季超短期プログラム、2018年1月31日～2月21日）のコーディネーション

5. 学内運営

・教務委員会

1. 専門分野

教育社会学、比較教育学、シティズンシップ教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナーⅠ

(2) 国際交流科目

○春夏学期

Sociological Perspectives on Education

○秋冬学期

Diversity, Equity and Citizenship

3. 学生指導

(3) その他

- ・交換留学生（OUSSEP）の相談対応
- ・教員による留学相談
- ・国連ユースボランティアプログラム

5. 学内運営

- ・ファカルティ・ディベロップメント委員会 委員
- ・国際交流委員会 海外派遣候補者選考 WG 委員
- ・国際教養・複合型プログラム（OUSSEP）運営WG 委員
- ・国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- ・国際教育交流センター 広報出版委員会 委員
- ・国際教育交流センター 将来計画及び評価に関する原案の作成を行うWG 委員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金 研究活動スタート支援 2018－2020 年度 課題番号 18H05761「多文化共生に資する教員養成についての研究」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・橋崎頼子・北山夕華・川口広美（2019）「多様性に向き合う教師育成のために―寛容と公正の視点からみた教師教育者の取り組み―」『日本教育大学協会研究年報』第37集、pp.135-147、査読無.

- Kitayama, Y. (2018) 'The Rise of the Far-Right in Japan, and Challenges posed for Education'. *London Review of Education*, No.16. Vol.2, pp.250-267, 査読有.
- Kitayama, Y. and Hashizaki, Y. (2018) 'From Pity to Compassion: The ethics of care and Human Rights Education'. *Human Rights Education in Asia-Pacific*, Vol. 8, pp.269-284, 査読無.

(2) 著書

- 北山夕華 (2018) 「イングランドの市民性教育の実践と課題 — 低階層地域の学校の事例が示唆するもの —」 近藤孝弘・中矢礼美・西野節男編著『リーディングス 比較教育学 地域研究 — 多様性の教育へ』 東信堂、pp.78-92 (分担執筆).
- 『教師と人権教育』 A. オスラー・H. スターキー著、(藤原孝章・北山夕華監訳)、2018年7月、担当：序文、謝辞、第10章、あとがき及び監訳 [原著：Osler, A. and Starkey, H. (2010) *Teachers and Human Rights Education*, Stoke on Trent: Trentham Books] (翻訳).

(3) 口頭発表

- Kitayama, Y. 'Conceptions of citizenship and cultural tolerance'. Multicultural Democracy Conference. Kyushu University, 11 May 2018. 査読有.
- 北山夕華「ノルウェーの教育における多文化主義と『ノルウェー人』概念の変容 — 学生へのインタビュー調査から —」日本教育学会 第77回大会、於宮城教育大学、2018年9月1日.
- 橋崎頼子・北山夕華・川口広美・南浦涼介「多様性に向き合う教員養成のために — 寛容と公正の視点から見た教師教育者の戦略 —」日本教育大学協会 2018年度研究集会、2018年10月13日.

8. 学外運営

- Japan Society for Promotion of Science Alumni Club Norway 理事
- *Asian Journal of Comparative Politics* 査読者
- *Asia Pacific Journal of Education* 査読者
- *Human Rights Education Review* 査読者

9. 会議運営

JSPS Alumni Club Norway Kick-off meeting 運営

10. 講演

- 「『国民』の境界と教育 — ノルウェーの取り組みから見えてくるもの —」同志社大学教育文化学会 第28回年次大会 特別講演会、2018年9月30日、於同志社大学.
- 「教育と医療の社会学 — 逸脱・障害・学力をどう捉えるか —」日本救急医学会第46回総会 教育講演 2018年11月22日、於パシフィコ横浜.
- 「『市民』概念の変容と市民性教育」第12回大阪大学専門日本語教育研究評議会、2019年2月19日、於大阪大学吹田キャンパス.

12. その他

- 2019年1月12日 大阪府立千里高等学校スーパー・グローバル・ハイスクール 研究成果発表会 コメンテーター.

- 言語文化教育研究会 第5回年次大会 シンポジウム「市民性形成と言語文化教育」通訳、委員企画フォーラム「ワールドカフェ『コスモポリタン・シティズンシップ』の視座から実践のヒントを語り、共有する」コーディネーター.

1. 専門分野

グローバル教育、ESD、防災コミュニケーション、減災ガバナンス

2. 授業担当

(1) 共通教育

○秋冬学期

多文化コミュニケーション

多文化コミュニケーション・セミナーⅡ

(5) 国際交流科目

○秋冬学期

近現代日本の諸事情／Modern Japanese Circumstances

3. 学生指導

留学生交流情報室 IRIS・豊中分室・箕面分室などで生活・留学相談、地震・台風など災害時アドバイジング

5. 学内運営

- ・大阪大学国際教育交流センター広報・出版委員会
- ・大阪大学留学生指導フロントスタッフネットワーク
- ・大阪大学老年学研究会
- ・大阪大学未来共創思考サロン「フォワイエ阪大（防災・減災・発災時コミュニケーション共創サロン）」

7. 研究業績

(1) 学会抄録

- ・「大阪北部地震および西日本豪雨災害における阪大生と市民の避難行動」（日本セーフティプロモーション学会 第12回 全国学術大会）
- ・「『災害（情報）弱者』の避難行動に必要な地域ソーシャルキャピタルの活用」（日本農村生活学会 2018年度全国大会（第67回日本農村生活研究大会））
- ・「災害時の情報発信と共有が可能なモバイル・アプリ「CARED」の紹介（Japanese Journal of Disaster Medicine 21(3)、第22回日本集団災害医学会総会・学術集会）
- ・被災地内の一般市民からの情報に基づいた避難所・被災者の位置および健康状態把握へのアイデア——CAREDの活用（Japanese Journal of Disaster Medicine 21(3)、第22回日本集団災害医学会総会・学術集会）

8. 学外運営

- ・日本農村生活学会 理事・総務委員
- ・日本セーフティプロモーション学会 第12回学術大会準備委員会 協力実行委員
- ・公益財団法人とよなか国際交流協会 災害時多言語支援センター アドバイザー
- ・箕面市豊川南小学校地区防災委員会 委員（外国人市民支援班）

9. 会議運営

- ・大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール、2019年2月
- ・大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年4月、10月（計4回）

10. 講演

- ・「大阪府北部地震における阪大生と市民の避難行動」大阪大学社会学共創連続セミナー第1回「防災のある街へ：大阪府北部地震をふまえた北摂地域防災」2018年9月1日、大阪大学会館 講堂
- ・「災害時の多言語通知支援と多文化共生のための防災コミュニケーション」大阪大学共創フェスティバル 2018 大阪大学シンポジウム「産官学民で共に創る未来の社会」2018年11月6日、ホテル阪急エキスポパーク
- ・「大阪北部地震および西日本豪雨災害における阪大生と市民の避難行動」日本セーフティプロモーション学会 第12回 全国学術大会、2018年11月24日・25日、山口大学 医学部 霜仁会館
- ・「多文化共生のための防災コミュニケーション：大阪府北部地震および西日本豪雨災害における阪大生と市民の避難行動」大阪大学未来共創思考サロン「フォワイエ阪大」交流セミナー、2019年3月20日、大阪大学コンベンションセンター

12. その他の活動

（学内）

- ・2018年度春学期 新規渡日留学生対象「セーフティプロモーション講習会@豊中キャンパス」企画運営、2018年4月6日
- ・2018年度春学期 日本語日本文化教育センター「学生生活オリエンテーション@箕面キャンパス CJLCホール」、2018年4月6日
- ・2018年度春学期 新規渡日留学生対象「セーフティプロモーション講習会@吹田キャンパス」企画運営、2018年4月9日
- ・2018年度春学期「防災体験学習フィールドトリップ@大阪市立阿倍野防災センター」企画引率、2018年5月1日
- ・2018年度秋学期 日本語日本文化教育センター「学生生活オリエンテーション@箕面キャンパス CJLCホール」、2018年9月28日
- ・2018年度秋学期 新規渡日留学生対象「セーフティプロモーション講習会@豊中キャンパス」企画運営、2018年10月25日
- ・2018年度秋学期「防災体験学習フィールドトリップ@阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センタ

ー」企画引率、2018年11月1日

(学外)

- 豊中市「外国人のための防災フェア@豊中人権まちづくりセンター」企画運営、2018年10月20日
- 平成30年度 箕面市豊川南小学校地区「総合避難訓練」企画運営（外国人市民支援班）、2019年1月17日

(海外出張)

- 2018年7月27日～8月7日、アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市ほか、オレゴン州ユージーン市ほか、防災コミュニケーション調査研究およびUniversity of Oregonとの大学間交流協定の締結促進
- 2018年8月23日～8月28日、タイ国バンコク市、JASSO留学フェア参加およびChulalongkorn Universityでの防災教育・国際交流プログラム視察・JETROバンコクオフィス・読売新聞社バンコク支局など表敬訪問

(来訪者対応)

- 2018年10月19日、Li-Hsien Yang先生（East Asia Programs Director, University of Oregon）、近藤教授、後藤特任准教授、中野特任助教

1. 専門分野

留学生教育、社会心理学、ディスコース分析

2. 授業担当

(1) 共通教育

○秋冬学期

Media and Communications in Japan

(2) 学部授業

○集中

共生行動論Ⅱ（人間科学部）

(3) 大学院授業

○集中

共生行動論特講Ⅱ（人間科学研究科）

(5) 国際交流科目

○春夏学期；日本の社会とイデオロギー

○秋冬学期；日本のメディアとコミュニケーション

(6) その他

○演習科目

学外連携実習（ExPERT）

○集中プログラム

グローバル長期インターンシップ（UNYV）

グローニンゲン短期滞在学修

ニュージーランド「異文化体験」演習

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）春夏学期 73 名

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）秋冬学期 98 名

(6) その他

Summer Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention 20 名

Winter Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention 15 名

Japanese Short-stay In-session Program (J-ShIP)

06.18.-08.09. Summer Program 45 名

01.07.-02.08. Winter Program 30 名

Extension Program for Education in Real-world Trainings (ExPERT) 4 名

4. 教育（学外）

広島大学・客員教授

5. 学内運営

阪神ネット実務者会議メンバー

カリフォルニア大学連携ワーキング

学生交流プログラム検討ワーキング

学生交流プログラム検討ワーキング OUSSEP サブワーキング座長

6. 外部資金

科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究（2016-2018） 16K13547

教育機関・プログラムと連携した地域家庭への留学生受入れ；ホームステイの研究（研究代表者）

7. 研究業績

(1) 論文

留学生との英語学習プログラム“Project HELP!”の実践報告：アンケート結果の分析を中心に 大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 23 号

(2) 著作

グローバル人材育成教育の挑戦；大学・高校での実践ハンドブック グローバル人材育成教育学会編 IBC 出版（分担執筆）ISBN 978-4-7946-0556-5

(3) 学会発表

Kumai, T. and Kondo, S “A Study on Contemporary-Style Homestay; Learning Outcomes and Inter-cultural Understandings” National Association of Foreign Student Advisors (NAFSA 2018 Annual Conference) (Poster session)

8. 学外運営

大阪府市都市魅力戦略推進会議委員

大阪府国際化戦略実行委員会委員

（公財）大阪府国際交流財団理事

（公財）吹田市国際交流協会理事副会長

住環境・就職支援東留学生の受入環境支援事業「CARES-Osaka」

阪大側運営委員

日本学生支援機構短期プログラム審査委員

官民協働「トビタテ！留学Japan」学識者選考委員

（公財）業務スーパージャパンドリーム財団奨学金選考委員

留学生教育学会理事・会長

アゴラブリタニカ（イギリス研究会）副会長

9. 会議運営

JAISE - KAIE Joint Seminar 2018 (October 31 – November 3, 2018)

主催：留学生教育学会 (JAISE)

後援：東洋大学

UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific)

※留学生教育学会会長として国際ネットワーキング会議の運営にあたった。

12. その他

2016/10 から（公財）英語検定協会およびBritish Council Tokyo と連携して日本人学生と留学生がペアワークをする Project HELP! (Harmonized English Learning Program) を実施。2018/08 には（株）甲南学園サービスと連携して、「HELP! Plus」を展開。高校生向け集中講座を運営し、HELP! のメンターとなった学生に優勝でメンタリングを行う機会を提供した。

中 野 遼 子

1. 専門分野

留学生教育、留学交流教育、異文化コミュニケーション

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○春夏学期

異文化コミュニケーションとパフォーマンス、“Intercultural Communication and Performance”

○秋冬学期

異文化コミュニケーションと言語、“Intercultural Communication and Language”

○集中

- ・イギリス「異文化体験」演習、“Pre-Study Abroad Intensive English Program in the UK”
- ・オーストラリア「異文化体験」演習、“Multicultural Interaction between Australia and Japan”
- ・ニュージーランド「異文化体験」演習、“Intercultural Experience in New Zealand”
- ・グローバル・長期インターンシップ、“Global Internship (Long Term)”
- ・学外連携実習、“ExPERT (Extension Program for Education in Real-world Trainings)”

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- ・OUSSEP学生 73 名（春夏学期）、98 名（秋冬学期）
- ・ExPERT学生 4 名
- ・夏季超短期プログラム マレーシア工科大学 20 名

(6) その他

- ・イギリス「異文化体験」演習 21 名
- ・ニュージーランド「異文化体験」演習 15 名
- ・国連ユースボランティアプログラム 3 名
- ・オーストラリア「異文化体験」演習 25 名
- ・教員による留学相談 98 名

5. 学内運営

- ・国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営 Sub WG 委員
- ・海外派遣候補者選考 WG 委員
- ・国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- ・国際教育交流センター 財務委員会 委員
- ・教員による留学相談 実施担当
- ・交換留学経験学生による留学相談 コーディネーター
- ・Project HELP! (Harmonized English Learning Program) コーディネーター

7. 研究業績

(1) 論文

- 「演劇創作プロセスにおける人的ネットワーク構築に関する考察——ネットワーク構築要因を中心に——」、中野遼子（2019）、『多文化関係学』第15号、多文化関係学会、有、pp.51-67
- 「留学生との英語学習プログラム“Project HELP!”の実践報告——アンケート結果の分析を中心に——」、中野遼子（2019）、『多文化社会と留学生交流』第23号、大阪大学国際教育交流センター、無、pp.35-41

(3) 口頭発表

- 「ホームステイと日本語学習効果に関する考察——大阪大学の日本語集中プログラムJ-ShIP参加学生を中心に——」（ポスター発表）、2018年8月22日、CAJLE（カナダ日本語教育振興会）2018年次大会、於：カナダ・ロンドン・ヒューロン大学、審査有
- 「学外連携型短期受入プログラム開発の試み——ExPERT（Extension Program for Education in Real-world Trainings）の実践報告を中心に——」（ポスター発表）、2018年12月18日、大阪大学第3回豊中地区研究交流会、於：大阪大学、無

12. その他

- 「国際交流科目 Teaching Tips 集作成ワークショップ——解決策編」、平成30年度秋冬学期・平成31年度春夏学期 国際交流科目担当教員およびTA予定者対象オリエンテーションおよびFD研修会の企画及びファシリテーター、2018年9月28日、於：大阪大学
- 株式会社甲南学園サービスセンターを実施主体とした「IELTSスピーキング&ライティング集中個別講座」（HELP!+）に、本学の学生メンターを募集・派遣するなど実施協力機関となり、新たに運営を開始、2018年8月1日～3日、於：甲南大学平生記念セミナーハウス

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、教育工学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○ 春夏学期

上級日本語（アカデミック・プレゼンテーション）

(3) 大学院

○ 春夏学期

応用マルチメディア論A

○ 秋冬学期

応用マルチメディア論B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春夏学期

JP600/700（アカデミック・プレゼンテーション）

(5) 国際交流科目

○ 春夏学期

総合日本語JA100

総合日本語JA500

○ 秋冬学期

総合日本語JA100

総合日本語JA500

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

○ 秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

(7) その他

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 1 (うち留学生は1)
- (2) 博士前期課程 2 (うち留学生は1)
- (3) 研究生 1 (うち留学生は1)

5. 学内運営

- 教育情報化WG
- CALL システム WG
- インターナショナルカレッジ教務委員会

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 15K02639 平成 27 年度～平成 30 年度「ICT 学習支援 オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究代表者 (期間延長)

7. 研究業績

- (3) 口頭発表
 - 「オンラインとリアルをつなぐ新しい日本語学習環境『OU 日本語ひろば』の構築」難波康治・義永美央子 第3回豊中地区合同研究発表会 2018 年 12 月 18 日 於: 大阪大学豊中キャンパス

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 査読・運営協力者
- 公益信託井内留学生奨学基金運営委員会委員

10. 講演

- 社会参加のためのオンライン教材「ミアンのチャレンジ日記」難波康治・簡珮鈴・立川真紀絵 文化庁日本語教育大会京都大会 2018 年 10 月 14 日 於: 京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス

1. 専門分野

言語哲学、言語心理学、日本語教育学

2. 授業担当

(3) 大学院

○ 春夏学期

応用言語学研究 A

言語文化教育論特別研究 A

○ 秋冬学期

応用言語学研究 B

言語文化教育論特別研究 B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春夏学期

IJ100 講義 (IJ100A・IJ100B 合同) 2 コマ

○ 秋冬学期

IJ100 講義

(5) 国際交流科目

○ 春夏学期

総合日本語 JA300-1

○ 秋冬学期

総合日本語 JA300-1

Psychology of language and Japanese language acquisition

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

○ 秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3 (うち留学生は 0)

(2) 博士前期課程 2 (うち留学生は 2)

(3) 研究生 1 (うち留学生は 1)

(4) 日本語集中コース生 18

4. 教育 (学外)

・ 関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 日本語教育研究 F (集中講義)

- ・京都外国語大学外国語学研究科 日本語教育研究Ⅲ（集中講義）

5. 学内運営

- ・評価委員会
- ・吹田地区事業場安全衛生委員会
- ・OUSSEP 運営サブWG
- ・Maple 運営 サブWG
- ・日本語・日本文化研修留学生プログラム実施WG
- ・博士課程教育リーディングプログラム 未来共生イノベーター博士課程プログラム 兼任（選抜・審査ワーキング・グループのメンバー）

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤C 課題番号 16K02811「ことば行為についての対話論的対照研究——対面的相互行為におけることばの日英研究」平成 28 年度～平成 31 年度（研究代表者）

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「言語教育におけるナラティブ主義とヴィゴツキーとバフチン」、西口光一、投稿、『ヴィゴツキー学』別巻第 5 号、学術論文、有、pp.97-104
- ・「[日本語・グローバル理解演習]のコンセプトと設計の指針」、大谷晋也・西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第 23 号、実践報告、無、pp.29-34

(3) 口頭発表

- ・「ナラティブと自己と日本語教育の企画」、第 1 回批判的言語教育国際シンポジウム、2018 年 7 月 1 日、於：武蔵野大学有明キャンパス
- ・「日英語における発話構築の基底特性——終助詞等に注目した日英の対話論的対照研究から」、2018 年 9 月 13 日、5th Cardiff Symposium of Applied Linguistics and Japanese Language Pedagogy、於：英国カーディフ

8. 学外運営

- ・公益財団法人日本語教育学会 査読・運営協力者
- ・国立大学日本語教育研究協議会 代表理事（2016 年 6 月から）

9. 会議運営

- ・第 12 回大阪大学専門日本語教育研究協議会「市民性教育と日本語教育」、2019 年 2 月 19 日（火）、於：コンベンションセンター 1 階研修室
- ・第 1 回大阪大学国際教育交流センター公開講座「本格的な外国人労働者受入れにあたって」、春原憲一郎氏（公益財団法人京都日本語学校校長）、2019 年 3 月 13 日（水）、於：銀杏会館 3 階大会議室

10. 講 演

- 「現実の社会的構成と言語 ― 第二言語教育（学）者のための社会学的教養 ―」、2018年6月29日、言語文化教育学会特別企画講演、於：早稲田大学
- 基調講演「表現活動中心の日本語教育の企画と実践の創造」、2018年8月31日（金）、シンポジウム：大学における基礎日本語教育 ― 実践の共有と課題の克服に向けて、於：ハノイ国家大学人文社会科学大学
- ハノイ国家大学人文社会科学大学東洋学部日本学科の教員を対象としたワークショップ「基礎日本語教育の実践の共有と課題の克服に向けて」、2018年8月31日（金）、於：ハノイ国家大学人文社会科学大学

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナーⅠ

○秋冬学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナーⅡ

(2) 学際融合教育科目

○春夏学期

アカデミックリーディングA（日本語）

○秋冬学期

アカデミックリーディングB（日本語）

(3) 大学院

○春夏学期

言語文化政策論A

○秋冬学期

言語文化政策論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春夏学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング JR600/700（日本語）

○秋冬学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング JR600/700（日本語）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 1（うち留学生1）

(2) 博士前期課程 1（うち留学生1）

(4) 日本語研修生 18

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生） 7

5. 学内運営

- ・日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG（日本語科目コーディネーター）
- ・男女協働推進センター会議委員

- ・ハラスメント相談室全学相談員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（A） 課題番号：15H02600 平成 27 年度～平成 30 年度「東南アジア地方自治ガバナンスに関する住民意識調査—フィリピンとインドネシアの比較」研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 30 年度「ICT 学習支援 オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」（研究代表者：難波康治）、研究分担者
- ・独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 平成 30 年度「東南アジアにおける地方自治の展開：自治体サーベイの分析」（主査・幹事：船津鶴代）、委員

7. 研究業績

(1) 論文

- ・“How Does New Public Management Work in the Philippines?: An Empirical Study on the Local Governments in the Third World”, Kenichi Nishimura, *Journal of Multicultural Education and Student Exchange*, Vol. 23, March 2019, pp.65-76.
- ・“A Local Governance Survey in the Philippines: Mayor Version”, Kenichi Nishimura, *New Waves of Decentralization in Southeast Asia: Local Governance Survey Data*, Institute of Developing Economies, March 2019, pp.58-91.
- ・「主観的ウェル・ビーイングにおける美容資本の役割は何か—2018 年インドネシアの地方自治意識調査の計量分析—」小林盾・西村謙一・川端健嗣、『ソーシャルウェルビーイング研究論集』第 5 号、2019 年 3 月、29-46 頁。
- ・「インドネシアにおける容姿の規定メカニズムの計量分析—美しさは生まれつきか、合理的な投資戦略か—」小林盾・西村謙一、『アジア太平洋研究』No.43、2018 年 11 月、197-208 頁。

(3) 口頭発表

- ・“Local Development Council and its Effect to the Local Development Planning in the Philippines”, Kenichi Nishimura, The 5th International Conference on Social Policy and Governance, South China University of Technology, October 27, 2018.
- ・「フィリピン地方自治における開発評議会の効果」西村謙一、アジア政経学会 2018 年度秋季大会、新潟大学、2018 年 11 月 24 日。
- ・“How do the Elements of Local Government affect the Performance of the Local Development Council in the Philippines”, Kenichi Nishimura, The 2018 Annual Conference of the Asian Group for Public Administration, University of the Philippines, November 28, 2018.

8. 学外運営

- ・兵庫県立高等学校 学校評議員、同 SGH 企画推進委員会委員長

12. その他

- ・日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当

1. 専門分野

言語学、音声学、日本語学、韓国語学

2. 授業担当

(3) 大学院

該当なし

(4) 留学生日本語プログラム

該当なし

(5) 国際交流科目

該当なし

(6) インターナショナルカレッジ

該当なし

3. 学生指導

該当なし

4. 教育（学外）

該当なし

5. 学内運営

該当なし

6. 外部資金

「個々の話者にとっての母語の母音カテゴリーと英語の母音の知覚・生成の関連について」（科学研究費補助金 基盤C 課題番号：16K02650 研究代表者：野澤 健）（2016年4月～2019年3月）研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「日本語の撥音の音声としての自然さに関する調査」、韓喜善、『大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト 2017 音声言語の研究 12』、学術論文、査読無、pp.65-72.

(3) 口頭発表

- ・「日本語の撥音の音声に関する調査——撥音に母音が後続する場合——」、韓喜善、『日本言語学会第156回大会』、2018年6月23日、東京大学.
- ・“Effects of the manner of articulation of the following consonant on the identification and discrimination of American English vowels by native speakers of Japanese and Korean,” Takeshi Nozawa and Heesun Han, The

joint 176th Meeting of the Acoustical Society of America (ASA) and 2018 Acoustics Week Canada of the Canadian Acoustical Association (CAA), 2018 年 11 月 7 日, Victoria, Canada

8. 学外運営

近畿音声言語研究会 世話役

9. 会議運営

該当なし

10. 講 演

該当なし

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

専門日本語 A

○秋冬学期

専門日本語 B

(2) 大学院

○春夏学期

言語技術研究 A

言語コミュニケーション論特別研究 A

○秋冬学期

言語技術研究 B

言語コミュニケーション論特別研究 B

(3) 留学生日本語プログラム

○春夏学期

日本語集中コース IJ200 (読解)

選択コース JW600/700 (アカデミックライティング)

○秋冬学期

日本語集中コース IJ200 (読解)

選択コース JW600/700 (アカデミックライティング)

(6) その他

○学際融合教育科目

前期「上級専門日本語 アカデミックライティング A」

後期「上級専門日本語 アカデミックライティング B」

○共通教育科目

春～夏学期「日本語表現に潜むジェンダー」 牟田和恵他「現代の差別を考える ― 女性学・男性学 ―」(オムニバス形式の講義担当)

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 2（うち留学生は1）
- (2) 博士前期課程 2（うち留学生は2）
- (3) 研究生1（うち留学生は1）
- (4) 日本語集中コース生 17
- (4) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 7

5. 学内運営

- ・教育課程委員会委員
- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員
- ・日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG座長
- ・ASEANキャンパス設置WGメンバー
- ・グローバル教育運営委員会オブザーバー
- ・人文系教育研究組織構想検討WG委員
- ・国際教育交流センター財務委員会委員長

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：16H03434 平成28年度～平成31年度「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」、（研究代表者：太田亨）研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：17K02878 平成29年度～平成31年度「アカデミック・ライティング技術の習得を目指したピア・レスポンスの実証的研究」、（研究代表者：鳥日哲）、研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究（A） 課題番号：15H01884 平成27年度～平成30年度「読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」（研究代表者：野田尚史）、連携研究者
- ・国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」共同研究員

7. 研究業績

(1) 論文

- ・劉偉・村岡貴子（2019）「学術的文章の引用に関する意識調査——中国人上級日本語学習者の事例分析——」『大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流』第23号、pp.77-89、査読無

(2) 著書

- ・村岡貴子（2018a）「第1章 ライティングと社会をつなぐライティング教育の視点」村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子編著『大学と社会をつなぐライティング教育』くろしお出版、pp.3-13
- ・村岡貴子（2018b）「第3章 ライティング活動とその内省から獲得する論文スキーマ」村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子編著『大学と社会をつなぐライティング教育』くろしお出版、pp.35-54

(3) 口頭発表

- ・村岡貴子（2018a）「論文執筆を目的とした日本語が学習者の読解」口頭発表、『日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明』研究発表会、2018.9.29、国立国語研究所、応募
- ・村岡貴子（2018b）「大学院日本語学習者のためのアカデミック・ライティング教育——論文スキーマ形成を促すために——」『作文研究 2018』口頭発表、2019.1.13、早稲田大学、招待
- ・村岡貴子（2019c）「学習者とコミュニティ・社会をつなぐ専門日本語教育の実践・研究の可能性」パネル・ディスカッション、『第四回「日本語教育の理論と実践をつなぐ」国際シンポジウム 予稿集』pp.24-26、2019.3.17、国際交流基金北京日本文化センター・北京日本学研究センター、高等教育出版社（北京）、招待
- ・太田亨・安龍洙・菊池和徳・村岡貴子（2019）「韓国人文系大学生と日韓理工系学生の「論理的文章」に対する意識の比較分析」『第 21 回専門日本語教育学会研究討論会誌』pp.34-35、2019.3.4、下関市立大学、査読有

8. 学外運営

- ・日本語教育学会調査研究推進委員会委員、2015 年 6 月～
- ・日本語教育学会審査・運営協力員、2017 年 9 月～
- ・専門日本語教育学会代表幹事、2015 年 3 月～
- ・専門日本語教育学会編集幹事・副編集長、2018 年 3 月～

9. 会議運営

- ・日本語教育学会春季大会「科研申請アドバイスセミナー：日本語教育学における科研の今とこれから」（日本語教育学会調査研究推進委員会）、2018 年 5 月 27 日、於：東京外国語大学
- ・日本語教育学会秋季大会「研究倫理セミナー：研究とその指導に必須の注意事項」（日本語教育学会調査研究推進委員会）、2019 年 11 月 25 日、於：プラサヴェルデ（沼津）

10. 講演

- ・村岡貴子（2018a）「上級日本語アカデミック・ライティング教育の方法——大学院在籍の学習者に対する観察を通して——」、九州大学言語文化研究院 学術講演会、2018.12.3、九州大学、招待
- ・村岡貴子（2018b）「ファーストステップを始めとする留学生受入れ・派遣プログラムのカリキュラムデザイン——大阪大学の事例——」講演、金沢大学国際機構FD研修会、2019.2.13、招待
- ・村岡貴子（2019）「日本語教育の実践をリソースとして学習者研究の深化・拡大へ——上級日本語アカデミック・ライティングの事例をもとに——」（基調講演③）『第四回「日本語教育の理論と実践をつなぐ」国際シンポジウム 予稿集』pp.15-20、2019.3.17、国際交流基金北京日本文化センター・北京日本学研究センター・高等教育出版社主催、北京、招待

12. その他

- ・日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目アドバイザー担当

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育科目

- 春夏学期
専門日本語
- 秋冬学期
専門日本語

(2) 学際融合教育科目

- 春夏学期
上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションA
- 秋冬学期
上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションB

(3) 大学院

- 春夏学期
言語コミュニケーション論A
言語コミュニケーション論特別研究A
- 秋冬学期
言語コミュニケーション論B
言語コミュニケーション論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

- 春夏学期
選択コースJC600/700 (アカデミックコミュニケーション)
- 秋冬学期
選択コースJC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

(5) 国際交流科目

- 春夏学期
総合日本語JA200-1
- 秋冬学期
総合日本語JA200-1

(6) インターナショナルカレッジ

- 春夏学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 203
- 秋冬学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 203

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 5 (うち留学生は1)
- (2) 博士前期課程 3 (うち留学生は1)

5. 学内運営

- ・人権問題委員会委員長 (全学)
- ・ハラスメント対策会議委員 (全学)
- ・学生生活委員会委員 (全学)
- ・学生支援小委員会委員 (全学)
- ・学生生活調査専門委員 (全学)
- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・国際教育交流センター教務委員長

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究 (B) 課題番号: 16H03435 平成 28 年度～平成 30 年度「多文化共生社会におけるホストパーソン・支援者の接触支援スキルと意識の変容」、研究代表者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号: 16K13243 平成 28 年度～平成 30 年度「ライフコースの視点からみた日本語教師の成長とキャリア支援プログラムの開発」、研究代表者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号: 16K13241 平成 28 年度～平成 30 年度「外国人の保護者のための学校配布プリントの研究」、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・義永美央子・潘英峰 (2019) 「学習支援の経験を通じた支援者の学び——図書館ラーニングサポーターの調査から——」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』23 号、pp.53-64、2019 年 3 月、査読無

(2) 著書

- ・ヴォダック, R・マイヤー, M. (2018) 『批判的談話研究とは何か』三元社 (第 9 章「批判的談話研究とソーシャルメディア——メディアの生態の変化における力、抵抗、批判」翻訳担当)
- ・本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子 (2019) 『日本語教育学の歩き方——初学者のための研究ガイド・改訂版——』大阪大学出版会

(3) 口頭発表

- ・義永美央子・金孝卿・渡部倫子・神吉宇一 (2018) 「日本語教育人材の支援スキルと意識の変容——日本国内の大学、学校、地域・行政で求められる資質・能力の再検討——」2018 年度日本語教育学会秋季大会パネルセッション、2018 年 11 月 24 日、於ブラサヴェルデ、査読有
- ・渡部倫子・義永美央子・本田弘之 (2018) 「ライフコースの視点からみた日本語教師の成長——アンケート調査の結果をもとに考える——」2018 年度日本語教育学会秋季大会交流ひろば、2018 年 11 月 24 日、於ブラサヴェルデ、査読無
- ・義永美央子 (2019) 「日本語教育学会受託・文化庁委託 中堅研修の概要」日本語教育学会 2018 年

度支部活動（関西支部）・日本語教育振興協会近畿地区教育集会、2019年2月9日、於大阪YMCA、招待

8. 学外運営

- 日本語教育学会 大会委員
- 社会言語科学会 査読協力者
- 言語文化教育研究学会 査読協力者
- 第二言語習得研究会 査読委員

9. 会議運営

- 2018年度日本語教育学会春季大会、企画運営、於東京外国語大学、2018年5月
- 2018年度日本語教育学会秋季大会、企画運営、於プラサヴェルデ、2018年11月

10. 講演

- 義永美央子（2018）「第二言語学習者の発達の可能性を探る ―ダイナミック・アセスメントの理論と実践―」日本語OPI研究会公開講演会、2018年10月27日、於東洋大学、招待

12. その他

- 文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」（事業区分：（2）日本語教育人材の研修カリキュラム開発④日本語教師【中堅】に関する研修）「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修事業」（JCN事業）事業アドバイザー

資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2018 年度 留学生日本語プログラム 時間割

春～夏学期・吹田キャンパス ：日本語集中コース専用 ：日本語選択コース ：国際交流科目 ：学際融合科目

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当
I 8:50 ～ 10:20	1			JB100T1-1 総合日本語	滑川						
	2			JB100T2-1 総合日本語	岡田						
	3										
	4										
	5			JB200-1 総合日本語	山崎						
	6			JB300-1 総合日本語	小原	JK202/302 漢字と語彙 (漢字系)	王	JK301 漢字と語彙 (非漢字系)	茶園 (TA)	JK201 漢字と語彙 (非漢字系)	劉東
II 10:30 ～ 12:00	1			チュートリアル IJ100	スネー (TA)			チュートリアル IJ100	茶園 (TA)	JB100T1-2 総合日本語	上仲
	2			IJ200	山崎	チュートリアル IJ200	リナ (TA)	IJ200	村岡	IJ200	笹川
	3			IJ300	半田	IJ300	菅			JB100T2-2 総合日本語	竹内
	4					チュートリアル IJ150	笹川 (TA)			チュートリアル IJ150	笹川 (TA)
	5	合同講義	IJ100/150	西口						JB200-2 総合日本語	浦木
	6	我が国の保健サービスと医療ケア	杉本							JB300-2 総合日本語	梅本
III 13:00 ～ 14:30	1			IJ100	蔭山	IJ100	滝井	IJ100	蔭山	IJ100	梅本
	2			IJ200	畑中	IJ200	山崎	IJ200	小原	IJ200	笹川
	3			IJ300	西村	IJ300	半田	IJ300	菅	IJ300	王 (TA)
	4			IJ150	矢部	IJ150	浦木	IJ150	岡崎	IJ150	浦木
	5							アカデミックコミュニケーション JC400/500	韓		
	6	異文化コミュニケーションとパフォーマンス	中野								
IV 14:40 ～ 16:10	1			IJ100	蔭山	IJ100	滝井	IJ100	蔭山	IJ100	梅本
	2			IJ200	畑中			IJ200	小原		
	3							IJ300	花井		
	4			IJ150	矢部	IJ150	浦木	IJ150	半田	IJ150	浦木
	5					日本語テーブル		アカデミックコミュニケーション JP600/700	韓		
	6			アカデミックコミュニケーション JC600/700	義永			アカデミックコミュニケーション JW400/500	韓		
V 16:20 ～ 17:50	1										
	2										
	3										
	4										
	5					合同講義	IJ100/150				
	6	アカデミックリーディング JR600/700	西村	アカデミックライティング JW600/700	村岡						

時間帯	月			火			水			木			金		
	授	業	担当	講義室	授	業	担当	講義室	授	業	担当	講義室	授	業	担当
Ⅰ 8:50 ～ 10:20	JA100 -T1/T2	総合日本語 (講義)	難波	全学教育 C304	JA100 -T1	総合日本語	岡田	全学教育 C308	JA100 -T1	総合日本語	蔭山	基礎工学 研究科 B202			
	JA200 -T1/T2	総合日本語 (講義)	義永	全学教育 C408	JA100 -T2	総合日本語	花井	全学教育 C403	JA100 -T2	総合日本語	花井	全学教育 B306			
	JA300 -T1	総合日本語	畑中	全学教育 C404	JA200 -T1	総合日本語	上仲	全学教育 B306	JA200 -T1	総合日本語	滝井	全学教育 C408			
	JA300 -T2	総合日本語	岡崎	全学教育 C306	JA200 -T2	総合日本語	半田	全学教育 C107	JA200 -T2	総合日本語	半田	全学教育 C107			
	JA400 -T1	総合日本語	田中	全学教育 A313	JA300 -T1/T2	総合日本語 (講義)	西口	全学教育 C203	JA300 -T1	総合日本語	矢部	基礎工学部 B204			
	JA400 -T2	総合日本語	矢部	全学教育 C409	JA400 -T1	総合日本語	畑中	全学教育 C406	JA300 -T2	総合日本語	岡崎	基礎工学部 B205			
	JA500 -T1	総合日本語	菅	全学教育 C107	JA400 -T2	総合日本語	矢部	基礎工学研究 B104	JA400 (講義)	総合日本語	勝田	豊中総合学館 4階 L6			
	JA500 -T2	総合日本語	滝井	全学教育 C104	JA500 -T1	総合日本語	藤澤	全学教育 C204	JA500 -T1/T2	総合日本語 (講義)	難波	文法経 講義棟 32 講義室			
	JA600 -T1/T2	総合日本語 (講義)	大谷	全学教育 C206	JA500 -T2	総合日本語	滝井	全学教育 C205	JA600 -T1	総合日本語	小原	文法経 講義棟 演習室 3			
					JA600 -T1	総合日本語	岡崎	全学教育 C307	JA600 -T2	総合日本語	伊藤	法経研究棟 505 セミナー室			
Ⅱ 10:30 ～ 12:00					JA600 -T2	総合日本語	佐川	全学教育 C305							
Ⅲ 13:00 ～ 14:30															
Ⅳ 14:40 ～ 16:10															
Ⅴ 16:20 ～ 17:50	専門日本語		義永	共 C 207 (HALC3)	総合日本語		大谷	共 C 208 (HALC4)	専門日本語		村岡	共 C 405	多文化コミュニケーション	有川	共 B 206
	多文化コミュニケーション		岡本	共 A 312 (HALC2)	総合日本語		西村	共 C 107	多文化コミュニケーション		大谷	共 B 307	多文化コミュニケーション	北山	共 B 206

秋～冬学期・吹田キャンパス

□：日本語集中コース専用 □：日本語選択コース

■：KOSMOS

■：国際交流科目

時間帯	月		火		水		木		金	
	講義室	授 業	担 当	授 業	担 当	授 業	担 当	授 業	担 当	授 業
I 8:50 ～ 10:20	1									
	2									
	3			山崎						総合日本語 JB200T1-2
	4									総合日本語 JK201 漢字と語彙 (非漢字系)
	5									
	6									
II 10:30 ～ 12:00	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
III 13:00 ～ 14:30	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
IV 14:40 ～ 16:10	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
V 16:20 ～ 17:50	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	1									
	2									
	3									

時間帯	月			火			水			木			金		
	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室
I 8:50 ～ 10:20	JA100-T1/T2/T3 総合日本語 (講義)	難波	B108	JA100-T1 総合日本語	岡田	C405	JA100-T1 総合日本語	蔭山	C105	JA100-T1 総合日本語	蔭山	C105			
	JA200-T1/T2 総合日本語 (講義)	義永	C305	JA100-T2 総合日本語	花井	C403	JA100-T2 総合日本語	花井	C107	JA100-T2 総合日本語	花井	C107			
	JA300-T1 総合日本語	畑中	C404	JA100-T3 総合日本語	佐川	B206	JA100-T3 総合日本語	佐川	A301	JA100-T3 総合日本語	佐川	A301			
	JA300-T2 総合日本語	岡崎	C107	JA200-T1 総合日本語	上仲	C305	JA200-T1 総合日本語	滝井	C-S3	JA200-T1 総合日本語	滝井	C-S3			
	JA400-T1 総合日本語	田中	A313	JA200-T2 総合日本語	半田	C204	JA200-T2 総合日本語	半田	C106	JA200-T2 総合日本語	半田	C106			
	JA400-T2 総合日本語	矢部	B306	JA300-T1/T2 総合日本語 (講義)	西口	C306	JA300-T1 総合日本語	矢部	C306	JA300-T1 総合日本語	矢部	C306			
	JA500-T1 総合日本語	菅	C409	JA400-T1 総合日本語	畑中	C205	JA400-T1 総合日本語	岡崎	C404	JA400-T1 総合日本語	岡崎	C404			
	JA500-T2 総合日本語	滝井	C104	JA400-T2 総合日本語	矢部	B306	JA400-T2 総合日本語	勝田	豊中総合学館 L4	JA400-T2 総合日本語 (講義)	勝田	豊中総合学館 L4			
	JA600-T1/T2 総合日本語 (講義)	大谷	B307	JA500-T1 総合日本語	藤澤	C307	JA500-T1 総合日本語	難波	文法経 32 番教室	JA500-T1/T2 総合日本語 (講義)	難波	文法経 32 番教室			
				JA500-T2 総合日本語	滝井	C107	JA500-T2 総合日本語	小原	A311	JA600-T1 総合日本語	小原	A311			
II 10:30 ～ 12:00	JA100-T4/T5 総合日本語 (講義)	難波	C207	JA100-T4 総合日本語	畑中	C205	JA100-T4 総合日本語	伊藤	文法経 3F31 講義室	JA100-T4 総合日本語	伊藤	文法経 3F31 講義室			
	KOSMOS	立光	C-S4	JA100-T5 総合日本語	山田	A214	JA100-T5 総合日本語	花井	C107	JA100-T5 総合日本語	花井	C107			
							KOSMOS	日本事情 異文化適応	C105	KOSMOS	日本事情 異文化適応	C105			
III 13:00 ～ 14:30	KOSMOS	立光	C207				KOSMOS	数学	C-S4	KOSMOS	数学	C-S4			
	KOSMOS	宮田	C304				KOSMOS	専門基礎 日本語②	C-S4	KOSMOS	専門基礎 日本語②	C-S4			
V 16:20 ～ 17:50	専門日本語	義永	共 A212 (HALC1)	専門日本語	大谷	共 C 207 (HALC3)	専門日本語	村岡	共 C 405	総合日本語	勝田	共 C 207 (HALC3)			
	多文化コミュニケーション	岡本	共 C404	多文化コミュニケーション	西村	共 C 203	多文化コミュニケーション	大谷	共 B 307	多文化コミュニケーション	後藤	共 C 208 (HALC4)			

資料2 2018年度 留学生日本語プログラム(選択コース)履修登録者数一覧

2-1 春～夏学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*4}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	3	1		2		
人間科学研究科/人間科学部	8	3	5			
法学研究科/法学部	3	3				
経済学研究科/経済学部	6	4				2
理学研究科/理学部	7		6			1
医学系研究科/医学部	8	1	7			
歯学系研究科/歯学部	6		5	1		
薬学研究科/薬学部	6	2	4			
工学研究科/工学部	45	7	32	5	1	
基礎工学研究科/基礎工学部	7	4	1	1		1
言語文化研究科	7			7		
国際公共政策研究科	3			3		
情報科学研究科	11		7	2	1	1
社会経済研究所	1			1		
産業科学研究所	3			3		
生命機能研究科	2		1	1		
接合科学研究所	2			2		
レーザー科学研究センター	2			1	1	
免疫学フロンティア研究所	2			2		
蛋白質研究所	1			1		
国際教育交流センター ^{*3}	3			3		
計 ^{*5}	136	25	68	35	3	5

【特記事項】

*1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。

研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中コース生 17 名は、所属部局欄に記載されている。

*2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。

*3. 国際教育交流センター欄の研究生 3 名は、他大学配属日本語集中コース生。

*4. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。

*5. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。

また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	19	1	14	4		
200	38	1	27	9		1
300	26	5	11	8	2	
400	7	3	2	2		
500	16	6	4	5	1	
600	15	7		6		2
(超上級レベル) 700	15	3	10	2		
計	136	26	68	36	3	3

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。

2-2 秋～冬学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*4}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	4	2	0	0	1	1
人間科学研究科/人間科学部	5	3	1	1	0	0
法学研究科/法学部	4	3	1	0	0	0
経済学研究科/経済学部	11	9	0	0	0	2
理学研究科/理学部	8	0	6	1	0	1
医学系研究科/医学部	21	5	6	5	0	5
歯学系研究科/歯学部	6	0	4	2	0	0
薬学研究科/薬学部	6	5	0	1	0	0
工学研究科/工学部	85	15	52	6	3	9
基礎工学研究科/基礎工学部	9	6	2	0	1	0
言語文化研究科	6	-	0	6	0	0
国際公共政策研究科	5	-	0	5	0	0
情報科学研究科	10	-	5	3	1	1
生命機能研究科	4	-	2	2	0	0
微生物病研究所	2	-	-	2	0	0
産業科学研究所	7	-	-	7	0	0
蛋白質研究所	2	-	-	2	0	0
社会経済研究所	3	-	-	3	0	0
接合科学研究所	1	-	-	1	0	0
レーザー科学研究所	3	-	-	3	0	0
免疫学フロンティア研究センター	1	-	-	1	0	0
連合小児発達学研究科	2	-	0	2	0	0
国際教育交流センター ^{*3}	1	-	-	1	0	0
計 ^{*5}	206	48	79	54	6	19

【特記事項】

- *1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。
- *2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。
- *3. 国際教育交流センター欄の研究生1名は、他大学配属日本語集中コース生。
- *4. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。
- *5. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。
また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	45	1	27	3	3	11
200	30	3	15	9	1	2
300	37	5	17	14	0	1
400	27	11	3	7	1	0
500	20	7	3	12	1	2
600	27	16	2	6	0	3
(超上級レベル) 700	20	5	12	3	0	0
計	206	48	79	54	6	19

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。ただし、「ビジネス日本語コミュニケーション 500/600/700」は除く。

資料 3-1 国際交流科目授業時間割（平成 30 年 春・夏学期）

時 限	時 間	月	火		水		木		金	
		吹田キャンパス	豊中 / 吹田キャンパス		豊中 / 箕面キャンパス		豊中キャンパス		豊中 / 吹田キャンパス	
I	8:50 ～ 10:20		日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》			
			100 : 難波 康治 200 : 義永未央子 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 田中 真衣 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 菅 拱子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也		100-1 : 岡田亜矢子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1 : 畑中 香乃 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 藤澤 好恵 500-2 : 滝井 未来 600-1 : 岡崎 洋三 600-2 : 佐川 祥予		100-1 : 藤山 拓 100-2 : 花井 理香 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 半田佳奈子 300-1 : 矢部 正人 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 勝田 順子 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創			
			100 : 全学教育 C304 200 : 全学教育 C408 300-1 : 全学教育 C404 300-2 : 全学教育 C306 400-1 : 全学教育 A313 400-2 : 全学教育 C409 500-1 : 全学教育 C107 500-2 : 全学教育 C104 600 : 全学教育 C206		100-1 : 全学教育 C308 100-2 : 全学教育 C403 200-1 : 全学教育 B306 200-2 : 全学教育 C107 300 : 全学教育 C203 400-1 : 全学教育 C406 400-2 : 基礎工学 B104 500-1 : 全学教育 C204 500-2 : 全学教育 C205 600-1 : 全学教育 C307 600-2 : 全学教育 C305		100-1 : 基礎工学 B202 100-2 : 全学教育 B306 200-1 : 全学教育 C408 200-2 : 全学教育 C107 300-1 : 基礎工学 B204 300-2 : 基礎工学 B205 400 : 豊中総合会館 L6 500 : 文法経講義棟 32 600-1 : 文法経講義棟 演習室3 600-2 : 法経研究棟 505 セミナー室			
II	10:30 ～ 12:00	我が国の保健サービスと医療ケア 《医学系研究科》	日本法の諸問題 《法学部》	文化人類学入門 《人間科学部》	比較法の諸問題 《法学部》	近代日本文学 における大阪 《言語文化研究科》	芸術との科学の インターフェイ スー文理融合ア プローチの実践	日本の社会階層 《人間科学部》	多文化共生論 《人間科学部》	
		杉本 香奈	Elbalti Beligh	Mohacsi Gergely	Elbalti Beligh	村上スミス・ アンドリュウ	好井 千代	Paola CAVALIERE	Viktoriya KIM	
		IC Hall Room 6	文法経講義棟 22 講義室	全学教育 SC セミナー室 B	文法経講義棟 23 講義室	全学教育 SC セミナー室 A	文法経本館 464 講義室	人間科学部本 館 32	人間科学部本館 32	
III	13:00 ～ 14:30	異文化コミュニケーションと パフォーマンス 《国際教育交流センター》	比較社会学 《人間科学部》	ジェンダー論 《人間科学部》	知覚と認知の 心理学 《人間科学部》	身の回りの化学 《理学部》	基本的な権論 《人間科学部》			
		中野 遼子	Scott NORTH	Paola Cavaliere	森川 和則	石川 直人	Christie LAM			
		IC Hall Room 6	人間科学部 東館 404	全学教育 SC セミナー室 B	人間科学部 本館 34	理学部 E304	全学教育 C304			
IV	14:40 ～ 16:10		イノベーション の管理と変遷 《インターナシ ョナルカレッジ》	教育の社会学 《国際教育交 流センター》	日本の社 会とイデ オロジー 《国際教 育交流セ ンター》	政治学入門 《法学部》	異文化 理解演習 《外国語 学部》	家族と結婚の社会学入門 《人間科学部》	バイオエシックスとヘルス・ ロー：バイオテクノロジー、先 端医療、ヘルスケア・システ ムにおける法的諸問題 《法学部》	
			三森八重子	北山 夕華	近藤 佐知彦	Philip Streich	波多野 吉徳	Viktoriya KIM		瀬戸山 晃一
			全学教育推進 機構 C304	文理融合棟 4F 402	文理融合棟 講義室 501	全学教育 B316	外国語 学部 A101	全学教育 C304		豊中総合学館 L3
V	16:20 ～ 17:50		オンライン・リソースを 活用した L2 学習 《国際教育交流センター》					科学英語入門 《国際教育交流センター》	地球総合工学入門 ー持続可能な開発における地 球総合工学の役割ー 《工学部》	
			魚崎 典子					岡本 紗知	戸田 保幸	
			豊中教育研究棟 CALL 第 4 教室					全学教育 A114	工学部 S1-312	

資料 3-2 国際交流科目授業時間割（平成 30 年 秋・冬学期）

時 限	時 間	月		火		水		木		金	
		吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス		豊中/箕面キャンパス		豊中キャンパス		豊中/吹田キャンパス	
I	8:50 ～ 10:20			日本語 JA (100-1, 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-3, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-3, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》			
				100 : 難波 康治 200 : 義永未央子 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 田中 真衣 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 菅 摂子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也		100-1 : 岡田亜矢子 100-2 : 花井 理香 100-3 : 笹川恵美子 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1 : 畑中 香乃 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 藤澤 好恵 500-2 : 滝井 未来 600-1 : 岡崎 洋三 600-2 : 佐川 祥予		100-1 : 藤山 拓 100-2 : 花井 理香 100-3 : 笹川恵美子 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 半田佳奈子 300-1 : 矢部 正人 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 勝田 順子 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創			
				100 : 全学教育 B108 200 : 全学教育 C305 300-1 : 全学教育 C404 300-2 : 全学教育 C107 400-1 : 全学教育 A313 400-2 : 全学教育 B306 500-1 : 全学教育 C409 500-2 : 全学教育 C104 600 : 全学教育 B307		100-1 : 全学教育 C405 100-2 : 全学教育 C403 100-3 : 全学教育 B206 200-1 : 全学教育 C305 200-2 : 全学教育 C204 300 : 全学教育 C306 400-1 : 全学教育 C205 400-2 : 全学教育 B306 500-1 : 全学教育 C307 500-2 : 全学教育 C107 600-1 : 全学教育 A311 600-2 : 全学教育 C308		100-1 : 全学教育 C-S4 100-2 : 全学教育 C306 100-3 : 全学教育 A301 200-1 : 全学教育 C-S3 200-2 : 全学教育 C-S2 300-1 : 全学教育 C107 300-2 : 全学教育 C404 400 : 豊中総合会館 L4 500 : 文法経講義棟 32 600-1 : 全学教育 A311 600-2 : 文法経講義棟 31 講義室			
II	10:30 ～ 12:00	社会学 《人間科学部》		社会学入門 《人間科学部》	日本法の諸問題 《法学部》	近代・現代 日本文学 《言語文化研究科》	科学と社会 《国際教育交 流センター》	現代物理学の最前線 《理学部》		持続可能な社会 に向けた環境と エネルギー問題 《工学部》	文化人類学理論 と論文の書き方 《人間科学部》
		Viktoriya KIM		Viktoriya KIM	Elbalti Beligh	村上スミス・ アンドリュース	岡本 紗知	久野 良孝		藤田 清士	Christie LAM
		人間科学部東館 316		全学教育 SCセミナー室B	文法経講義棟 22	全学教育 SCセミナー室A	全学教育 C404	理学部 E210		情報科学研究科 A 110	人間科学部 本館 12
				日本語 JA (100-4, 100-5) 《国際教育交流センター》		比較法の諸問題 《法学部》	日本語 JA (100-4, 100-5) 《国際教育交 流センター》	日本語 JA (100-4, 100-5) 《国際教育交流センター》		メディア社会学 《人間科学部》	
				難波 康治		Elbalti Beligh	100-4 : 畑中 香乃 100-5 : 山田真知子	100-4 : 伊藤 創 100-5 : 花井 理香		Viktoriya KIM	
				全学教育 C207 (HALC3)		文法経講義棟 22 講義室	100-4 : 全学教育 C205 100-5 : 全学教育 A214	100-4 : 文法経講義棟 31 講義室 100-5 : 全学教育 C107		全学教育 C107	
III	13:00 ～ 14:30	国際理解入門 《工学部》	異文化 コミュニケーションと言語 《国際教育交 流センター》	マーケテ ィング 意思決定 《経済学 研究科》	シティズン シップと 多文化共生 《国際教育交 流センター》	グローバ ル化と 大学教育 《人間科 学部》	特別講義 (比較契約法・不法行為法の 諸問題) 《法学部》	*社会起業 《創成本部》	市民社会運動 《人間科学部》		
		藤田 清士/ 金子 聖子/ 中橋 真穂	中野 遼子	WIRAWAN DONY DAHANA	北山 夕華	Kim Mawer	Leonardo Ciano	伊藤 ゆかり	Christie LAM		
		工学部 C1-111	IC Hall Room 6	文法経 講義棟 32 番教室	文理融合棟 講義室 2	人間科学部 本館 41	文法経講義棟 23	全学教育 C207	全学教育 B316		
IV	14:40 ～ 16:10	多変量 統計科学 《人間 科学部》	日本の サル学 《人間科 学部》	応用理工 学入門 《工学研 究科》	比較思想史 《人間科学部》	ソーシャルイノ ベーションとソー シャルデザイン 《インターナシ ョナルカレッジ》	日本のメデ ィアとコミュニ ケーション 《国際教育交 流センター》	近現代日本 の諸事情 《国際教 育交流セ ンター》	異文化 理解演習 《外国語 学部》	*社会起業 《創成本部》	文化：その理解 へのアプローチ 《国際教育交 流センター》
		足立 浩平	中道 正之	安田 弘行	Wolfgang SCHWENTKER	三森八重子	近藤 佐知彦	後藤 厳寛	波多野 吉徳	伊藤ゆかり	有川 友子
		人間科学部 本館 33	人間科学部 本館 41	工学部 R1-211	人間科学部 東館 404	全学教育 C207 (HAL C3)	全学教育 A114	文理融合棟 講義室 2	外国語学部 A101	全学教育 C207	全学教育 C404
V	16:20 ～ 17:50	言語心理学と日本語の習得 《国際教育交流センター》		コンピュータを活用した語学学習 《国際教育交流センター》		日本の神話と伝説 《人間科学部》		アジアから考える グローバルヒストリー 《文学部》			
		西口 光一 IC Hall Room 5		魚崎 典子 豊中教育研究棟 CALL第4教室		Irina HOLCA 全学教育 B306		秋田 茂 全学教育 C408			

* 秋学期のみで開講

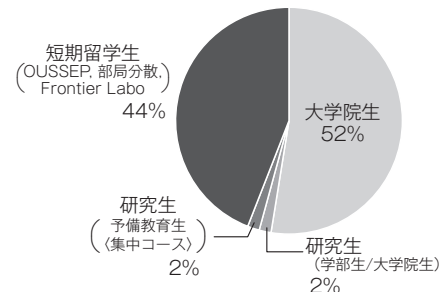
資料 4 日本語授業についてのアンケート

2018 年度 春～夏学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆身分 回答者のみ

(1) 大学院生	31
(2) 研究生（学部生/大学院生）	1
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	1
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	26
計	59



* 延総受講者数 179 名のうち、アンケート回答者数 59 名（全体の約 33%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.5

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.2

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	3.3

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	2.8

(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.3

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	3.8

(5：高評価)

全科目平均値

B. 授業への感想

表への感想					(5：高評価)
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	

この授業は体系的に構成されていた。

4.0

教師は十分な準備をしていた。

4.9

教師の説明はわかりやすかった。

4.4

教師は質問にいていねいに答えてくれた。

4.7

練習やアクティビティは役に立った。

4.1

クイズや課題・テストなどは適切だった。

4.4

宿題の量は適切だった。

4.3

指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

4.3

この授業を受講してよかったと思う。

4.4

2018 年度 春～夏学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者：選択コース受講学生)

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ179名	のべ59名	32.96%

○各科目平均集計

1. 選択コース

科目名 設定	全科目 平均値		JB 100-T1	JB 100-T2	JB 200	JK 201	JK 202	JK 302	JB 300	JK 301	JC 400	JC 500	JW 400	JW 500	JC 600	JR 600	JR 700	JW 600	JW 700	JP 600																					
	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数																					
質問項目	(1)	59	179	8	10	3	9	10	29	6	16	0	6	1	7	2	14	1	10	1	7	3	16	1	3	2	12	3	13	4	4	3	5	2	2	4	9	4	4	1	3
	(2)		4.16	3.75	4.00	4.10	4.00	—	4.00	5.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	4.66	4.50	5.00	5.00	5.00																				
	(3)		3.32	2.37	3.00	2.70	2.83	—	2.00	4.00	2.00	5.00	2.99	3.33	3.00	3.99	5.00	4.50	5.00	4.75	4.00																				
	(4)		2.78	2.25	2.60	2.20	2.83	—	2.00	4.00	2.00	4.00	2.66	4.00	2.00	3.33	3.00	3.50	5.00	4.25	4.00																				
	(5)		3.29	3.12	3.00	3.10	3.33	—	3.00	3.50	5.00	4.00	2.50	4.00	2.00	1.33	2.99	2.00	3.00	2.75	3.00																				
	(6)		3.81	4.62	3.66	3.70	4.50	—	4.00	2.00	4.00	4.00	3.33	4.00	4.00	2.66	4.00	3.66	5.00	4.50	3.00																				
	(7)		4.00	4.75	4.66	0.38	3.83	—	3.00	2.50	3.00	5.00	4.00	3.50	5.00	3.66	5.00	3.99	5.00	5.00																					
	(8)		4.86	5.00	5.00	5.00	5.00	—	4.00	3.50	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	3.66	5.00	5.00	5.00	5.00																					
	(9)		4.37	4.62	4.66	3.90	4.00	—	4.00	2.50	5.00	4.00	4.33	4.00	4.50	4.33	5.00	3.99	5.00	5.00																					
	(10)		4.71	4.75	4.66	4.20	4.50	—	4.00	4.50	5.00	5.00	4.33	5.00	4.50	4.66	5.00	5.00	5.00	5.00																					
	(11)		4.14	4.42	4.66	3.60	3.83	—	4.00	2.00	3.00	5.00	4.33	4.00	4.00	3.33	5.00	3.66	5.00	5.00																					
	(12)		4.35	4.12	4.66	4.00	4.33	—	4.00	2.50	4.00	5.00	4.00	5.00	4.00	3.66	5.00	4.33	5.00	5.00																					
	(13)		4.32	3.75	4.66	3.70	4.50	—	4.00	2.50	5.00	5.00	4.00	4.00	4.50	3.99	4.25	4.33	5.00	5.00																					
	(14)		4.29	4.62	4.66	3.70	3.66	—	4.00	2.50	3.00	5.00	4.33	5.00	4.00	3.99	4.75	4.33	5.00	5.00																					
	(15)		4.37	4.75	4.33	4.10	4.50	—	4.00	2.00	4.00	4.00	4.66	5.00	4.50	3.99	4.75	4.33	5.00	5.00																					

設問内容

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	50%未満	50～70%	70～80%	80～90%	90%以上
1	2	3	4	5	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。	全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらい時間をかけましたか。	全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回のどのくらい時間をかけましたか。	全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5	
(5) あなたは、この授業中(90分)にいつものどのくらい自分から質問や発言をしましたか。	一度もしなかった	1回	2～3回	4～5回	6回以上
1	2	3	4	5	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。	ぜんぜん上達しなかった	ほとんど上達しなかった	すこしだけ上達した	かなり上達した	とても上達した
1	2	3	4	5	

B. 授業への感想

- (7) この授業は体系的に構成されていた。
(8) 教師は十分な準備をしていた。
(9) 教師の説明はわかりやすかった。
(10) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。
(11) 練習やアクティビティは役に立った。
(12) クイズや課題・テストなどは適切だった。
(13) 宿題の量は適切だった。
(14) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。
(15) この授業を受講してよかったと思う。

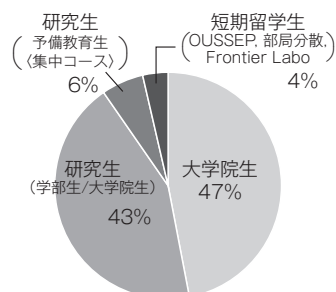
全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

2018 年度 秋～冬学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆身分 回答者のみ

(1) 大学院生	39
(2) 研究生（学部生/大学院生）	36
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	5
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	3
計	83



* 延総受講者数 294 名のうち、アンケート回答者数 83 名（全体の約 28.23%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5		4.3
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5		4.3
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5		3.0
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5		2.7
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5		3.0
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5		3.9

B. 授業への感想

授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------

(1) この授業は体系的に構成されていた。

4.3

(2) 教師は十分な準備をしていた。

4.6

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

4.5

(4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。

4.7

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

4.2

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

4.4

(7) 宿題の量は適切だった。

4.3

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

4.2

(9) この授業を受講してよかったと思う。

4.5

資料 5 国際交流科目 授業アンケート (質問票)

International Exchange Subjects 2018 Fall and Winter Semester Final Questionnaire on the Subject you attended

Conducted by Center for International Education and Exchange

*Note:

This format of the questionnaire is for all exchange students. If you are NOT an exchange student, please answer to the Japanese questionnaires instead.

The main purpose of this survey is to enhance the educational effect and teaching quality of the instructors in the rest of the semester. The information may be used only by the instructor, coordinator and the staff of the program as reference for study and educational purposes.

Your answers to the questions below are irrelevant to your grade. Do NOT write your name.

Please spend at least 10 minutes to answer the questionnaires.

Do NOT submit this sheet to the instructor, please submit it after you have filled in to the designated students.

1. Which is your program?

A: OUSSEP B: iExPO C: Frontier Lab D: Maple
E: International-College (G30) CBCMP, F: International-College (G30) HUS, G: Others

2. Title of the Subject:

3. Name of the instructor:

4. Which below-mentioned field is your major close to?

1 ☐ Dentistry, 2 ☐ Economics, 3 ☐ Engineering, 4 ☐ Engineering-Science
5 ☐ Foreign Studies, 6 ☐ Human Sciences, 7 ☐ Information Science and Technology,
8 ☐ International Public Policy, 9 ☐ Language and Culture, 10 ☐ Law and Politics, 11 ☐ Letters,
12 ☐ Medicine, 13 ☐ Pharmaceutical, 14 ☐ Sciences, 15 ☐ Others

5. How often did you attend this class so far?

A: all B: 80%~ C: 60%~ D: 50~59% E: less than half

6. (a) Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?

(Osaka University would encourage the international students to transfer the academic credits)

Yes No

(b) If "No", please choose the reason.

A: I'm an Osaka University's student.

B: I can transfer, but I don't need credits.

C: I cannot transfer.

D: other

7. Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.

8. Are you satisfied with this class?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

<Continue to the reverse side>

9. To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?
A: yes, very much B: to some extent C: not so much D: not at all
10. Is the lecture understandable?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
11. Does the instructor speak English understandably?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
12. Is the class conducted in accordance with the syllabus?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
13. Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
14. Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.
A: too much B: adequate C: not enough (insufficient)
15. Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently?
Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?
A: yes, very much B: to some extent C: not at all
16. (a) Is there any TA in the class? Yes No
(b) If Yes, how well does the TA contribute?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
17. Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. Audio-visual material, Field trip, Experiments, discussion, quiz, etc.)
18. Let us know your suggestion or advice to improve the class.
19. Please write other comments and frank opinions freely, if any.

Thank you so much for your cooperation!

資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果）

1	Which is your program?	Answer	Num.	NA: 14 3% G: 65 16% F: 32 8% A: 285 68% F: 13 3% C: 5 1% B: 6 1% Legend: □ A: OUSSEP □ B: iExPO □ C: Frontier Lab □ D: Maple ■ E: G30-CBCMP ■ F: G30-HUS ■ G: Others ■ NA
		A: OUSSEP	285	
		B: iExPO	6	
		C: Frontier Lab	5	
		D: Maple	0	
		E: G30-CBCMP	32	
		F: G30-HUS	13	
		G: Others	65	
		NA	14	
		Total Num.	420	
2	Subject	All the International Exchange Subjects (a number of subjects included)		
4	Your Major	Answer	Num.	Dentistry 0 Economics 57 Engineering 49 Engineering-Science 14 Foreign Studies 32 Human Sciences 63 Information Science and Technology 15 International Public Policy 7 Language and Culture 36 Law and Politics 41 Letters 16 Medicine 0 Pharmaceutical 0 Sciences 81 Others 5 NA 4
		Dentistry	0	
		Economics	57	
		Engineering	49	
		Engineering-Science	14	
		Foreign Studies	32	
		Human Sciences	63	
		Information Science and Technology	15	
		International Public Policy	7	
		Language and Culture	36	
		Law and Politics	41	
		Letters	16	
		Medicine	0	
		Pharmaceutical	0	
		Sciences	81	
		Others	5	
		NA	4	
Total Num.	420			
5	How often did you attend this class so far?	Answer	Num.	D: 3 1% E: 4 1% NA: 1 0% C: 8 2% B: 166 39% A: 238 57% Legend: □ A: all □ B: 80%~ □ C: 60%~ □ D: 50~59% ■ E: less than half ■ NA
		A: all	238	
		B: 80%~	166	
		C: 60%~	8	
		D: 50~59%	3	
		E: less than half	4	
		NA	1	
		Total Num.	420	
6 (a)	Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?	Answer	Num.	NA: 7 2% B: 132 31% A: 281 67% Legend: □ A: Yes □ B: No ■ NA
		A: Yes	281	
		B: No	132	
		NA	7	
		Total Num.	420	
6 (b)	If "No", please choose the reason.			D: 7 5% NA: 0 0% A: 45 32% B: 40 28% C: 49 35% Legend: □ A: I'm an Osaka University's student □ B: I can transfer, But I don't need credits. □ C: I cannot transfer. □ D: Other ■ NA
	Answer	Num.		
	A: I'm an Osaka University's student	45		
	B: I can transfer, But I don't need credits.	40		
	C: I cannot transfer.	49		
	D: Other	7		
	NA	0		
Total Num.	141			

7	Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.																		
	OUSSEP completion,Interest,Credits, Interest subjects being discussed each week.																		
	I think that it is a very important topic to talk about.																		
	For internationa cultural exchanges with the students taking the class.																		
	Have chance to get along with Japanese students.																		
	To understand various culture. Interesting cultural differences.																		
	I wanted to learn more about Japan.																		
8	Are you satisfied with this class?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>178</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>152</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>75</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>12</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>3</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>420</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	178	B: almost always	152	C: to some extent	75	D: not so much	12	E: not at all	0	NA	3	Total Num.	420	□ A: yes,very much □ B: almost always □ C: to some extent □ D: not so much □ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	178																		
B: almost always	152																		
C: to some extent	75																		
D: not so much	12																		
E: not at all	0																		
NA	3																		
Total Num.	420																		
9	To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>49</td></tr><tr><td>B: to some extent</td><td>68</td></tr><tr><td>C: not so much</td><td>123</td></tr><tr><td>D: not at all</td><td>177</td></tr><tr><td>NA</td><td>3</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>420</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	49	B: to some extent	68	C: not so much	123	D: not at all	177	NA	3	Total Num.	420	□ A: yes,very much □ B: to some extent □ C: not so much □ D: not at all ■ NA		
Answer	Num.																		
A: yes,very much	49																		
B: to some extent	68																		
C: not so much	123																		
D: not at all	177																		
NA	3																		
Total Num.	420																		
10	Is the lecture understandable?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>220</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>148</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>43</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>8</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>1</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>420</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	220	B: almost always	148	C: to some extent	43	D: not so much	8	E: not at all	1	NA	0	Total Num.	420	□ A: yes,very much □ B: almost always □ C: to some extent □ D: not so much □ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	220																		
B: almost always	148																		
C: to some extent	43																		
D: not so much	8																		
E: not at all	1																		
NA	0																		
Total Num.	420																		
11	Does the instructor speak English understandably?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>264</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>118</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>34</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>3</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>1</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>420</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	264	B: almost always	118	C: to some extent	34	D: not so much	3	E: not at all	0	NA	1	Total Num.	420	□ A: yes,very much □ B: almost always □ C: to some extent □ D: not so much □ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	264																		
B: almost always	118																		
C: to some extent	34																		
D: not so much	3																		
E: not at all	0																		
NA	1																		
Total Num.	420																		
12	Is the class conducted in accordance with the syllabus?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>309</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>87</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>21</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>2</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>1</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>420</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	309	B: almost always	87	C: to some extent	21	D: not so much	2	E: not at all	0	NA	1	Total Num.	420	□ A: yes,very much □ B: almost always □ C: to some extent □ D: not so much □ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	309																		
B: almost always	87																		
C: to some extent	21																		
D: not so much	2																		
E: not at all	0																		
NA	1																		
Total Num.	420																		

13	Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?	Answer	Num.	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
		A: yes,very much	283	
		B: almost always	103	
		C: to some extent	29	
		D: not so much	3	
		E: not at all	1	
		NA	1	
		Total Num.	420	
14	Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.	Answer	Num.	Legend: □ A: too much ▒ B: adequate ▓ C: not enough (insufficient) ■ NA
		A: too much	45	
		B: adequate	358	
		C: not enough(insufficient)	17	
		NA	0	
		Total Num.	420	
15	Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?	Answer	Num.	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: to some extent ▓ C: not at all ■ NA
		A: yes,very much	322	
		B: to some extent	90	
		C: not at all	6	
		NA	2	
		Total Num.	420	
16	Is there any TA in the class?	Answer	Num.	Legend: □ A: Yes ▒ B: No ■ NA
		A: Yes	241	
		B: No	170	
		NA	9	
		Total Num.	420	
	If YES, how well does the TA contribute?	Answer	Num.	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
		A: yes,very much	137	
		B: almost always	58	
		C: to some extent	38	
		D: not so much	6	
		E: not at all	7	
		NA	0	
		Total Num.	246	
17	Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain.	Provide some audio-visual material or go on a field trip together.		
		I really liked the very motivated lectures, and the handouts. The practical experiment lessons were awesome.		
		Watching videos and seeing photos and graphs were very beneficial. The field trip was a fantastic experience.		
		The workshop is very interesting		
		The group work is a great opportunity to get to know students from other countries and also Japanese students.		
		Reading materials which provide more depth to what is discussed in the lecture.		
		Reading materials which provide more depth to what is discussed in the lecture.		
		The guest lectures are really great, we get to see so many different point of views.		
		Teaching method was great. Occasional videos, interesting articles.		
		Maybe go on some field trip or put audio-visual material.		

18	Let us know your suggestion or advice to improve the class.
	Since this class is useful for many of the Japanese students, I hope that it is intended for both undergraduate and graduate students.
	Make handouts available online.
	Maybe bit more interaction discussion of groupthings.
	Introduce fewer authors so the students are able to focus on some of them.
	Maybe the presentations should be shorter, giving the teacher more time to elaborate.
	Quite inspiring discussions with students from all over the world. Informative guest speakers who can share their stories with us.
	I think more discussions, and background introductions could be included.
	It's difficult to suggest too much the class is huge. Maybe more group discussioons like the beginning of the semester?
	It will be better if the guest speakers contents are more closely connected to the lectures given by professor.
	More presentation by the teacher.
19	Please write other comments and frank opinions freely, if any.
	I loved his enthusiasm, which made me enthusiastic about the course, too.
	I enjoyed this class and would recommend it to everyone.
	So far satisfied,thanks for teaching this semester.
	Frankly, this was one of my favorite classes in this semester. The quality of the weekly readings is amazing and I could enjoy all of them (with maybe one exception). The class itself was a lot of fun, the grading policy is absolutely transparent and Sensei creates a great atmosphere in class. I would recommend this class to any OUSSEP student.
	The class was great, especially with the guest speaker.
	I really enjoyed this class but I am really critical of the attitude many students were taking. I think the lass size is too big.
	I love this class and the teacher is very nice. I really enjoy coming to this class every week, thank you very much.

2018年度 年 報

2019年7月20日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号

電話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

印刷所：株式会社 遊 文 舎

